

# 布目・前谷地

—— 新潟県柏崎市 布目・前谷地遺跡発掘調査報告書 ——

2019  
(平成31年)

柏崎市教育委員会

# 布目・前谷地

—— 新潟県柏崎市 布目・前谷地遺跡発掘調査報告書 ——

2019  
(平成31年)

柏崎市教育委員会





a. 布目遺跡調査区近景

(南から)



b. 布目遺跡出土遺物

巻頭図版2



a. 前谷地遺跡調査区近景

(南西から)



b. 前谷地遺跡出土遺物

# 序

柏崎平野の南側に広がる高田地区は、平安時代には湿地帯が広がっていました。付近には小川が幾筋も流れ、生活や農業用水として利用されていたようです。湿地に隣接する微高地も各地にみられ、水田を開発し耕作する人々の居住地として活用されていました。本書で報告する布目遺跡と前谷地遺跡もこうした環境のもとで営まれた集落であり、隣り合う農村だったと考えられます。このうち前谷地遺跡は小丘陵の裾野まで広がりをもち、現在も堀集落として生活が営まれています。

発掘調査範囲は幅2.5mと狭く、各遺跡の全体像を知ることはできませんでした。しかし、平安時代中頃を中心とする土器類が多く出土し、当時の日常的な暮らしをうかがうことができます。漁具となる土製品や刃物を研ぐ砥石も複数発見され、生活に必要な道具であったことが分かります。建物を構成する柱穴も微高地から発見されています。一方、付近の里山では同時期に大規模な鉄生産が行われていました。集落の人々は農業のかたわら鉄生産にも関わっていたと推定されます。本書はこのような成果を記したささやかな調査報告書ですが、今後、地域の歴史を知るための一助となれば幸いです。

最後に、経営体育成基盤整備（は場整備）事業の事業主体者である新潟県、調査に格別なる御協力と御配慮をいただいた地域の皆様、御指導くださった新潟県教育委員会、発掘調査に携わった皆様や関係者各位に対し、深く感謝申し上げます。

平成31（2019）年3月

柏崎市教育委員会

教育長 本間敏博

# 例　　言

1. 本報告書は、新潟県柏崎市大字堀地内に所在する布目遺跡、前谷地遺跡で行われた発掘調査の記録である。
2. 本事業は、新潟県（担当：柏崎地域振興局農業振興部農村整備課）を事業主体とする経営体育成基盤整備（県営は場整備）事業 高田中部地区に伴う事前調査である。事業主体者と柏崎市が費用負担契約を締結し、柏崎市教育委員会が調査主体となって発掘調査を実施した。
3. 発掘調査に関する経費は 92.5%を事業主体者、受益者負担分の 7.5%を柏崎市が負担した。柏崎市の負担分については、国庫補助金・県補助金の交付を受けている。
4. 発掘作業における現場作業は、平成 29（2017）年 9 月 26 日に着手し、平成 29（2017）年 12 月 16 日まで実施した。整理作業については、現場作業終了後から本格的に着手し、平成 31（2019）年 3 月 8 日まで実施した。
5. 発掘調査の現場作業・基礎整理作業等は、柏崎市が藤村ヒューム管株式会社 本社営業部 柏崎営業所に業務委託して実施した。また、自然科学分析については、藤村ヒューム管株式会社から再委託を受けたパリノ・サーヴェイ株式会社により実施している。その他の業務は、柏崎市教育委員会 埋蔵文化財事務所（柏崎市西山町坂田）において、担当職員を中心に同事務所スタッフで行った。
6. 出土遺物（木製品は除く）には各遺跡名を「布目」「マエヤチ」と注記し、遺構名・グリッド・層序を併記した。
7. 本事業で出土した遺物ならびに調査や整理業務の過程で作成した図面・記録類は、すべて一括して柏崎市教育委員会が保管・管理している。
8. 本報告書の執筆は次のとおりの分担とし、編集は平吹が行った。

第Ⅱ章・第Ⅲ章・第Ⅳ章・第Ⅴ章・第Ⅶ章……丹 俊詞（藤村ヒューム管株式会社）

第Ⅳ章②……………春日 雅美・梅村 将盛（藤村ヒューム管株式会社）

第Ⅵ章……………パリノ・サーヴェイ株式会社

上記以外……………平吹 睦（柏崎市教育委員会）

9. 本報告書で使用した方位は座標北、座標値は世界測地系（測地成果 2011）である。
10. 本報告書で使用した土層断面の土層注記内の土色の表記および遺物観察表中の土器等の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局ならびに財團法人日本色彩研究所監修の「新版 標準土色帖」に準拠した。
11. 本報告書では布目遺跡、前谷地遺跡にわけて遺構の種別ごとに記号を用いて一連番号を付した。  
ピット、柱穴 = SKp、土坑 = SK、溝状遺構・河川跡 = SD
12. 発掘調査の準備段階から本報告書作成に至るまで、多くの方々や機関から御助力と御理解、ならびに御教示を賜った。ここに記して、厚く御礼を申し上げる。

堀町内会　高田中部地区活性化委員会 有限会社 中村農場 新潟県柏崎地域振興局

新潟県教育委員会 公益財團法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団 公益社団法人 柏崎市シルバー人材派遣センター 公益社団法人 小千谷市シルバー人材派遣センター（順不同、敬称略）

# 目 次

第Ⅰ章 序 説 .....	1
1 調査に至る経緯 .....	1
2 調査体制 .....	2
第Ⅱ章 遺跡をとりまく環境 .....	3
1 遺跡の位置と地理的環境 .....	3
2 遺跡周辺の歴史的環境 .....	5
第Ⅲ章 調査概要 .....	10
1 調査の目的と調査区の設定 .....	10
2 基本層序 .....	10
3 現地調査の方法 .....	13
4 整理作業の方法 .....	14
第Ⅳ章 遺 構 .....	15
1 遺構の概要 .....	15
2 遺構各説 .....	16
第Ⅴ章 遺 物 .....	22
1 遺物の概要 .....	22
2 遺物各説 .....	22
第VI章 自然科学分析 .....	30
第VII章 ま と め .....	36
1 調査の成果 .....	36
2 出土土器の様相 .....	37
<引用・参考文献> .....	39
<附 表> .....	41
附表1 布目遺跡遺構観察表 .....	41
附表2 前谷地遺跡遺構観察表 .....	43
附表3 布目遺跡遺物観察表 .....	45
附表4 前谷地遺跡遺物観察表 .....	47
<報告書抄録> .....	卷末

# 図版目次

## 図面図版

- 図版1 布目遺跡A区全体図  
図版2 布目遺跡B区全体図  
図版3 布目遺跡C、D区全体図  
図版4 布目遺跡遺構平面図(1/7)  
図版5 布目遺跡遺構平面図(2/7)  
図版6 布目遺跡遺構平面図(3/7)  
図版7 布目遺跡遺構平面図(4/7)  
図版8 布目遺跡遺構平面図(5/7)  
図版9 布目遺跡遺構平面図(6/7)  
図版10 布目遺跡遺構平面図(7/7)  
図版11 布目遺跡遺構個別図1  
図版12 布目遺跡遺構個別図2  
図版13 布目遺跡遺構個別図3  
図版14 布目遺跡遺構個別図4  
図版15 布目遺跡遺構個別図5  
図版16 前谷地遺跡全体図  
図版17 前谷地遺跡遺構平面図(1/2)  
図版18 前谷地遺跡遺構平面図(2/2)  
図版19 前谷地遺跡遺構個別図1  
図版20 前谷地遺跡遺構個別図2  
図版21 前谷地遺跡遺構個別図3  
図版22 前谷地遺跡遺構個別図4  
図版23 布目遺跡 遺物1  
図版24 布目遺跡 遺物2  
図版25 前谷地遺跡 遺物1  
図版26 前谷地遺跡 遺物2  
図版27 前谷地遺跡 遺物3  
図版28 前谷地遺跡 遺物4  
図版29 前谷地遺跡 遺物5  
図版30 布目・前谷地遺跡 遺物6

## 写真図版

- 図版31 布目・前谷地遺跡  
図版32 布目遺跡 調査区1  
図版33 布目遺跡 調査区2  
図版34 布目遺跡 基本層序  
図版35 布目遺跡 ピット1  
図版36 布目遺跡 ピット2  
図版37 布目遺跡 ピット3・土坑  
図版38 布目遺跡 溝1  
図版39 布目遺跡 溝2  
図版40 布目遺跡 溝3

- 図版41 布目遺跡 河川跡  
図版42 前谷地遺跡 調査区1  
図版43 前谷地遺跡 調査区2  
図版44 前谷地遺跡 基本層序  
図版45 前谷地遺跡 ピット1  
図版46 前谷地遺跡 ピット2  
図版47 前谷地遺跡 土坑  
図版48 前谷地遺跡 溝1  
図版49 前谷地遺跡 溝2  
図版50 布目遺跡 遺物1  
図版51 布目遺跡 遺物2  
図版52 布目遺跡 遺物3  
図版53 前谷地遺跡 遺物1  
図版54 前谷地遺跡 遺物2  
図版55 前谷地遺跡 遺物3  
図版56 前谷地遺跡 遺物4  
図版57 前谷地遺跡 遺物5  
図版58 布目・前谷地遺跡 遺物6

## 挿図目次

- 第1図 布目・前谷地遺跡の位置と柏崎の地形 /4  
第2図 布目・前谷地遺跡周辺の空中写真 /8  
第3図 布目・前谷地遺跡周辺の遺跡分布図 /9  
第4図 布目・前谷地遺跡 グリッド設定図 /11  
第5図 布目遺跡基本層序柱状図 /12  
第6図 前谷地遺跡基本層序柱状図 /12  
第7図 遺構の形態分類図 /15  
第8図 布目遺跡 出土遺物分布図 /23  
第9図 前谷地遺跡 出土遺物分布図 /24  
第10図 布目遺跡土器分類図 /25  
第11図 前谷地遺跡 須恵器分類図 /27  
第12図 前谷地遺跡 土師器分類図 /27  
第13図 暦年較正結果 /34  
第14図 木材 /35  
第15図 箕輪遺跡編年案 /38

## 挿表目次

- 第1表 布目・前谷地遺跡発掘調査体制 /2  
第2表 布目・谷地遺跡発掘調査工程表 /13  
第3表 布目遺跡 グリッド別出土遺物量 /24  
第4表 前谷地遺跡 グリッド別出土遺物量 /24  
第5表 樹種同定結果 /34  
第6表 放射性炭素年代測定および暦年較正結果 /34

# I 序 説

## 1 調査に至る経緯

### 1) 調査の原因と遺跡の発見

布目遺跡、前谷地遺跡は柏崎市大字堀地内に所在する。市街地からは南へ約4.5kmの距離となり、周囲は鶴川中流域右岸に形成された沖積地を利用した水田地帯である。東側には堀集落が存在する。

**調査の原因** 発掘調査の原因事業は、新潟県（担当：柏崎地域振興局 農業振興部 農村整備課）を事業主体とする経営体育成基盤整備事業 高田中部地区である。事業概要は水田の集積や水路整備などが計画された県営は場整備事業であり、面積は約38haとなる。平成26年度に事業採択を受け、平成27年度～31年度に工事を実施する計画であり、事業主体者との協議は平成24年度から開始した。事業範囲には周知の遺跡となる前掛り遺跡が所在し、未周知の遺跡が発見される可能性もあるため、協議により平成26年度に試掘・確認調査を実施する予定とした。調査にあたっては平成26年10月2日付柏振農第511号により柏崎地域振興局長から埋蔵文化財調査の依頼文書を受けている。北側に隣接する藤橋地区のは場整備事業については高田北部地区として平成24・25年に試掘調査を実施し、沢田遺跡が新発見されている〔柏崎市教委2014・同2015〕。

**現地踏査** 平成25年3月25～27日、遺物の散布状況を把握するための現地踏査を試掘・確認調査に先立って実施している。事業用地全域を対象とし、主に水路脇での遺物の散布状況を確認した。結果としては400点以上の土器類を中心とする遺物が採集されている。遺物は事業範囲の東側に多く散布する傾向があり、前掛り遺跡の推定範囲や沢田遺跡の隣接地からは目立った散布は確認できなかった。

**試掘・確認調査と遺跡発見** 試掘・確認調査は当初の予定どおり、平成26年の晩秋となる11月から実施した。前掛り遺跡の範囲特定や未周知遺跡の有無を確認することなどを調査の目的とし、事業範囲全域を対象として試掘・確認調査を実施するものとした。平成26年11月13日～12月5日まで、延べ15日間で調査を実施した。調査結果としては布目遺跡、丸山遺跡、前谷地遺跡の3遺跡が新発見された。前掛り遺跡については、推定範囲の一部から遺跡の存在が確認された〔柏崎市教委2016b〕。なお、現地踏査の結果では布目遺跡と丸山遺跡付近の遺物散布が顕著であり、遺跡の想定の目安となるものであった。

### 2) 本発掘調査に至る経緯

平成26年度末以降、事業主体者と本発掘調査の可否について協議を行った。試掘・確認調査で得られたデータをもとに遺跡の保護が可能・不可能な箇所について確認した。その結果、布目遺跡の推定範囲内を縦断する排水路新設工が幅1mを超える設計となるため、排水路部分（約1,125m<sup>2</sup>）を対象とした発掘調査が必要と判断された。また、前谷地遺跡についても幅1mを超える排水路が追加計画されたため、排水路部分（125m<sup>2</sup>）の発掘調査が必要となった。面整備については、両遺跡の推定範囲内では保護層確保のため盛土施工することを原則とし、現状保存する方針とした。一部盛土が不可能な範囲が生じるが、切土施工はしない（現況高維持）設計とするものとした。

文化財保護法の手続きとして、布目遺跡については平成29年2月23日付け柏振農第564号により事業主

体者から文化財保護法第94条に基づく通知がなされた。市教委では掘削幅1mを超える排水路を対象とした本発掘調査が必要であるとの意見を付して、3月1日付博第657号の2で副申した。県教育委員会からは3月7日付教文第1345号で本発掘調査を実施するよう通知があった。前谷地遺跡については平成29年2月23日付け柏振農第565号により事業主体者から文化財保護法第94条に基づく通知がなされた。市教委では幅1mを超える排水路を対象とした本発掘調査が必要である旨の意見を付して、3月1日付博第658号の2で副申した。県教育委員会からは3月7日付教文第1346号で本発掘調査を実施するよう通知があった。なお、両遺跡内の面整備工事については、工事立会で対応することで協議を進めた。

発掘調査は平成29年度の稲刈り後に実施し、整理作業および報告書刊行は平成30年度に行うことで事業主体者と協議を進めた。この内容は平成29年4月26日に事業主体者と市教育委員会で締結した覚書の内容に含まれている。また、費用の負担契約（発掘調査委託契約）については、平成29年4月28日に事業主体者と柏崎市で締結しており、費用負担割合は事業主体者が92.5%、柏崎市が農家負担分となる7.5%分となる。農家負担分については国・県の補助金を受けている。

発掘調査の実施にあたっては、布目遺跡に対し市教育委員会が平成29年9月29日付け博第589号で着手の報告を行い、11月8日から12月15日まで現地調査を実施し、12月28日付で県教育委員会に終了報告を提出している。前谷地遺跡に対しては、平成29年9月29日付け博第590号で市教育委員会が着手報告し、9月26日から11月7日まで現地調査を実施し、12月28日付け博第634号で県教育委員会に終了報告を提出している。

## 2 調査体制

平成29年度の現場業務から平成30年度の報告書刊行に至るまでの調査体制は第1表のとおりである。

調査主体 柏崎市教育委員会 教育長 本間敏博		
年 度	平成29(2017)年度	平成30(2018)年度
業 務	現場業務・整理業務	整理業務・報告書作成
所 管	博物館 球藏文化財係	
總 括	猪俣哲夫（教育部長） 田村光一（館長）	近藤拓郎（教育部長） 高橋達也（館長）
監 理	小池久明（館長代理兼球藏文化財係長）	
庶 務	重住知夏（非常勤職員）～平成29年12月 高野智佳（非常勤職員） 平成30年1月～	高野智佳（非常勤職員）
監督員	平吹 靖（主任・学芸員） 委託業務監督員	
調査担当	丹 俊詞 ※受託者（球藏文化財調査部）	平吹 靖（主任・学芸員）
調査員	徳間香代子（非常勤職員） 岡本郁栄 ※受託者（球藏文化財調査部）	徳間香代子（非常勤職員） 丹 俊詞 ※受託者（球藏文化財調査部） 春日雅美 ※受託者（球藏文化財調査部） 梅村将盛 ※受託者（球藏文化財調査部）
補助員	春日雅美 ※受託者（球藏文化財調査部） 梅村将盛 ※受託者（球藏文化財調査部）	
作業員	※受託者（球藏文化財調査部）	※受託者（球藏文化財調査部）

※<sup>1</sup> 平成29年度発掘調査業務委託受託者： 藤村ヒューム管株式会社 本社営業部 柏崎営業所  
(現場代理人：小見一英 (球藏文化財調査部))

※<sup>2</sup> 平成30年度報告書作成業務委託受託者：藤村ヒューム管株式会社 本社営業部 柏崎営業所

第1表 布目・前谷地遺跡発掘調査体制

## II 遺跡をとりまく環境

### 1 遺跡の位置と地理的環境

#### 1) 柏崎平野概観

柏崎市は、新潟県のはば中央に位置する人口約8万5千人（平成29年12月）ほどの地方都市で、行政的な地域区分では中越に属している。一般的に中越地方と呼ばれる地域は、魚沼郡域となる信濃川上流域や魚野川流域一帯を占める南部と、長岡市などが所在する信濃川中流域から柏崎平野にかけての北部に大別することが可能である。柏崎平野は、北部でも西半部に位置することになる。柏崎平野には、柏崎市のほか旧西山町と旧高柳町、そして刈羽郡刈羽村が含まれる。旧西山町と旧高柳町は平成17年に合併し、現在の柏崎市が誕生した。このため、柏崎平野の大半は柏崎市域が占めている。

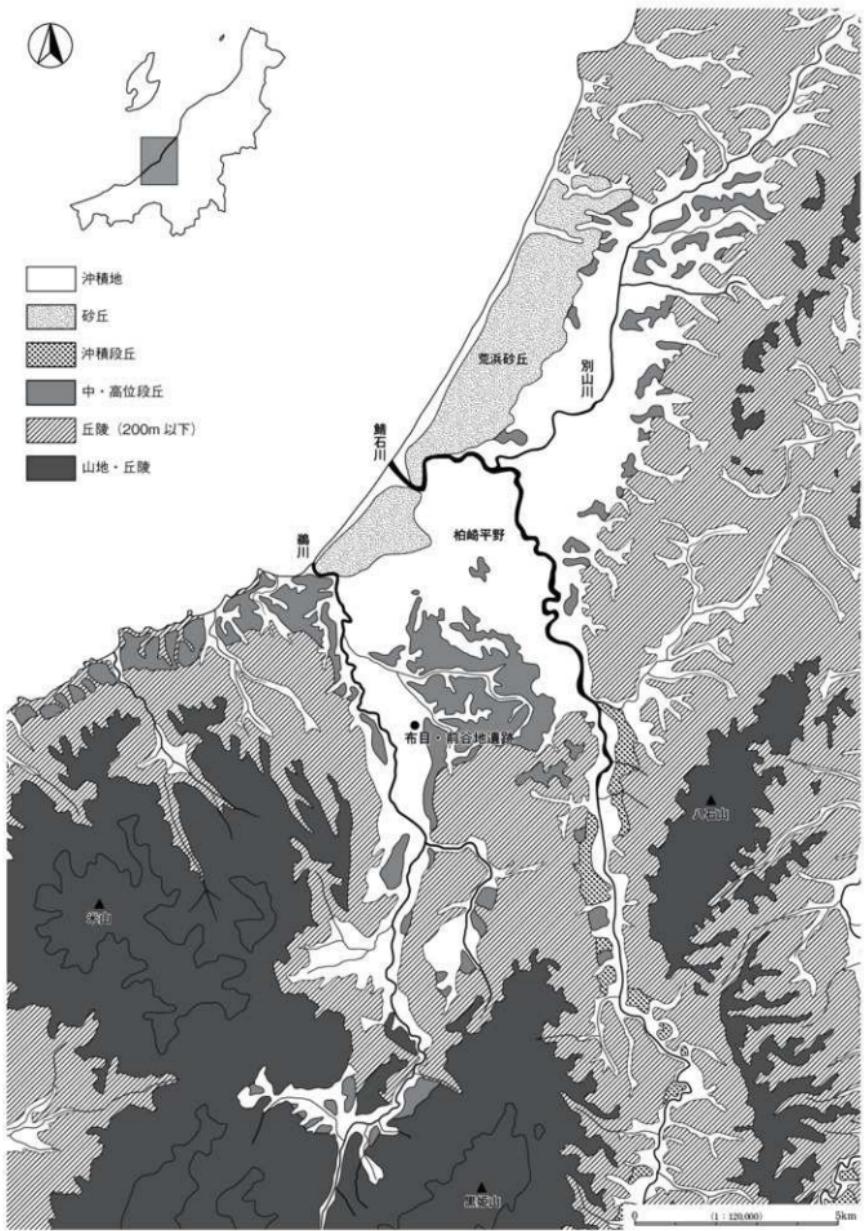
柏崎平野は、鯖石川と鶴川の二大主要河川により形成された臨海沖積平野であり、各河川は個々に独立した水系を持っている。全国でも有数の大河である信濃川水系や関川水系により形成された広大な頭城平野とは丘陵や山塊による分水嶺によって隔されており、一つの独立した平野を形成している。また、旧西山町を縱断する別山川は最終的に鯖石川に合流するが、約15kmの間で独自の水系をもつとらえることができる。

柏崎平野を取り巻く丘陵・山塊とは、東頭城丘陵の一部である。柏崎平野一帯の丘陵地形は、北流する鶴川・鯖石川によって西部・中央部・東部に3分され、それぞれ米山・黒姫山・八石山の刈羽三山を頂点とする。東部は北東方向の背斜軸に沿って、西山丘陵・曾地丘陵・八石山丘陵が北から規則的に並び、向斜軸に沿って別山川・長鳥川といった鯖石川の支流が南西に流れ出る。中央部は黒姫山を頂点に北へ緩やかに高度を下げ、沖積地に接する一帯は広い中位段丘を形成するとともに、その北側には湿地性の強い沖積地が広がっている。西部は米山を頂点とした傾斜の強い山塊で、現在も隆起を続けているとされており、これら山塊・丘陵地形の広がりは海岸まで達し、米山海岸と称される国定公園の景勝地を形成する。米山海岸の沿岸部には、低位・中位・高位の各段丘による断崖が顕著であり、沖積地は少なく海辺は漂石海岸で、砂浜もほとんど見られないことが特徴となっている。

また、柏崎の中央部に広がる沖積平野は、その北西正面部を日本海に洗われ、海岸に沿って荒浜・柏崎砂丘が横たわっているが、現在では柏崎の市街地がこれを覆っている。平野部をなす沖積地は、砂丘後背地として湿地性が強く、鶴川・鯖石川の蛇行により各所に幾筋もの自然堤防が形成されている。

#### 2) 鶴川中流域と遺跡周辺の地形

布目・前谷地遺跡が立地する鶴川中流域の地形は、東西幅約1.5km、南北約7kmの広い沖積地を形成しているが、南北両端とともに丘陵や尾根が沖積地の幅を狭め、上流域と下流域を地形的に分離している。これらの沖積地は、主に鶴川の氾濫・蛇行により形成されるが、鶴川の支流上条芋川の流路も大きく変動している。そのため旧河道痕や自然堤防の形成が著しい。この沖積地の標高は、南部でおよそ20m、北部では5mと低くなり、布目・前谷地遺跡周辺では6~7mほどの標高となっている。旧河道痕は主に東西の丘陵や段丘沿いに流路をとり、中央部が微高地状をなすが、旧鶴川はこれらを分断する形でも蛇行している。



第1図 布目・前谷地遺跡の位置と柏崎の地形

現在の鵜川は蛇行しながら西側の丘陵沿いを北流し、上条芋川、浦の川、軽井川などの支流が合流する。鵜川中流域の沖積地を見ると、左岸域と右岸域ではかなり異なった状況が看取でき、単純な右岸域に対し、左岸域は複雑な地形となっている。左岸域をみると新道裏手の風牧山を代表とするような段丘もしくは更新世の微高地が分布する。その風牧山の西側には一筋の沖積地が形成され、丘陵と風牧山とを分離するが、この沖積地はかなり古い鵜川、あるいはこれに替わる河川の河道痕ではないかと考えられる。左岸域に段丘が多いのは、丘陵部に接して北流する鵜川の存在を考えさせる。これに対して布目・前谷地遺跡が立地する右岸域は、低平な沖積地の広がりを特徴とする。集落は新道周辺に広がる一部を除けば沖積地内には分布しておらず、すべて東側丘陵沿いに接して展開しており、左岸域とは大きく様相が異なっている。この右岸域の沖積地は、現在水田としての整備が進み、市内でも有数な稻作地帯である。沖積地の地形はほ場整備のため、すべて平坦化されており、旧地形をとどめていない。

布目・前谷地遺跡の立地については、実際の地形が明確ではないが鵜川や上条芋川などによって形成された古い自然堤防上に古地していた可能性が高い。しかし、現地形では周囲との標高差がなく、地中には植物の腐食土層で覆われた部分が多く見られたことから、常に水害や増水による湛水などの危険にさらされていたことは確かなようである。

## 2 遺跡周辺の歴史的環境

### 1) 柏崎平野の歴史的環境

**古代** 越国が分割されて越後国が成立されるのは、庚寅年籍が作成される持統4年（690年）頃であったとされる。成立当初の越後国の領域は阿賀野川以北であり、柏崎平野はその時期には越中国に含まれていたとみられている。その後、大宝2年（702年）に越中国内の4郡であった頭城郡・古志郡・魚沼郡・蒲原郡が越後国に編入された。古志郡の成立当時の郡域は明らかではないが、現在の柏崎市・刈羽村・出雲崎町・長岡市等が含まれていたと推定される。政治的な中心施設となる郡衙は、長岡市（旧和島村）の八幡林遺跡、下ノ西遺跡などの調査成果から、別山川と分水嶺で北に分かれる島崎川流域に所在していたものと想定される。さらに、9世紀半ば頃に古志郡からは三島郡が分割され、その群域は概ね現在の柏崎平野周辺に相当すると考えられる。

承平年間（931～938年）に設立した『倭名類聚抄』によると、三島郡には三島・高家・多岐の3郷が記されている。三島郷は鵜川流域、高家郷は鯖石川中流域と長鳥川流域、多岐郷は別山川上中流域と大まかに想定される。また、延長5年（927年）の『延喜式』には北陸道の駅として三島駅と多太駅が三島郡内にあったとされている。三島駅については、「駅家村」と記された木簡が発見された箕輪遺跡周辺の鵜川下流域が、多太駅は大字曾地の多太神社周辺が比定地として想定されている。

**中世** 『吾妻鏡』文治2年（1186年）3月12日条の「三箇国庄々未進注文」には、柏崎平野に否定される莊園として「宇河（鵜河）莊」、「佐橋（鯖石）」、「比角莊」の3つの莊園が記されている。これらは寄進地系莊園として11世紀末から12世紀中葉には成立したと考えられ〔荻野1993〕、これ以後、『倭名類聚抄』に記された郡郷名は廃れて、莊園名で呼ばれることとなる。しかし、これらの莊園の領域は明確にされておらず、地名等から大まかな推定がなされている。宇河莊の「宇河」は「鵜川」とされていることから、鵜川の河口部を除く鵜川流域一帯と、その周辺の水系内に属する南部丘陵一帯が比定されている。したがって、布目・前谷地遺跡は中世では宇河莊内にあったと考えられる。また、宇河莊内は「安田条」

や「上条」、そして上条と対語として「下条」の存在が想定できることから、少なくとも3条に分かれていたことが知られる。「安田条」は、現在の安田地区から田尻・半田一帯に比定できそうであるが【品田1996】、「上条」と「下条」の境界は明らかではない。佐橋莊は鯖石川との係わりが強いと推定され、鯖石川中流域と長鳥川流域が比定される。南条の馬場・天神腰遺跡はその中心地となる可能性が高い。比角莊は現在の地名からも柏崎市市街地西部にある現在の比角地区を含むと考えられ、現市街地に概ね重なるものと推測される。一方、柏崎平野北部の別山川流域の莊園名は知られていない。この地域では、野崎保・神田保・赤田保・原田保・武町保・吉井保・埴入保等の国衙領が点在していたとみられるが、中世まで残る資料が残らないものが多い。野崎保は現在の地名からも西山町野崎地区周辺と考えられるが、後世の天和3年（1683年）の『刈羽郡寺尾村検地帳』に野崎保という名称が記されている程度である。その他、神田保は天正8年（1580年）頃の『毛利安田氏所領注文』に「神田保惣領分 神余方」と記され、また、『本領之日記』に「かう田 かななり方 知行」とあることから、現在の西山町甲田地区周辺が比定される。そして、赤田保は刈羽村赤田地区周辺が、原田保は刈羽村花田地区周辺、武町保は刈羽村上高町・下高町周辺、吉井保は柏崎市大字吉井周辺、そして埴入保は柏崎市大字宮川周辺がそれぞれ比定されている【村山1990】。

今まで残る刈羽の名前は、『名月記』正治元年（1199年）の9月22日条に「刈羽郷」の記載が初現とみられる。その後、正平12年（1357年）の『鎌倉二階堂覚音寺領文書』では「刈羽郡」と記載されている。三嶋郡が刈羽郡へと変化した理由は定かではないものの、以降、柏崎平野周辺では刈羽郡と称されるようになり、「柏崎」の地名が資料上初めてみられるのは、文永11年（1274年）の日蓮の書簡においてである。

## 2) 鶴川中流域の古代・中世遺跡

柏崎市内における古代や中世遺跡の調査事例を見てみると、昭和54年に実施された北陸自動車道の建設に伴う西田・鶴巻田遺跡群の調査が実施され、平安時代の製鉄関連遺物が多量に出土するとともに、鎌倉時代の井戸や土器が多く出土している【新潟県教委1988】。また、平成元年には農道の改良工事に伴う南下・千古塚遺跡が調査され、鎌倉時代から室町時代中期頃の中世墓地が確認されている【柏崎市教委1990a】。近年では新潟工科大学建設に伴う藤橋東遺跡群や宅地造成事業に伴う横山東遺跡群などの大規模調査がある。藤橋東遺跡群では、奈良・平安時代の鉄生産関連施設が確認され、柏崎平野南部地域に広がる大規模な製鉄遺跡群の存在が浮き彫りにされるとともに、中世では屋敷跡と推定される建物跡や井戸及びこれに関連すると考えられる墓地が確認されている【柏崎市教委1995 b・品田1993】。また、横山東遺跡群でも鉄生産や窯業など古代の手工業等に関連する遺構が確認されている【柏崎市教委1994】。

これらの調査事例は、鶴川中流域でもその北半に集中するため、鶴川中流域全域という観点からすれば不十分である。しかし、調査されたそれぞれの遺跡の時代や性格から看取される立地には、いくつかの特徴を認めることができる【品田1995】。今回調査を実施した布目・前谷地遺跡も、主に古代を中心とする遺跡であり、本遺跡が所在する鶴川中流域というまとまりを持つ地域に焦点をあて、古代から中世にかけての周辺の遺跡の性格と立地との関連などを視点に述べ、歴史的な外観とする。

**遺跡の立地と概観** 鶴川中流域における古代・中世の遺跡分布は、第3図に模式的に示した。現在まで把握されている遺跡数は、下流域に属する剣野一帯の一部を含めるとすれば、34遺跡（群）となる。

段丘上に立地する遺跡には、尾根筋を含めると5カ所の遺跡が知られる。この内、千古塚遺跡と御堂尻遺跡は、ともに隣接しながら墳墓で構成される遺跡であることから一連の遺跡群として把握できる。新道

集落の裏山となる風牧山一带に広がる風牧山遺跡は、すでにおけさ柿の栽培団地として大半が削平されてしまっていることから、遺跡の具体像は明らかでなく、特に古代の土器については出土位置等が明確でない。ただ、中世は、墓碑等の石塔類があり【田村1954】、また三諦寺経塚の存在等から、墓地的な遺跡あるいは聖域的な観念で捉えられる遺跡とすることができよう【中野1988ほか】。上条城については、越後守護家の系統をなす上条上杉氏関連の館跡とされている。

丘陵の斜面部を中心に造構等が構築される遺跡としては、4カ所ほどの遺跡群が掲げられる。これらは、すべて製鉄遺跡群として把握できるものであり、未調査等によって実態の明らかでない劍野水上遺跡と鶴巻田遺跡を除けば、網田瀬遺跡群や春作遺跡群が古代（奈良・平安時代）である。なお、網田瀬遺跡群のうち、網田瀬E遺跡では、中世の小規模な墓地が確認されている。

鶴川の形成した広い沖積地に面した丘陵裾部に立地する遺跡は、5カ所が認められる。鶴川右岸の古町遺跡や新屋敷遺跡が典型的な立地の事例である。両遺跡は、前面に鶴川や上条芋川の旧河道である低地が横たわることから必然的に選ばれた立地と考えられる。この他では、黒滝館遺跡、たんこうけ遺跡があるが、前者は小規模な扇状地、後者は沖積段丘上の立地である。また、沖積地でも中小規模な沢内に所在し、丘陵裾から平坦な沖積地への広がりを見せる遺跡は、他と一部重複する遺跡もあるが、7カ所ほどを数えることができる。これらのうち、下流域に属する香積寺沢遺跡と剣野沢遺跡が沢内に所在する遺跡としては典型的な例である。これに対し、堂の前遺跡や藤橋向山遺跡は、やや中規模な沢の片側斜面に立地するが、このような事例は網田瀬や春作の各遺跡群でも確認することができる。自然堤防上の遺跡は10カ所が数えられ、前掛遺跡も該当する。茅原遺跡や沢田遺跡は軽井川の左岸に立地するが、この2遺跡を除く大半は現鶴川の河道に沿う分布を見せており、現鶴川の流路がかなり以前から安定していたことを窺わせる。なお、ここに掲載した各遺跡は、古代・中世の遺跡であるが、高畠遺跡では縄文時代後期とも複合し、また中綱手遺跡では古墳時代前期との複合遺跡であった。

**遺跡の性格と立地** 鶴川中流域に分布する34カ所の遺跡について概観したが、これらの遺跡の性格等を見ていくと、集落と考えられる遺跡が24件を数え、館跡も居住に関わるものとすれば遺跡総数のおよそ70%を集落が占めることになる。このような高い数値は、遺跡が過去における人々の生活の跡であり、居住区域を主としていることからすれば、当然のことかも知れない。集落以外の遺跡としては、製鉄関連が4遺跡（群）で、墳墓・墓地も4遺跡とほぼ同じ比率で発見されている。また、それぞれの遺跡の立地を見ると、集落と考えられる遺跡は、自然堤防上や沢内、あるいは丘陵沿いなど、立地条件に若干の差異が認められるが、基本的には沖積地を離れないところが選ばれている。これに対し、丘陵や段丘上あるいは斜面でもやや高台に占地しているのが、製鉄関連遺跡や墓地・墳墓の遺跡ということになる。集落遺跡は未調査遺跡が多く、古代と中世の両時期の遺物が採集される場合が一般的なことから、両者を明確に区分できない。しかし、これまでに調査された製鉄関連遺跡は全て古代であり、また墳墓・墓地遺跡は全て中世であった。このように見ていくと、集落の立地が古代と中世で判然としない最大の理由は、集落が沖積地を中心として展開し、水田を中心とした稲作が経済基盤として主体であったと考えられる。そして、古代と中世で大きく異なるのが、台地などの高台、もしくはその斜面を利用する遺跡の存在であり、古代では手工業関連としての鉄生産や窯業を、中世では墳墓・墓地や経塚などの宗教的な遺跡の形成である。布目・前谷地遺跡が所在する鶴川中流域とは、遺跡の立地と性格の差異が古代と中世における土地利用という現象面を極めて明瞭に示す地区とすることができるのではないだろうか。

布目・前谷地遺跡は、丘陵などとは隔離された鶴川右岸の沖積地内に立地する。これに対し、中世の屋敷

跡とされる網田瀬A遺跡は、低丘陵に営まれており、立地や景観にかなりの相違がある。今回調査した布目・前谷地遺跡は集落もしくは水田に関係する遺跡と考えられる。

現在、調査された遺跡が少ないとから、これ以上の対比はできないが、古代と中世では、集落の立地や展開にも当然の差異が予想される。山野の開発、丘陵内の土地利用、そして経済的な基盤をなす水田經營など、当時の自然環境との関わりとともに、更に検討が必要である。



第2図 布目・前谷地遺跡周辺の空中写真 国土地理院（1952年撮影）より



- 1 布目遺跡 2 前谷地遺跡 3 堂の前遺跡 4 前掛り遺跡 5 刃殿遺跡 6 小寺鳥遺跡 7 三諦寺経塚 8 風牧山遺跡 9 一本松遺跡  
 10 鶴巻田遺跡 11 刃野水上遺跡 12 刃野沢遺跡 13 香積沢遺跡 14 下沖遺跡 15 鳴屋敷遺跡 16 芽原遺跡 17 沢田遺跡  
 18 薩橋向山遺跡 19 春作遺跡群 20 綱田漸遺跡群 21 千古塚遺跡 22 御堂尻遺跡 23 下南下遺跡 24 新道高畠遺跡  
 25 小寺鳥南遺跡 26 十二ヶ崎遺跡 27 新屋敷遺跡 28 古町遺跡 29 高畠遺跡 30 たんこうけ遺跡 31 直駿遺跡 32 上条城跡  
 33 上条下川原遺跡 34 黒澗館跡

第3図 布目・前谷地遺跡周辺の遺跡分布図

### III 調査概要

#### 1 調査の目的と調査区の設定

今回の調査は、県営は場整備事業高田中部地区の工事により失われる遺跡の範囲のみ記録保存を目的とした発掘調査を行った。布目遺跡は南北方向に幅約2.5m、長さ約450m、面積約1,075m<sup>2</sup>、前谷地遺跡はL字形で南北方向に長さ約70m、西方向に長さ約30m、幅が約2.5m、面積約232m<sup>2</sup>を調査区とした。確認調査の結果から調査面は1面とした。

調査にあたり調査区が農道で区切られていることから布目遺跡は北からA～D区、前谷地遺跡はA～B区として調査区を設定した。グリッドは調査区の幅が約2.5mと狭く、国家座標が調査区に全く打設することができないことから、調査区に合わせて調査区の北端から10mごとにグリッドを設置した（第4図）。

なお、1グリッドを更に2m四方で25分割する小グリッドは調査区が南北に長く、東西に幅が狭く混乱する可能性が高いことから設置しなかった。グリッドの呼称は調査区と組み合わせ、布目遺跡は「A1～D42」、前谷地遺跡は「A1～B11」と表した。また、測量に必要な基準杭を布目遺跡に3カ所、前谷地遺跡には2カ所を設置した。

#### 2 基本層序

基本土層は各調査区の南北端と調査区中央付近の1カ所もしくは2カ所で観察し、柱状図を作成した。布目遺跡と前谷地遺跡は接し、ほぼ同じ立地条件であるため同じ基本層序となる。堆積土は基盤層（V層）を含め5層で構成される。I層は現在の水田における耕作土であり、II層は水田の床土である。III層は暗灰色土でありIV層がII層の影響を受けたものと考えられる。遺物は確認できていない。IV層は黒色土となる遺物包含層であるが、調査区の多くでは黒色腐植土（カクモ層）となっていることから、水の影響を大きく受けていることを伺い知ることができ、湿地環境であったことが推察される。

布目遺跡B区西壁では、I層からIV層までの堆積を観察すると不自然に一直線に堆積していることが確認でき、土質も本来のIV層よりも柔く脆い。このことから周辺の壁の土層観察を行い、本来堆積する包含層である黒色土のIV層がないことが判明した。以前のは場整備の際にIII層まで削平され、周辺のIV層を整地したため、III層とIV層が逆転していると考えられる。そのため、不自然に一直線に堆積していると判断した。なお、前谷地遺跡ではIV層が全域に残存しており、遺物が多数含まれ遺構も多数確認できた。基本層

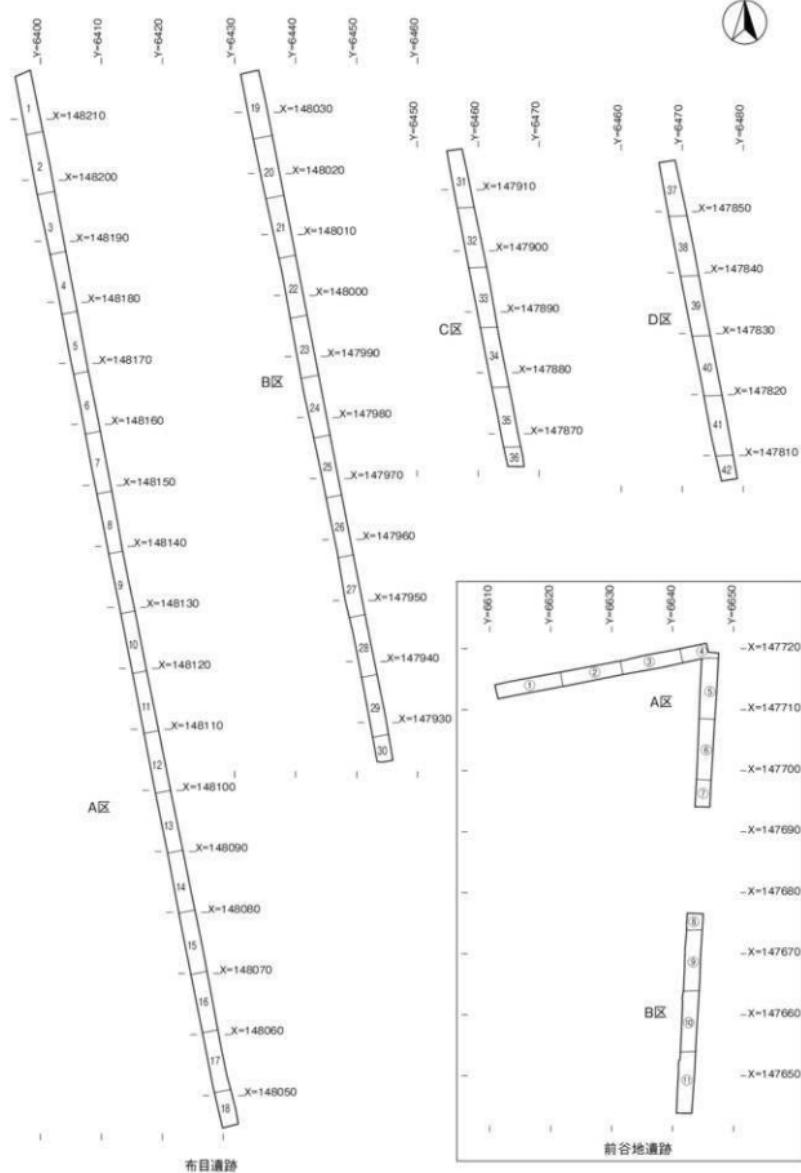
I層：表土・耕作土

II層：灰色粘土（N4/ ）水田の床土である。粘性・しまりが強い。

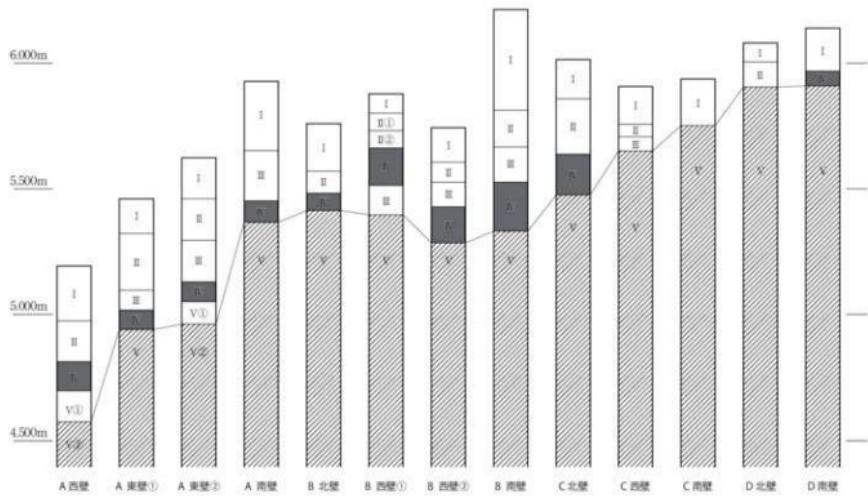
III層：暗灰色粘土（N3/ ）粘性・しまりがやや強い。

IV層：黒色粘土・黒褐色腐植土（N2/ ）遺物包含層。粘性・しまりが弱い。

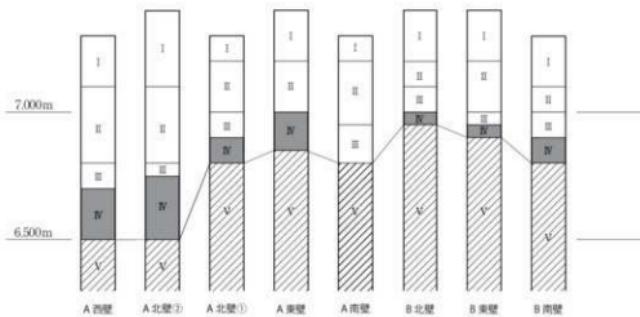
V層：青灰色粘土（10BG5/1）・黄灰色粘土（2.5Y6/1）地山である。粘性・しまりが強く、現地表面から浅い部分は酸化し黄色味がある。



第4図 布目・前谷地遺跡 グリッド設定図



第5図 布目遺跡基本層序柱状図



第6図 前谷地遺跡基本層序柱状図

序柱状図でもわかるようにV層の標高が高い部分では遺構・遺物ともに確認できたが、標高の低い部分ではほとんど確認できなかった。

### 3 現地調査の方法

**事前準備** 平成29年9月7日に柏崎市と藤村ヒューム管株式会社が布目・前谷地遺跡発掘調査業務委託を締結し、発掘調査を実施した。現場業務は9月26日から12月16日までの期間において実施し、天候不順もあり実動の発掘調査は28日間で、調査面積は1,303m<sup>2</sup>、作業員は準備や片付けを含め延べ525人を要した。

9月13日に工程等の打ち合わせを両者で行い、プレハブ設置場所や、表土剥ぎなどの準備を進めた。26日より敷設板の設置、27日には調査範囲の設定、30日にプレハブ等の設置、10月2日に仮設電気工事、事務所備品とトイレ等の搬入を行い、3日に布目遺跡の水中ポンプ用の仮設電源配線を設置した。10月5日から前谷地遺跡、6日から布目遺跡の表土剥ぎを開始し19日に終了した。10月10日からは前谷地遺跡、11月7日からは布目遺跡の調査に着手した。農道により調査区が区切られていることから布目遺跡は北からA～D区、前谷地遺跡はA～B区とした。また、布目遺跡に3点、前谷地遺跡の2点の基準点測量を行う。グリッドに関しては調査区の幅が25mと狭く、国家座標が調査区にはほとんど入らないことから、調査区に合わせて調査区の北端から10mごとにグリッドを設置し、調査区と併記し布目遺跡はA1～D42、前谷地遺跡はA1～B11とした。11月7日に前谷地遺跡の空中写真撮影を行い調査が終了し、布目遺跡の調査に着手する。12月2日に布目遺跡の空中写真撮影を行い、すべての調査を終了し、12月4日から道具などを撤収し、6～10日にかけて調査区の埋め戻しを行う。当初は埋め戻しの必要なことであったが、前谷地遺跡は民家や生活道路の横であり、布目遺跡は遺構検出面が深くなつたことから埋め戻しを実施した。また、プレハブ等の撤去を11日から行い、12～16日に敷設板を撤去し現場作業のすべてを終了する。

**表土剥ぎと遺構確認** 事業主体となる新潟県は調査区である水路法線のセンター杭を要所に設置してもらい、調査区を設定した。新潟県による調査範囲の了承を得た上で、10月5日より前谷地遺跡の表土剥ぎを開始した。確認調査の結果からも調査区には近現代の水田耕作土が堆積していることが判明しているため、作業の効率化を図るために重機（バックホー）を用いて除去した。掘削は調査員の指示のもとに行い、遺物が出土した場合は適時、グリッドごとに取り上げを行い、遺構検出面であるV層上面まで掘削を行った。調査区は沖積地で常時湧水があり、作業員を本格的に投入する前に水没してしまうため、調査区の隅に水中ポンプを設置するための枠を掘り、水中ポンプを設置し水没を回避した。6日に前谷地遺跡の表土剥ぎが終了し、そのまま布目遺跡の表土剥ぎを開始する。9日に布目遺跡の表土剥ぎが終了した。

遺構確認は地山であるV層上面で行った。柔く検出面を傷める可能性が高いため、出来る限りコンパネを敷いた上で作業を行い、両刃鎌・

竹ベラ・移植ゴテといった小型の道具を主体的に使用して遺構検出やその後の遺構掘削を行った。

**遺構発掘** 布目遺跡では、ピット・柱穴・土坑・溝・河川跡など75基の遺構を検出し、前谷地遺跡

	9月	10月	11月	12月
準備・撤収	■	■		■
表土剥ぎ		→		
遺構確認		前谷地遺跡	布目遺跡	
遺構発掘		→	→	
遺構測量		→	→	
空中写真撮影		→	→	→
埋戻し				—

第2表 布目・前谷地遺跡発掘調査工程表

では、ピット・柱穴・土坑・溝など76基の遺構を検出し発掘している。遺構は半裁して覆土の状況を観察し、すべての遺構において遺構カードに略図、土層等を記入してから覆土の写真撮影を行い、すべての記録が終了したのちに完掘し完掘写真撮影を行った。半裁方向は基本的に長軸方向としたが、柱痕や遺物を伴う場合は、埋設状況を最も有効に記録できる方向とした。断面や遺物の出土状況の遺構図面は、調査員の指示にもと補助員が手実測で記録し、平面図や断面図計測ポイントなどの測量はトータルステーション（TOPCON LN-100）と地形図作成システム TraceMasterMultiX（株式会社ビー・エス・トラスト）を用いて調査員と調査補助員が行った。

**写真撮影** 現場業務においての写真撮影は、調査員による手持ち、または三脚を使用して行った。さらにラジコンヘリコプターによる空中写真撮影を行った。布目遺跡と前谷地遺跡の2遺跡の調査であるため、空中写真撮影による撮影は2回実施している。調査員による撮影は、カラーリバーサル35mmフィルム（フジカラー PROVIA 100F）、白黒フィルム（フジカラー NEOPAN ACROS100）に加え、デジタル一眼レフカメラ（NIKON D610 2,426万画素）を用いた。また、ラジコンヘリコプターによる空中写真撮影では、カラーりバーサル6×6cm判フィルム（フジカラー PROVIA 400X）、白黒6×6cm判フィルム（KODAK 400TX）、デジタル一眼レフカメラ（CANON EOS Kiss X3 1,510万画素）などを用いた。

#### 4 整理作業の方法

**基礎整理作業** 出土遺物の洗浄、接合・補強復元、図面や遺構カードの整理と校正、写真整理、遺構観察表、各種台帳類の作成などを平成29年度に行った。作業は現場業務中から開始し、荒天時など外作業ができない時に作業を進めた。遺物の注記にあたっては遺跡名を「布目」・「マエヤチ」と表記し、遺構やグリッド、層位といった位置情報を統けて記入した。接合にはセメダインCを使用し、必要な部位にはデンカキューテック（電気化学工業株式会社）で補強・復元した。図面や写真は番号・撮影タイトルなどを付けてケースやアルバムに収納し、併せて台帳を作成した。

平成29～30年度に遺構・遺物の図化、図版作成などを行った。平成29年度は、土器・陶磁器の100点の実測及び60点のトレース、調査区全体図と遺構個別図の図版作成、遺構写真図版、遺構観察表の作成を実施した。遺物の実測については、形態や特徴をよく表しているものを選別し、小片でも極力図化に努めた。平成30年度は、土器・陶磁器・石器・木製品の172点の実測及び204点のトレース、遺物写真撮影、遺物写真図版、遺物観察表の作成を実施した。遺物の実測については、形態や特徴をよく表しているものを選別し、小片でも極力図化に努めた。

また、出土した木製品のうち、3点を抽出して放射性炭素年代測定（AMS法）・樹種同定の自然科学分析を行い、遺構の時期の特定や植物利用状況を考察するまでの接用資料とした。試料3点のうち2点は布目遺跡SD8から出土した不明木製品と流木、もう1点は同遺跡のSKp62から出土した木材である。なお、分析作業はパリノ・サーザイ株式会社が行い、分析結果は第VI章に掲載した。

**報告書原稿作成** 平成30年度は整理作業を継続し、報告書の原稿を作成した。報告書の原稿の大半は藤村ヒューム管株式会社に業務委託し、同社の埋蔵文化財調査部の整理室で作成を行った。作業内容は遺物実測、遺物デジタルトレース、遺物写真撮影、遺物の図面図版と写真図版作成、遺構・遺物の観察表作成、原稿執筆、挿図作成、原稿編集などである。なお、デジタルトレース、図版作成についてはAdobe Illustrator CC、写真編集にはAdobe PhotoshopCCを使用した。平面図はTraceMasterMultiXを使用して編集を行った。

# IV 遺構

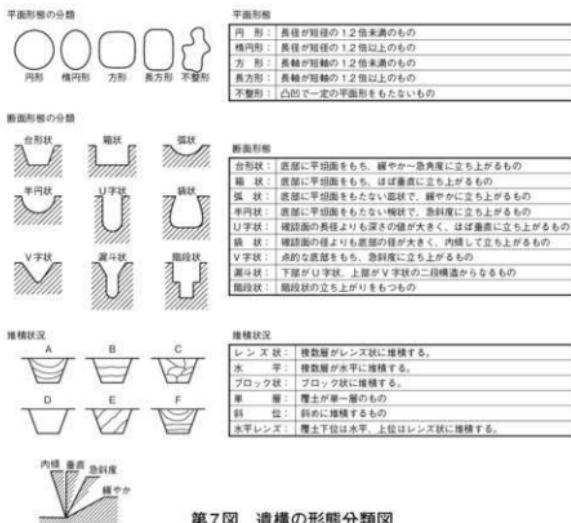
## 1 遺構の概要

布目遺跡で検出した遺構の総数は75基で、内訳はピット56基、溝17条、土坑1基、河川跡1基である。遺構の年代は出土土器から大半は古代（平安時代）と考えられ、V層上面で検出した。遺構の覆土はⅢ層と包含層であるIV層を基本としており、そこにブロック状のV層が含まれる場合がある。基本層柱状図と遺物分布図でもわかるようにV層の標高が高い部分では遺構や遺物が多く確認できたが、標高の低い部分ではIV層が黒色腐植土層であったため、遺構遺物とともにほとんど確認できず、常に水の影響を受けていた湿地状態が続いていると考えられる。

前谷地遺跡で検出した遺構の総数は76基で、内訳はピット62基、土坑2基、溝12条である。遺構の年代は出土土器から古代（平安時代）と考えられ、V層上面で検出した。遺構の覆土はⅢ層と包含層であるIV層を基本としており、そこにブロック状のV層が含まれる場合がある。良好に包含層であるIV層が残存しており、包含層から多数の遺物も出土し、遺構も狭小の調査区ながら数多く確認できた。

遺構の種別の表記については例言で述べたとおりである。遺構番号については現地調査で遺構種別に関係なく連続した番号を付けており、調査し検討した結果、遺構でないものについては欠番としている。

本文及び遺構観察表の記載に際しては、和泉A遺跡〔荒川ほか1999〕の分類に準拠して平面・断面形態の表記を行った（第7図）。なお、ピットについては柱痕を伴うものを柱穴、伴わないものをピットと称して観察表に掲載した。



第7図 遺構の形態分類図

## 2 遺構各説

ここでは、遺構種別ごとに個々の遺構について報告する。狭小の調査区であり遺構として判断することが困難なものも存在するが、今後、周辺で調査が実施された際に検討が行えるよう、検出できた全てを遺構として記載することとした。なお、遺構の属性等の詳細については遺構観察表に詳しく掲載しているので、そちらを参照されたい。

### 1) 布目遺跡

#### a ピット・柱穴 (SKp)

ピットを56基確認することができ、このうち3基 (SKp4・SKp53・SKp62) に柱痕が遺存しており、柱穴と判断した。しかし、堆積状況が単層のものが多く、遺構として不確実なものもあると考えられる。覆土の堆積状況により黒色土と灰色、暗灰色の3種類に分けることが可能である。灰色系の覆土は暗灰色の他に黄灰色が存在するが、これは水や現地表面から浅く酸化した影響と考えられ、同じ覆土として捉えている。そのため2種類の覆土に分類することができる。両者は若干の時期差がある可能性もあるが、ほとんどが平安時代の遺構と考えられる。

**SKp4** (図版11) C32グリッドに位置する。直径約0.25m、深度約0.25mで平面形は円形を呈し、断面形はU字状である。覆土は黒色土で4層の水平堆積である。1・2層は柱痕と考えられるため、柱穴とした。

**SKp5** (図版11) C35グリッドに位置する。直径約0.5m、深度約0.3mで平面形は円形を呈し、断面形は台形状である。覆土は黒色土で3層のブロック状堆積である。土師器の破片が3点出土している。

**SKp9** (図版11) A13グリッドに位置する。直径約0.25m、深度約0.15mで平面形は円形を呈し、断面形は半円状である。覆土は暗灰色土で2層の水平堆積である。

**SKp27** (図版11) D39グリッドに位置する。直径約0.4m、深度約0.3mで平面形は円形を呈し、断面形は箱状である。覆土は暗灰色土で2層の水平堆積である。土師器の破片が2点出土している。

**SKp33** (図版11) D38グリッドに位置する。長径約0.2m、短径約0.15m、深度約0.1mで平面形は梢円形を呈し、断面形は台形状である。覆土は灰色土の単層であったが、須恵器片が検出面で確認できため、半截し記録した。須恵器の壺の破片が1点出土している。

**SKp37** (図版11) D38グリッドに位置する。直径約0.2m、深度約0.25mで平面形は円形を呈し、断面形はU字状である。覆土は灰色土で2層の水平堆積である。

**SKp53** (図版11) B21グリッドに位置する。直径約0.65m、深度約0.2mで平面形は円形に近い梢円形を呈し、断面形は階段状である。断面観察により浅い柱の痕跡が確認できているため、柱穴とした。柱の大きさは約10cmである。

**SKp62** (図版11) B21グリッドに位置する。長径約0.57m、短径約0.50m、深度約0.3mで平面形は梢円形を呈し、断面形は台形状である。検出面で柱と考えられる木材が確認できたことから柱穴とした。木材の状況が判断できるように半截し掘削を行ったが、深さ0.3mのところで掘方は終わり、木材は更に約1m刺さっていた。木材の先端は加工されやや尖っていたことから、建物の柱というよりは杭と考えるべきと思われる。そのため、柵列や杭列が存在していた可能性が高いと考えられるが、周辺で他に検出されなかった。覆土からは土師器の破片が2点出土している。

### b 土坑 (SK)

土坑を2基確認することができた。柱穴を除いて、長径が0.6mを超えるものを土坑としたため、2基となつた。

**SK19** (図版11) D39グリッドに位置する。長径約0.62m、短径約0.5m、深度約0.1mで、平面形は梢円形で断面形は台形状を呈し、覆土は灰色土で3層のブロック状堆積である。土師器の破片が1点出土している。

**SK63** (図版11) B22グリッドに位置する。長径約1.21m、短径約0.92m、深度約0.35mで、平面形は隅丸長方形で断面形は台形状を呈し、覆土は灰色土で3層のブロック状堆積である。土師器の破片が1点出土している。

### c 溝 (SD)

溝を17条確認することができた。そのほとんどは幅が狭く深い。堆積状況も単層のものがほとんどであり、埋没過程の検討は困難である。SD52とSD64以外は調査区と直行する形で検出された。狭小の調査区であり、遺構の性格を判断するのは困難であるが、地形や立地などの状況から小規模自然流路の可能性も考えられる。また、周間に水田が存在し、それに伴うものの可能性も考えられる。

**SD6** (図版12) C35グリッドに位置する。S-64°-Wに指向し、調査区を直行する形で直線的に伸び流下していると考えられる。幅が約0.5m、深度は約0.2mである。覆土は黒色土で2層の斜位で分層でき、断面形は弧状である。下層は基盤層であるV層が上層の黒色土とやや混在したような覆土である。箱状ないし台形状であり人為的なものであると考えられるが、比較的新しい時代の可能性もある。

**SD7** (図版12) C32グリッドに位置する。S-40°-Wに指向し、調査区を直行する形で直線的に伸び流下していると考えられる。幅が約0.5m、深度は約0.2mである。覆土は黒色土で2層の水平堆積で分層でき、断面形は箱状である。下層は基盤層であるV層が上層の黒色土とやや混在したような覆土である。箱状ないし台形状であり人為的なものであると考えられるが、比較的新しい時代の可能性もある。

**SD8** (図版12) A14~15グリッドに位置する。N-33°-Wに指向し流下していると考えられ、計測できた幅で約5m、深度は約0.65mである。断面観察により遺物包含層であるIV層に近い黒色腐植土層で上方をパックされている。9~10世紀頃と考えられる土師器や須恵器の破片が97点出土し、その他に流木と考えられる直径約50cmの木や不明木製品が出土している。掘削時も當時湧水があり、規模も大きいことから河川跡と考えられる。自然科学分析の結果、不明木製品は7世紀後半から8世紀後半頃、流木が7世紀後半から9世紀後半頃の曆年代範囲を示しているが、自然科学分析でも述べられているように、樹皮が認められなかつたため得られた年代は本来の最外年輪よりも古い値を示している可能性があり、履歴の異なる遺物が同時に河川跡内に埋積したことなども推定されている。

これらのことから、少なくとも7世紀から10世紀には存在していた河川が、その後の水害や湿地状態によって10世紀の終わり以降には埋没した河川であると考えられる。

**SD43** (図版12) D38グリッドに位置する。S-61°-Wに指向し、調査区を直行する形で伸び流下していると考えられる。幅が約0.7m、深度は約0.15mである。覆土は黒色土で2層の水平堆積で分層でき、断面形は弧状である。下層はV層ブロックが含まれている。土師器の破片が37点出土している。

**SD44** (図版12) D38グリッドに位置し、N-78°-Wに指向し調査区内で延長約1m確認できたところで立ち上がっている。そのまま延伸していればSD43と交差するため、確認面および調査区壁により両者の関係を明らかにするために精査したが確認できなかった。そのため、SD44は検出したように調査区内

で立ち上がり完結し調査区外に延伸していると考えられる。底の高さもほぼ同じであるため、確認できた延長1mほどでは流下方向は不明である。幅が約0.35m、深度は約0.1mである。覆土は灰色土で2層の水平堆積に分層でき、断面形は弧状である。下層は基盤層であるV層が上層の黒色土と混在したような覆土である。土師器の破片が2点出土している。

**SD52** (図版12) D41・42グリッドに位置する。S-2°-Wに指向し、幅が約0.6m、深度は約0.1mである。調査区南端から約6mで遺構が確認できなくなったが、遺構の底の高さから推察し、北に向かうにつれ浅くなっているために後世の削平により消滅したと考えられる。また、調査区外から南に流下していると考えられる。覆土は黒色土の単層で、断面形は台形状である。煙管が出土しているため、比較的に新しい遺構と考えられる。その他に土師器の破片が13点出土している。

**SD64** (図版13) B20・21グリッドに位置する。S-2°-Wに指向し、途中からほぼ真南に向きを変え、伸びる。幅が約0.4m、深度は約0.2mである。遺構の底の高さから推察し、調査区外から南に流下していると考えられる。覆土は灰色土で3層のレンズ状に分層でき、断面形は台形状である。基本的な覆土は灰色土1層で、溝の壁際に地山ブロックを含んだ層が堆積していることから、早い段階で溝の壁が崩れていると考えられる。土師器や須恵器の破片が11点出土している。

**SD65** (図版13) A11グリッドに位置する。S-33°-Wに指向し、調査区を直行する形で延び流下していると考えられる。幅が約1m、深度は約0.25mで、覆土は暗灰色土で断面形は台形状である。北東から南西に向かうにつれ幅が狭くなり、約0.75mである。断面観察を行った部分から幅が広くなり始めているため、観察を行うと南側と北側では堆積が異なり、北側は基盤層であるV層のブロックを含んだ層が堆積していることから、幅の広い部分は溝の壁の北側が崩落したと考えられ、溝本来の幅は約0.75mであったと考える。土師器や須恵器の破片が8点出土している。

**SD66** (図版13) A7・8グリッドに位置する。S-56°-Eに指向し、調査区を直行する形で延び流下していると考えられる。幅が約0.5m、深度は約0.2mである。覆土は灰色で3層に分層することができるレンズ状堆積である。溝の底が平坦で、壁も直線的に立ち上がる箱状ないし台形状である。土師器の破片が1点出土している。

**SD67** (図版14) A9・10グリッドに位置する。S-28°-Wに指向し、調査区を直行する形で延び流下していると考えられる。幅が約0.55m、深度は約0.05mである。覆土は灰色の単層であり、断面形は台形状である。

**SD68～75** (図版14) B22・23グリッドに位置し、7本の溝がほぼ並行する形でN-28°-Wに指向して延び、流下していると考えられる。幅は約0.2m、深度は約0.1mである。覆土は暗灰色であり、単層で、断面形は弧状である。前回のは場整備の区画と方向が一致しており、前回のは場整備の際にV層まで削平され、周辺に存在するIV層を押して持ってきて整地していると考えられる場所でもあり、現地表面からも浅いため、後世の水田耕作におけるものの可能性も考えられるが、狭小の調査区でもあり確証を得ることができなかったため、ここでは遺構として記載した。SD68から土師器の破片が4点出土している。SD69から土師器や須恵器の破片が4点出土している。SD71から土師器や須恵器の破片が4点出土している。SD73から土師器の破片が1点出土している。SD74から土師器の破片が1点出土している。

## 2) 前谷地遺跡

### a ピット・柱穴 (SKp)

ピットを62基確認することができた。このうち3基 (SKp17・SKp22・SKp53) に柱痕が遺存していた。しかし、堆積状況が単層のものが多く、遺構として不確実なものもあると考えられる。覆土の堆積状況により黒色土と灰色、暗灰色の3種類に分けることが可能である。灰色系の覆土は暗灰色の他に黄灰色が存在するが、これは水や現地表面から浅く酸化した影響と考えられ、同じ覆土として捉えている。そのため、覆土は黒色系と灰色系の2種類に分類することができ、若干の時期差がある可能性もあるが、ほとんどが古代の遺構と考えられる。

**SKp1** (図版19) A6グリッドに位置する。長径約0.3m、短径約0.25m、深度約0.1mで平面形は楕円形を呈し、断面形は弧状である。覆土は暗灰色土で2層の水平堆積である。土師器や須恵器の破片が8点出土している。

**SKp5** (図版19) B9グリッドに位置する。直径約0.2m、深度約0.37mで平面形は円形を呈し、断面形は弧状である。覆土は暗灰色土で2層のブロック状堆積である。土師器の破片が1点出土している。

**SKp6** (図版19) B9グリッドに位置する。直径約0.2m、深度約0.26mで平面形は円形を呈し、断面形はU字状である。覆土は暗灰色土で2層の水平堆積である。土師器の破片が2点出土している。

**SKp11** (図版19) A5グリッドに位置する。長径約0.32m、短径約0.22m、深度約0.1mで平面形は楕円形を呈し、断面形は階段状である。覆土は黒色土で2層の水平堆積である。

**SKp12** (図版19) A5グリッドに位置する。長径約0.33m、短径約0.27m、深度約0.15mで平面形は楕円形を呈し、断面形は弧状である。覆土は黒色土の単層で、断面観察によりSKp13の後にSKp12が掘り込まれていることが確認できた。

**SKp13** (図版19) A5グリッドに位置する。長径約0.4m、短径約0.3m、深度約0.6mで平面形は楕円形を呈し、断面形は階段状である。覆土は暗灰色土の4層の水平堆積で、断面観察により、SKp13の後にSKp12が掘り込まれていることが確認できた。

**SKp16** (図版19) B9グリッドに位置する。長径約0.5m、短径約0.45m、深度約0.22mで平面形は楕円形を呈し、断面形は弧状である。覆土は暗灰色土で2層の水平堆積である。土師器の破片が18点出土している。

**SKp17** (図版19) B9グリッドに位置する。長径約0.2m、短径約0.18m、深度約0.37mで平面形は楕円形を呈し、断面形はU字状である。覆土は黒色土の水平堆積で、断面観察により柱痕が確認できたため、柱穴と考えられる。柱痕の規模は約10cmである。

**SKp18** (図版19) B9グリッドに位置する。長径約0.33m、短径約0.25m、深度約0.34mで平面形は楕円形を呈し、断面形はU字状である。覆土は黒色土で2層の水平堆積である。土師器の破片が4点、鉄滓が4点出土している。

**SKp20** (図版19) B9グリッドに位置する。長径約0.25m、短径約0.2m、深度約0.23mで平面形は楕円形を呈し、断面形はU字状である。覆土は黒色土で2層の水平堆積である。土師器の破片が3点出土している。

**SKp22** (図版19) B9グリッドに位置する。長径約0.35m、短径約0.3m、深度約0.27mで平面形は楕円形を呈し、断面形は漏斗状である。覆土は黒色土で2層の水平堆積である。水の影響を受け腐食が進ん

でいたため、加工している痕跡は確認できなかったが、木材が出土していることから柱穴と考えられる。土師器の破片が2点出土している。

**SKp31** (図版19) B10グリッドに位置する。長径約0.45m、短径約0.31m、深度約0.21mで平面形は楕円形を呈し、断面形は弧状である。覆土は黒色土で2層の水平堆積である。土師器の破片が3点出土している。

**SKp33** (図版19) B10グリッドに位置する。長径約0.2m、短径約0.17m、深度約0.23mで平面形は楕円形を呈し、断面形は半円状である。覆土は黒色土で2層の水平堆積である。

**SKp34** (図版21) B10グリッドに位置する。長径約0.21m、径約0.16m、深度約0.17mで平面形は楕円形を呈し、断面形は半円状である。覆土は黒色土の単層で、SD35の後に掘削された遺構である。土師器の破片が3点出土している。

**SKp37** (図版19) B10グリッドに位置する。長径約0.21m、短径約0.17m、深度約0.43mで平面形は楕円形を呈し、断面形は漏斗状である。覆土は黒色土で2層の水平堆積である。

**SKp47** (図版19) B11グリッドに位置する。直径約0.15m、深度約0.35mで平面形は円形を呈し、断面形はU字状である。覆土は黒色土で2層の水平堆積である。

**SKp50** (図版20) B11グリッドに位置する。直径約0.2m、深度約0.24mで平面形は円形を呈し、断面形はU字状である。覆土は黒色土で2層の水平堆積である。

**SKp53** (図版20) B11グリッドに位置する。直径約0.3m、深度約0.23m平面形は円形を呈し、断面形は階段状である。覆土は黒色土で3層の水平堆積で断面観察により柱痕が確認できたため、柱穴と考えられる。柱痕の規模は約10cmである。土師器の破片が1点出土している。

**SKp64** (図版20) B11グリッドに位置する。直径約0.28m、深度約0.16mで平面形は円形を呈し、断面形は半円状である。覆土は黒色土で2層の水平堆積である。土師器の破片が1点出土している。

**SKp69** (図版20) B11グリッドに位置する。長径約0.4m、短径約0.24m、深度約0.13mで平面形は不整形を呈し、断面形は階段状である。覆土は黒色土で2層の水平堆積である。土師器の破片が2点出土している。

**SKp73** (図版21) B9グリッドに位置する。直径約0.32m、深度約0.17mで平面形はSD74に削平されているが、円形ないし楕円形を呈し、断面形はU字状である。覆土は黒色土の単層である。

### b 土坑 (S K)

柱穴を除いて、長径が0.6mを超えるものを土坑とし、2基確認することができた。本遺跡では長径が大きな遺構が少なく、比較的小さな遺構が多く確認されている。

**SK2** (図版20) A6・7グリッドに位置する。長径約0.7m、短径約0.5m、深度約0.1mで平面形は楕円形で断面形は弧状を呈し、覆土は水平堆積している須恵器の壺の胴部が出土している。土師器の破片が39点出土している。

**SK7** (図版20) B10・11グリッドに位置し、長径約0.85m、残存短径約0.45m、深度約0.4mで平面形は東西方向の短軸と考えられる部分は調査区外のため不明であるが、楕円形で断面形は階段状を呈し、覆土は水平堆積している。土師器の破片が7点出土している。

### c 溝 (S D)

溝を12条確認することができた。そのほとんどは幅が狭く浅い。堆積状況も単層のものがほとんどであり、埋没過程の検討は困難である。狭小の調査区であり、遺構の性格を判断するのは困難であるが、周

間に水田が存在し、それに伴うものや、地形や立地などの状況から自然流路の可能性も考えられる。また、A区で検出した溝は幅が細く、浅い。しかも数本の溝が並行して存在するため、後世における水田耕作に付随するもの、もしくは影響を受けたものの可能性も考えられる。

**SD8** (図版20) A5・6グリッドに位置し、N・6°・Wに指向し、流下していると考えられる。幅約0.35m、深度約0.15mである。覆土は黒色土の単層で、断面形は弧状である。調査区途中で遺構が確認できなくなり途切れているが、これは遺構が非常に浅く、削平を受けているために検出できなかったと考えられ、調査区外にさらに伸びているものと考えられる。土師器片が4点出土している。

**SD9** (図版20) A6グリッドに位置し、S・3°・Eに指向し延び、流下していると考えられる。幅約0.35m、深度約0.1mである。覆土は黒色土の単層で、断面形は弧状である。調査区途中で遺構が確認できなくなり途切れているが、これは遺構が非常に浅く、削平を受けているために検出できなかったと考えられ、調査区外にさらに伸びているものと考えられる。土師器や須恵器の破片が88点出土している。

**SD10** (図版20) A5・6グリッドに位置し、S・10°・Eに指向し、流下していると考えられる。幅約0.3m、深度約0.05mである。覆土は黒色土の単層で、断面形は弧状である。土師器片が1点出土している。

**SD35** (図版21) B9グリッドに位置し、東から西に延び流下していると考えられる。幅約0.45m、深度約0.15mである。覆土は黒色土の単層で、断面形は弧状である。土師器片が5点出土している。

**SD44** (図版22) A1グリッドグリッドに位置し、東から西に延び流下していると考えられる。幅約0.2m、深度約0.1mである。覆土は黒色土の単層で、断面形は弧状である。土師器片と須恵器片が14点出土している。

**SD45** (図版22) A1・2グリッドに位置し、東から西に延びていると考えられる。幅約0.35m、深度約0.15mである。覆土は黒色土の単層で、断面形は弧状である。土師器片と須恵器片が60点出土している。

**SD46** (図版22) A1・2グリッドに位置し、東から西に延びていると考えられる。幅約0.35m、深度約0.15mである。覆土は黒色土の単層で、断面形は弧状である。土師器片と須恵器片が59点出土している。

**SD59** (図版21) B11グリッドに位置し、東から西に延びていると考えられる。幅約0.23m、深度約0.1mである。覆土は黒色土の単層で、断面形は弧状である。土師器片が2点出土している。

**SD70** (図版22) A1・2グリッドに位置し、東から西に延びていると考えられる。幅約0.25m、深度約0.1mである。覆土は灰色土の単層で、断面形は半円状である。土師器片と須恵器片が50点出土している。

**SD71** (図版22) A1グリッドに位置し、東から西に延びていると考えられる。幅約0.3m、深度約0.15mである。覆土は灰色土の単層で、断面形は台形状である。

**SD72** (図版21) A7グリッドに位置し、東から西に延びていると考えられる。幅約0.2m、深度約0.1mである。覆土は暗灰色土の単層で、断面形は台形状である。土師器片と須恵器片が26点出土している。

**SD74** (図版21) B9グリッドに位置し、東から西に延びていると考えられる。幅約0.2m、深度約0.1mである。覆土は黒色土の単層で、断面形は台形状である。土師器片が3点出土している。

# V 遺 物

## 1 遺物の概要

布目・前谷地遺跡の発掘調査で出土した遺物は、整理箱で布目遺跡が6箱、前谷地遺跡が12箱である。内容は土師器と須恵器が主体で、陶磁器、石製品、木製品なども数点見られる。出土した遺物の主な時期は、布目遺跡、前谷地遺跡ともに古代の遺物と考えられる。時期の詳細についてはⅦ章で述べることとする。遺物は包含層であるIV層及び地山であるV層上面で出土し、遺構に伴って出土した遺物は少なく、多くの遺物は破片である。完形に復元できたものはほとんどなく、詳細が不明なものが多い。そのため、土器は全体の器形がわかるもの以外にも、口縁部や底部を伴ったものはできるだけ図化し、布目遺跡は68点、前谷地遺跡199点を実測し掲載した。以降に図化した遺物の器種ごとに述べることとし、遺物の出土位置(グリッド)、法量や胎土といった個別の情報については遺物観察表(附表3、4)に記載しているので参照されたい。

また、出土した遺物の重量をグリッドごとに集計し(第3、4表)、分布図(第8、9図)を作成し、遺物の分布状況を把握することとした。布目遺跡のA区の遺物集中化部分は、SD8部分であり、地形的に高いA区南端、B区北端から流れ込んできたものと推測する。B～D区にかけての地形はやや起伏があり、その高い部分に集中していることがわかる。前谷地遺跡は遺構も多く確認できており、調査区全体的に遺物が出土している。地形的に高い部分の⑤グリッドでやや少なく、傾斜して低くなっている南に集中していることから、高い部分から流れてきている可能性もある。②～③グリッドについても同様に低くなっている部分である。なお、今回の調査での遺物の分布状況を把握するために分布図を作成したが、狭小の調査のため遺跡全体としての遺物分布の状況とは異なっている可能性がある。

## 2 遺物各説

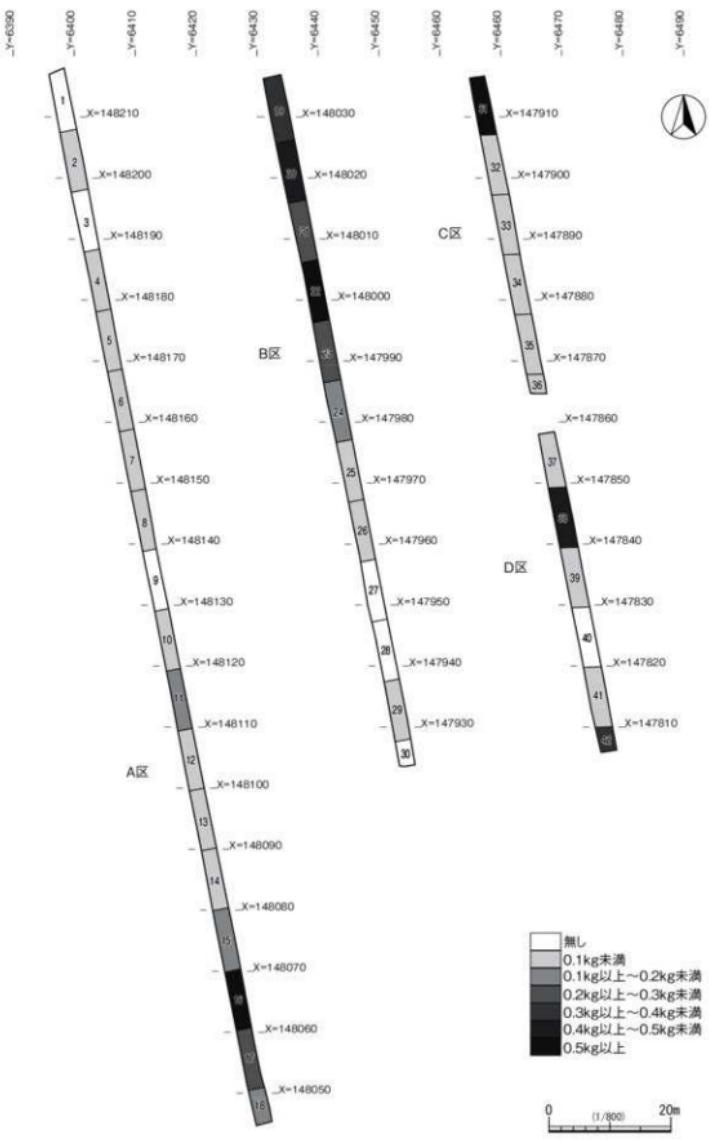
### 1) 布目遺跡

多くの遺物が出土しているが、完形品はほとんどなく小破片が多い。形態や特徴をよく表しているものを選別し、小片でも極力図化に努め、72点を図化した。土器類の器種としては、壺・楕・甕等があり、土器類以外では、陶磁器、砥石、木製品が出土している。布目遺跡で確認できた遺構は75基であり、遺物が確認できたのは6基のみであり、SD8(3、5、7、14、27～30、35、37、39、41、42、46)の14点と他にSKp33(23)、SD52(50)、SD64(4、11)、SD65(19)、SD68(8)だけである。すべて覆土から出土しているが、SD8から出土した遺物は流木の横から出土している。

#### a 須恵器

ほぼ完形品を含め26点を図化した。そのほとんどが小泊窯と考えられるものが大半を占める。器種としては無台壺、有台壺、甕等があげられる。

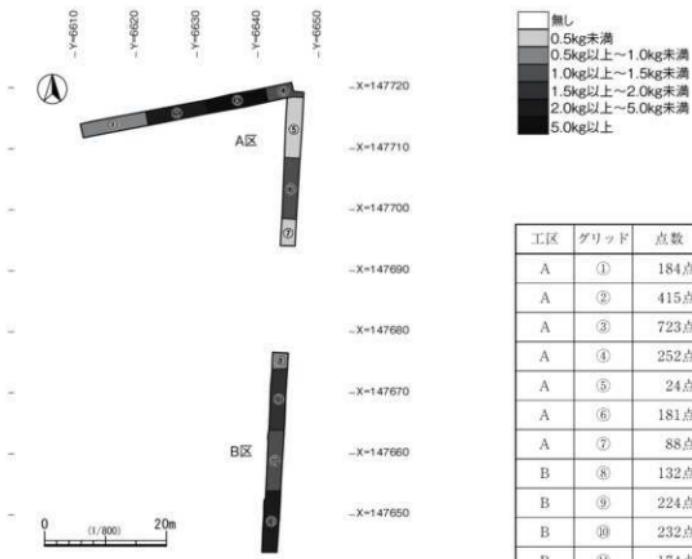
**無台壺** 図化が可能で無台壺と判断できたものは、すべてロクロ成形で底部切り離し技法は底部が確認できているものは回転ヘラ切り痕が見られる。12点と点数は少ないが形態により次のように細分した。



第8図 布目遺跡 出土遺物分布図

工区	グリッド	点数	重量(g)
A	1	0点	—
A	2	1点	24.1
A	3	0点	—
A	4	4点	27.8
A	5	2点	26.1
A	6	8点	41.5
A	7	1点	7.7
A	8	1点	3.6
A	9	0点	—
A	10	1点	1.3
A	11	22点	124.1
A	12	1点	19.1
A	13	2点	41.9
A	14	8点	58.2
A	15	49点	190.5
A	16	39点	612.6
A	17	34点	226.4
A	18	17点	136.7
B	19	59点	365.2
B	20	39点	451.8
B	21	37点	292.1
B	22	45点	750.9
B	23	33点	265.8
B	24	14点	114.8
B	25	6点	73.1
B	26	1点	4.9
B	27	0点	—
B	28	0点	—
C	29	3点	36.0
C	30	0点	—
C	31	14点	590.0
C	32	7点	35.1
C	33	7点	46.4
C	34	3点	12.2
D	35	12点	48.5
D	36	1点	7.6
D	37	17点	79.0
D	38	50点	443.3
D	39	11点	63.6
D	40	0点	—
D	41	1点	38.8
D	42	25点	341.5

第3表 布目遺跡 グリッド別出土遺物量



第9図 前谷地遺跡 出土遺物分布図

第4表 前谷地遺跡 グリッド別出土遺物量

工区	グリッド	点数	重量(g)
A	①	184点	971.4
A	②	415点	2,569.3
A	③	723点	5,076.6
A	④	252点	1,495.0
A	⑤	24点	217.5
A	⑥	181点	1,277.9
A	⑦	88点	304.0
B	⑧	132点	791.7
B	⑨	224点	1,615.2
B	⑩	232点	1,024.8
B	⑪	174点	2,073.4

無台坏a類（1、2、4）は、胴部がおおむね直線的に開いて口縁部に至るものである。口縁端部がやや内弯するものが含まれるが、一括してa類とした。a1類は口径が12.5~12.8cm、器高は3.1~3.3cmであり、ほぼ同じである。無台坏a2類（3）はa1類よりも器高が大きく、深みのもので、口径は12.7cm、器高は3.6cmである。3は焼成が甘く、還元不足である。無台坏b類（5、11）は、胴部がやや内弯して立ち上がり、口縁部が外反する。

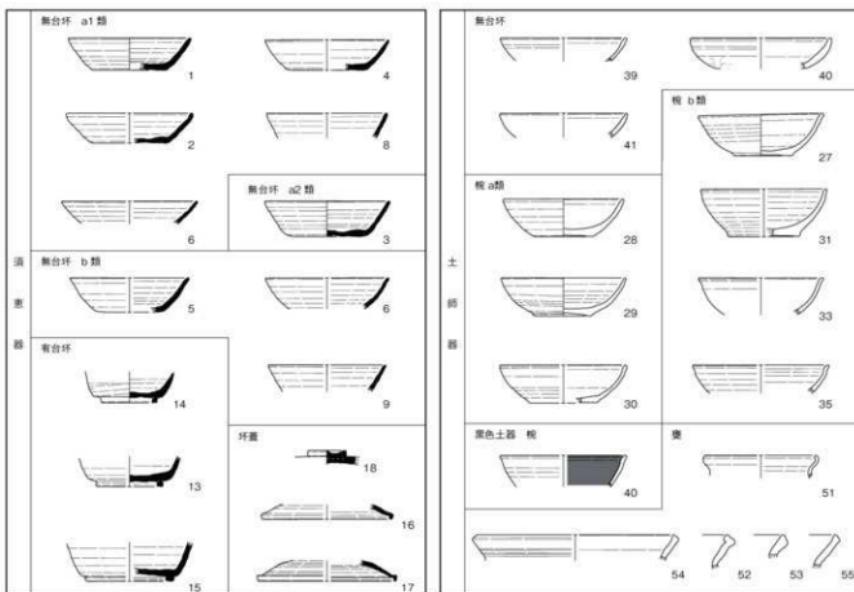
**有台坏** 圓化が可能で有台坏と判断できたのは3点である。3点とも口縁部を欠いている。13、14は底形が5.6、6.6cmと小振りの形態で、15は8.7cmとやや大きい。底部には回転ヘラ切り痕があり、高台が貼り付けられている

**坏 蓋** 圓化できたのは3点（16~18）である。外面中央が平坦もしくは窪み、屈曲して口縁部に至るものである。18はつまみ部分のみである。

**壺** 圓化できたのは5点（19~23）である。外面に平行線のタタキ目が見られ、内面には同心円の当て具痕が見られる。

**壺 鉢** 圓化できたのは1点（26）である。壺の胴部と考えられ、ロクロ成形である。外面は叩きの後、縱方向にナデが施されている。

**擂 鉢** 圓化できたのは2点（24、25）である。24は口縁部内面が面取りされ、平坦面が形成され波状文が施されている。



第10図 布目遺跡土器分類図

### b 土師器

完形品ではなく、破片が多いが全体の器形が把握できるものも含めて35点を図化した。器種としては無台坏、無台椀、甕等があげられる。

**無台坏** 図化できたのは7点（38～41）である。ロクロ成型であるが、底部付近が欠損しており、切り離し痕は不明である。内外面ともにナデが施されている。

**無台椀** 図化できたのは19点（30～36、42～50）である。ロクロ成型で、底部付近が欠損しているものあるが、切り離しは回転糸切り痕がみられ、内外面ともにナデが施されている。胴部が内弯しながら口縁部に至るものをa類、胴部が内弯しながら口縁部に至り、口縁端部が外反するものをb類とした。42～50は底部のみですべて回転糸切り痕がみられる。

**甕** 図化できたのは9点（51～59）である。51は小甕の口縁部であり、口縁端部が上方に屈曲し、内外面ともにナデが施されている。52～55は長胴甕と考えられ、口縁端部は面を持ち、上方に短く屈曲というよりは摘み上げられている。内外面ともにナデが施されている。56～59は底部のみ残存している。

**鍋** 図化できたのは3点（60～62）である。62は口縁部のみ残存し、口縁部で屈曲して直線的に外反し、口縁端部は面を持ち、上方に摘み上げられている。60、61は胴部が内弯し口縁部で直線的に外反する。62と同様に口縁端部は面を持つが凹みがあり、上方に摘み上げられている。内外面ともに工具によるナデが施され、外面の胴部下半にはススが付着している。

### c 黒色土器

完形品ではなく小破片ではあるが、黒色土器の無台椀が1点（37）出土している。胴部がおおむね直線的に開いて口縁部に至り、口縁端部がやや外反するものである。外面はナデが施され、内面が黒色処理されているが、ミガキは不鮮明である。

### d その他の遺物

陶磁器5点（257～261）、砥石2点（262、263）包含層から出土している。不明木製品3点（264～266）がSD8の覆土から出土し、人為的に加工した痕跡が見られることから木製品であると考えられるが、用途は不明である。

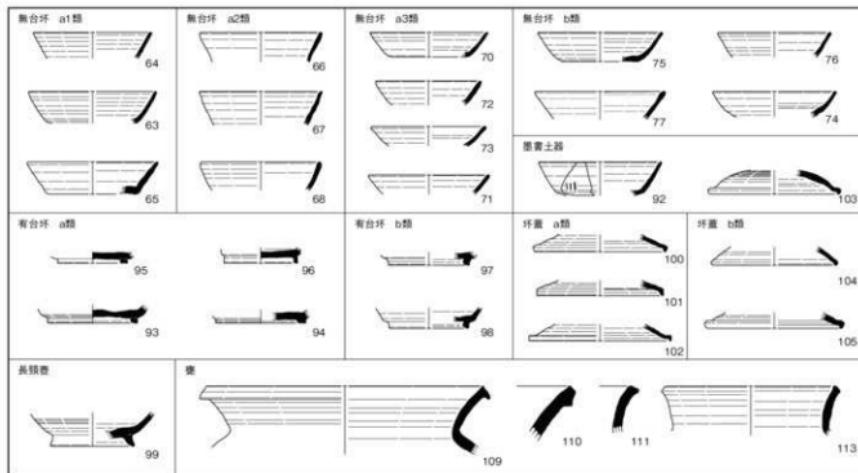
## 2) 前谷地遺跡

多くの遺物が出土しているが、完形品はほとんどなく小破片が多い。形態や特徴をよく表しているものを選別し、小片でも極力図化に努め、203点を図化した。土器類の器種としては、坏、椀、甕、鉢等があり、土器類以外では、陶磁器、土錘、砥石、敲石、錢が出土している。前谷地遺跡で確認できた遺構は76基であり、遺物が確認できたのは10基のみで、SKp16（193）、SKp18（250）、SKp53（252）、SKp62（146）、SK2（108、119、205）、SD9（113、145、186、266）、SD45（149、219）、SD46（81、92、187、221）、SD70（76、106、217）、SD71（73、141）である。すべて覆土から出土している。

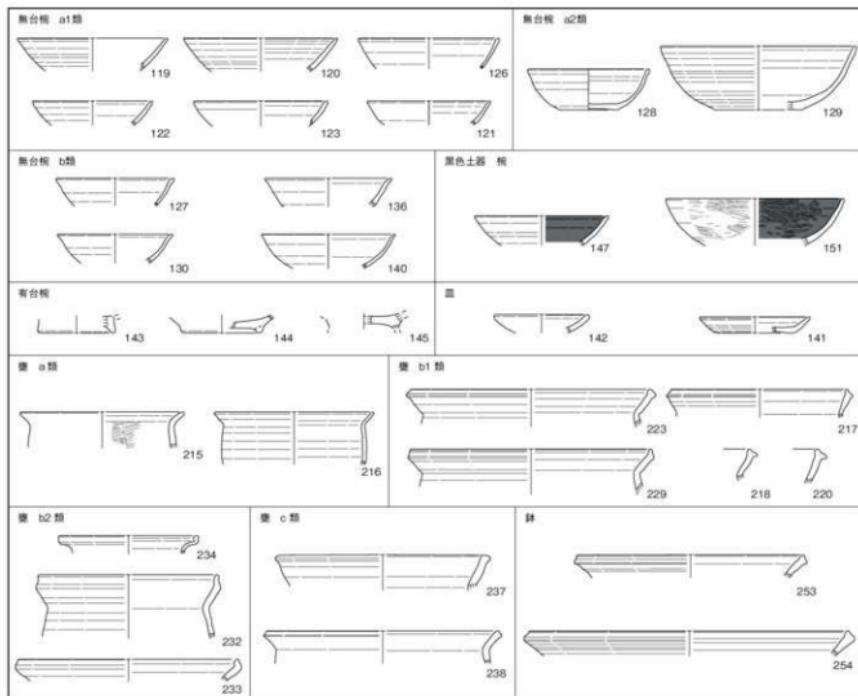
### a 須恵器

ほぼ完形品を含め56点を図化した。そのほとんどが小泊窯と考えられるものが大半を占める。器種としては無台坏、坏蓋、高台付坏、甕があげられる。

**無台坏** 図化できたのは29点である。無台坏と判断できたものは、すべてロクロ成型で底部切り離し技法は底部が確認できているものは回転ヘラ切り痕が見られる。さらに、点数は少ないが形態により次のように細分した。



第11図 前谷地遺跡 須恵器分類図



第12図 前谷地遺跡 土師器分類図

**無台坏a類** (63~72) は、胴部がおおむね直線的に開いて口縁部に至るものである。口縁端部がやや内弯するものが含まれるが、一括してa類とした。a1類 (63~65) は口径にバラツキが少しあるが、器高は3.3cmである。無台坏a2類 (66~68) はa1類よりも器高が大きく、深みのもので、口径は12.2~12.5cm、器高は3.5cmを超える。無台坏a3類 (69, 70) は器高が小さく浅身で20~25cm、口径が12~12.4cmで、無台坏a4類 (71, 72) は、a3類と同様に器高が小さく浅身で、口径10.7~11.6cmと小さい。無台坏b類 (74~78) はa類と同様に、胴部がおおむね直線的に開いて口縁部に至るものであるが、口縁端部がやや肥大し厚みのあるものである。

**有台坏** 圖化できたのは6点で、すべて胴部から口縁部を欠いている。すべてロクロ成形であり、93は底部切り離し技法の回転ヘラ切り痕が見られる。95は高台が明瞭に貼り付けられている痕跡が確認できている。その他は不明瞭であるが、貼り付け高台と考えられる。有台坏は3つに分類した。a類は高台端部に面を持ち、やや凹みがあり置いた際に地面に接地するものである。96だけはやや高台部分が長く、底形も小振りである。b類はa類と同様に高台端部に面を持つが斜めであり、外側のみが地面に接地するものである。

**坏 蓋** 圖化できたのは7点で、すべてロクロ成形である。2つに分類し、a類は外面中央付近が平坦もしくは窪み、屈曲して口縁部に至るものである。口縁端部が下方に屈曲している。b類は全体的に甲盛状に丸みを帯びているもので、口縁端部がa類とは異なり内側に屈曲している。104は全体的には甲盛状で丸みを帯びているためb類としたが、口縁端部が外に屈曲している。105は全体的な形態は不明であるが、口縁部の形態からb類と考えられる。

**墨書き土器** 圖化できたのは2点 (92, 103) である。92は外面に「川」と考えられる墨書きが確認できた。底部外面を観察すると高台が貼り付けられていたように外側に開く部分が見られたため、有台坏と考えられる。103は坏蓋のb類であり、外面に「奉」と考えられる墨書きが確認できた。

**甕** 圖化できたのは8点である。口縁部付近が確認できたのは4点 (109, 110, 111, 113) で、口縁端部の形状は様々である。109の外面は平行の叩きの痕跡が残っているため、平行叩きの後にナデにより消されているものと考えられる。110の外面の口縁部には波状文が確認できた。

108と112は外面に継方向に移動したと考えられる擬格子叩き、内面には同心円の当て具痕が確認できる。108には口縁部付近に波状文が確認できた。114, 115は同一個体の可能性もある。外面には格子の叩きの痕跡、内面には平行の当て具痕が確認できている。

**短頸壺** 圖化できたのは胴部下半の破片1点 (116) のみである。胴部に突帯文があり、四耳の一部と考えられる突起が見られる。ロクロ成形で内外面ともにナデが施されている。

**瓶** 圖化できたのは横瓶 (117) と長頸瓶 (99) の2点である。117は内外面ともにナデが施され、外面はナデの後にヘラナデが施されている。99は高台部が外反し、端部が丸みを帯び外端接地である。形状から長頸壺と考えられる。

**壺** 圖化できたのは胴部上半の破片1点 (118) のみである。内面にはナデが施され、外面はヘラナデが施されている。

#### b 土器類

完形品ではなく、破片が多いが全体の器形が把握できるものも含めて132点を図化した。器種としては無台椀、甕、鉢等があげられる。

**無台椀** 圖化できたのは91点である。ロクロ成型で底部付近が欠損しているものや底部のみのものが

多いが、切り離しは回転糸切り痕がみられ、内外面ともにナデが施されている。胴部がおおむね直線的に開いて口縁部胴部が内弯しながら口縁部に至るものをa1類とし、器高がa1類より大きく深みのものをa2類とした。胴部がやや内弯しているものもあるが、おおむね直線的に開いて口縁部に至り、口縁端部が外反するものをb類とした。

**有台椀** 圓化できたのは3点である。破片であり、不鮮明な部分が多い。ロクロ成形で内外面ともにナデが施され、144は貼り付け高台である。底部の切り離しは不鮮明であるがヘラ切と考えられる。

**皿** 圓化できたのは2点である。口径が小さく、碗や杯と比べて器高が低く、浅身であるため、皿とした。ロクロ成形で内外面ともにナデが施されている。

**甕** 圓化できたのは37点である。ロクロ成形で内外面ともにナデが施されている。確認できている甕の底部と考えられるものはすべて平底である。215、216は口縁部が外傾し、くの字状で口縁端部が丸みを帯びるものをa類とした。口縁端部に平坦面を持ち、内側に摘み上げられているものをb1類とした。外側にもつまみ出されているものも含めた、上方に屈曲しているものをb2類とした。c類は口縁端部に面を持ち、若干、外側につまみ出されているものである。

**鉢** 圓化できたのは5点である。口縁端部に平坦面をもち、内側に摘み上げられている。器形の傾きが急であるために鉢とした。

#### c 黒色土器

完形品ではなく破片ではあるが、黒色土器の無台椀が6点出土している。146~149は胴部がおおむね直線的に開いて口縁部に至り、口縁端部がやや外反するものである。外面はナデが施され、内面が黒色処理されているが、ミガキは不鮮明である。口径が146は11.6cmと小さく、148、149は12.7cm、147は13.6cmと異なる。151は口径約18cm、器高が約5cmと他の4点よりも大きく、胴部がやや内弯して立ち上がり、口縁端部が丸みを帯びるものである。内外面にミガキが施されている。150は胴部のみであるが、形態から151と同じと考えられる。

#### d その他の遺物

陶磁器1点(267)、土錘3点(268~270)、砥石2点(273、274)、敲石1点(275)、銭1点(272)が包含層からの出土している。また、古墳時代の器台の脚柱部(271)が出土している。

# VI 自然科学分析

バリノ・サーヴェイ株式会社

## はじめに

布目遺跡（新潟県柏崎市堀地内）は、柏崎平野南西部、鶴川中流域の右岸に位置する。本地域の地形分類図（鈴木, 1989）を参考にすると、本遺跡は米山丘陵と安田台地との間に分布する低地（鶴川低地）に立地する。本遺跡の発掘調査の結果、平安時代（10世紀頃）の遺物（土師器、須恵器など）が確認されたほか、柱穴や土坑、溝、河川跡などの遺構が検出されている。

本報告では、発掘調査時に出土した加工木片や流木、杭などの木質遺物の年代や樹種の検討を目的として、放射性炭素年代測定および樹種同定を実施した。

## 1 試料

試料は、河川跡（A区SR8）の下層から出土した加工木片と流木、ビット（B区SKp62）から出土した杭の可能性がある木質遺物の計3点である。これらの試料の観察では、いずれも樹皮が残存しない資料であり、A区SD8下層 加工木片が分割材状（厚い板目板状）を呈する資料、A区SD8下層 流木が横断面より弧状に切り出された資料、B区SKp62杭が半裁状を呈する資料である。

放射性炭素年代測定に供する試料は、基本として観察範囲内に確認された最外年輪を含む数年輪分を対象としたが、A区SD8下層 加工木片は最外年輪部が加工面と推定される面に相当したことから、加工木片端部の破損面の3~4年輪分の木片を供している。また、A区SD8下層 流木は最外年輪を含む10年輪分、B区SKp62杭は最外年輪を含む2年輪分の木片を、それぞれ供している。

## 2 分析方法

### （1）放射性炭素年代測定

木片試料表面の土砂や付着物などをメスやピンセット、超音波洗浄などにより物理的に除去する。次に塩酸（HCl）や水酸化ナトリウム（NaOH）を用いて、試料内部の汚染物質を化学的に除去する（酸-アルカリ-酸（AAA）処理）。その後超純水で中性になるまで洗浄し、乾燥させる。なお、アルカリ処理は、0.001M~1Mまで濃度を上げ、試料の状況をみながら処理を進める。1Mの水酸化ナトリウムで処理が可能であった場合はAAAと記す。一方、試料が脆弱で1Mの水酸化ナトリウムでは試料が損耗し、十分な炭素が得られないと判断された場合は、薄い濃度の水酸化ナトリウムの状態で処理を終える。その場合はAaAと記す。

上記した処理後の試料の燃焼、二酸化炭素の精製、グラファイト化（鉄を触媒とし水素で還元する）はElementar社のvario ISOTOPE cubeとIonplus社のAge3を連結した自動化装置を用いる。処理後のグラ

ファイト・鉄粉混合試料をNEC社製のハンドプレス機を用いて内径1mmの孔にプレスし、測定試料とする。

測定はタンデム加速器をベースとした<sup>14</sup>C-AMS専用装置を用いて、<sup>14</sup>Cの計数、<sup>14</sup>C濃度 (<sup>14</sup>C/<sup>12</sup>C)、<sup>14</sup>C濃度 (<sup>14</sup>C/<sup>13</sup>C)を測定する。AMS測定時に、米国国立標準局(NIST)から提供される標準試料(HOX-II)、国際原子力機関から提供される標準試料(IAEA-C6等)、バックグラウンド試料(IAEA-C1)の測定も行う。

$\delta^{13}\text{C}$ は試料炭素の<sup>13</sup>C濃度 (<sup>13</sup>C/<sup>12</sup>C)を測定し、基準試料からのずれを千分偏差 (‰)で表したものである。放射性炭素の半減期はLIBBYの半減期5,568年を使用する。また、測定年代は1950年を基点とした年代(BP)であり、誤差は標準偏差(One Sigma 68%)に相当する年代である。測定年代の表示方法は、国際学会での勧告に従う(Stuiver & Polach, 1977)。また、暦年較正用に一桁目まで表した値も記す。

なお、暦年較正とは、大気中の<sup>14</sup>C濃度が一定で半減期が5,568年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の<sup>14</sup>C濃度の変動、及び半減期の違い (<sup>14</sup>Cの半減期5,730 ± 40年)を較正することである。暦年較正は、OxCal4.32(Bronk, 2009)を使用し、1年単位まで表された同位体効果の補正を行った年代値および北半球の大気中炭素に由来する較正曲線(Intcal13: Reimer et al., 2013)を用いる。暦年較正結果は $1\sigma \cdot 2\sigma$  ( $1\sigma$ は統計的に真の値が68.2%の確率で存在する範囲、 $2\sigma$ は真の値が95.4%の確率で存在する範囲)の値を示す。

## (2) 樹種同定

採取した木片から、剃刀を用いて木口(横断面)・柾目(放射断面)・板目(接線断面)の3断面の徒手切片を採取する。切片をガム・クロラール(抱水クロラール、アラビアゴム粉末、グリセリン、蒸留水の混合液)で封入し、プレパラートとする。プレパラートは、生物顕微鏡で木材組織の種類や配列を観察し、その特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類(分類群)を同定する。

なお、木材組織の名称や特徴は、島地・伊東(1982)やWheeler他(1998)を参考にする。また、日本産木材の組織配列は、林(1991)や伊東(1995-1999)を参考にする。

## 3 結果

### (1) 放射性炭素年代測定

木質遺物の同位体補正を行った年代値(補正年代)は、A区SD8下層 加工木片が $1265 \pm 20\text{BP}$ 、A区SD8下層 流木が $1240 \pm 20\text{BP}$ 、B区SKp62杭が $1225 \pm 20\text{BP}$ である(表1)。また、暦年較正結果( $2\sigma$ 暦年範囲)は、A区SD8下層 加工木片がcalAD 681 - calAD 772、A区SD8下層 流木がcalAD 686 - calAD 869、B区SKp62杭?がcalAD 695 - calAD 881を示す(第6表、第13図)。

## (2) 樹種同定

同定結果を第5表に示す。木質遺物は、広葉樹3分類群(ケヤキ、カツラ、トネリコ属)に同定された。以下に、各分類群の解剖学的特徴等を記す。

### ● ケヤキ (*Zelkova serrata* (Thunb.) Makino) ニレ科ケヤキ属

環孔材で、孔圈部は1列、孔圈部外で急激に径を減じたのち、塊状に複合して接線・斜方向に紋様状あるいは帯状に配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は單穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性、1-6細胞幅、1-50細胞高。放射組織の上下縁辺部を中心に結晶細胞が認められる。試料にはヌカ目部分が含まれており、晚材部がほとんど形成されていない

い年も認められる。

- カツラ (*Cercidiphyllum japonicum* Sieb. et Zucc.) カツラ科カツラ属

散孔材で、道管はほぼ単独で散在し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は階段穿孔を有する。放射組織は異性、1・2細胞幅、1・30細胞高。

- トネリコ属 (*Fraxinus*) モクセイ科

環孔材で、孔圈部は1・3列、孔圈外で急激に径を減じたのち、厚壁の道管が単独または2個が放射方向に複合して配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は單穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、1・2細胞幅、1・30細胞高。

#### 4 考察

A区SD8下層およびB区SKp62より出土した木質遺物の曆年較正結果（ $2\sigma$ ）は、A区SD8の加工木片が7世紀後半から8世紀後半頃、A区SD8の流木が7世紀後半から9世紀後半頃の曆年代範囲を示した。調査所見によれば、上記の2試料は河川跡下層より並ぶように出土しており、付近からは平安時代の遺物の出土が確認されている。前述したように、加工木片や流木資料は樹皮が認められなかつたため得られた年代は本来の最外年輪よりも古い値を示している可能性がある。また、履歴の異なる遺物が同時に河川跡内に埋積したことなども推定される。

一方、B区SKp62杭は7世紀末から9世紀後半頃の曆年代範囲を示した。本資料も樹皮が残存しないことから、本来の伐採（使用）年代よりも古い値を示している可能性がある。そのため、本資料や遺構の年代の評価にあたっては、調査所見および古木効果の影響を踏まえた検討が望まれる。

また、上記の木質遺物は、樹種同定の結果、ケヤキ、カツラおよびトネリコ属の広葉樹3種類に同定された。ケヤキは肥沃地に生育する落葉高木であり、木材は重硬で強度と耐朽性が高い。カツラは、河畔・溪畔に生育する落葉高木で、木材は木理が直通で割裂性が高く、強度と保存性は低い。トネリコ属は、河畔林・湿地林の構成種を含む落葉高木であり、木材は重硬で強度が高い。

以上のうち、杭は先端加工された資料であり、遺跡の立地や出土状況から杭列あるいは柵列を構成する杭材の可能性が考えられている。本資料はトネリコ属に同定されたことから、強度の高い木材の利用が推定される。なお、トネリコ属には、新潟県の平野部において湿地林・河畔林を構成するヤチダモが含まれることから、調査地周辺の低地部に生育した樹木を利用したことなどが推定される。

次に、A区SD8下層から出土した加工木片は、分割材状（厚い板目状）を呈する。器種・用途の詳細は不明であるが、カツラが認められた点を踏まえると強度や耐水性よりも加工性を意図した用材選択が考えられる。本資料より得られた年代測定結果を参考として、周辺地域におけるカツラの利用例についてみると、三角田遺跡（上越市）の柱根、岩ノ原遺跡（上越市）の杭と柱根、岩田遺跡（旧越路町）の根柱、江添C遺跡（旧吉田町）の柱材等に認められており（伊東・山田,2012）、主に建築材に利用される傾向にある。流木は、形状から幹径が比較的大きいものと推定される。これらの資料に認められたカツラは溪流沿いなどに、ケヤキは溪流沿いや水分条件の良い土地条件などを好むことから、調査地周辺や河川の集水域に生育した樹木に由来すると考えられる。

## <引用文献>

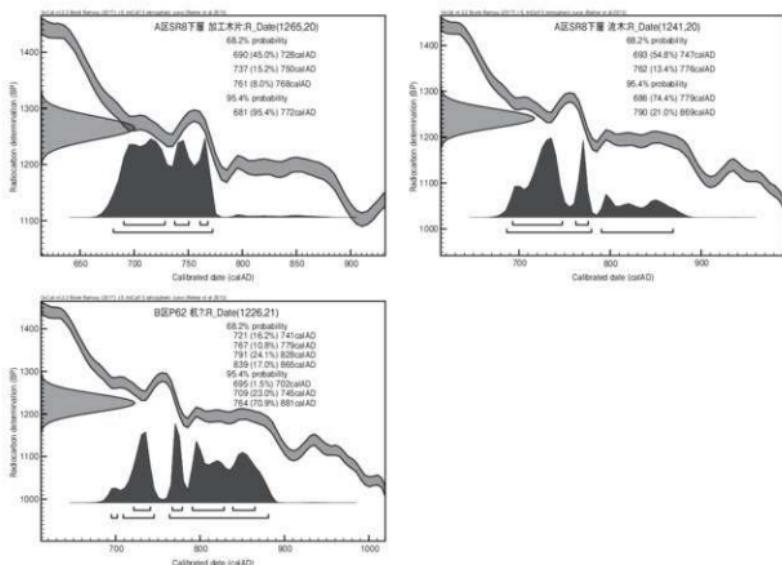
- Bronk R.C.,2009. Bayesian analysis of radiocarbon dates. Radiocarbon 51, 337-360.
- Reimer, P. J., Bard, E., Bayliss, A., Beck, J. W., Blackwell, P. G., Bronk Ramsey, C., Grootes, P. M., Guilderson, T. P., Haflidason, H., Hajdas, I., Hatté, C., Heaton, T. J., Hoffmann, D. L., Hogg, A. G., Hughen, K. A., Kaiser, K. F., Kromer, B., Manning, S. W., Niu, M., Reimer, R. W., Richards, D. A., Scott, E. M., Southon, J. R., Staff, R. A., Turney, C. S. M., and van der Plicht, J.,2013,IntCal13 and Marine13 Radiocarbon Age Calibration Curves 0-50,000 Years cal BP. Radiocarbon,55,1869-1887.
- 林 昭三,1991,日本産木材 跡微鏡写真集.京都大学木質科学研究所.
- 伊東隆夫,1995,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ.木材研究・資料.31,京都大学木質科学研究所.81-181.
- 伊東隆夫,1996,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ.木材研究・資料.32,京都大学木質科学研究所.66-176.
- 伊東隆夫,1997,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ.木材研究・資料.33,京都大学木質科学研究所.83-201.
- 伊東隆夫,1998,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ.木材研究・資料.34,京都大学木質科学研究所.30-166.
- 伊東隆夫,1999,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ.木材研究・資料.35,京都大学木質科学研究所.47-216.
- 伊東隆夫・山田昌久(編),2012,木の考古学 出土木製品用材データベース,海青社,449p.
- 鳥地 謙・伊東隆夫,1982,図説木材組織,地球社,176p.
- Stuiver M. & Polach A.H.,1977,Radiocarbon 1977 Discussion Reporting of  $^{14}\text{C}$  Data. Radiocarbon ,19, 355-363.
- 鈴木郁夫,1989, I 地形分類図.土地基本分類調査 柏崎・出雲崎 5万分の1 國土調査,新潟県,13-27.
- Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E. (編),1998,広葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト,伊東隆夫・藤井智之・佐伯 浩(日本語版監修),海青社,122p. [Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E.,1989,IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification].

地区	遺構名	層位	種別	形狀・木取り*	種類 (分類群)
A区	SD8	下層	加工木片	分割状	カツラ
A区	SD8	下層	流木	弧状	ケヤキ
B区	SKp62		杭	半裁状	トネリコ属

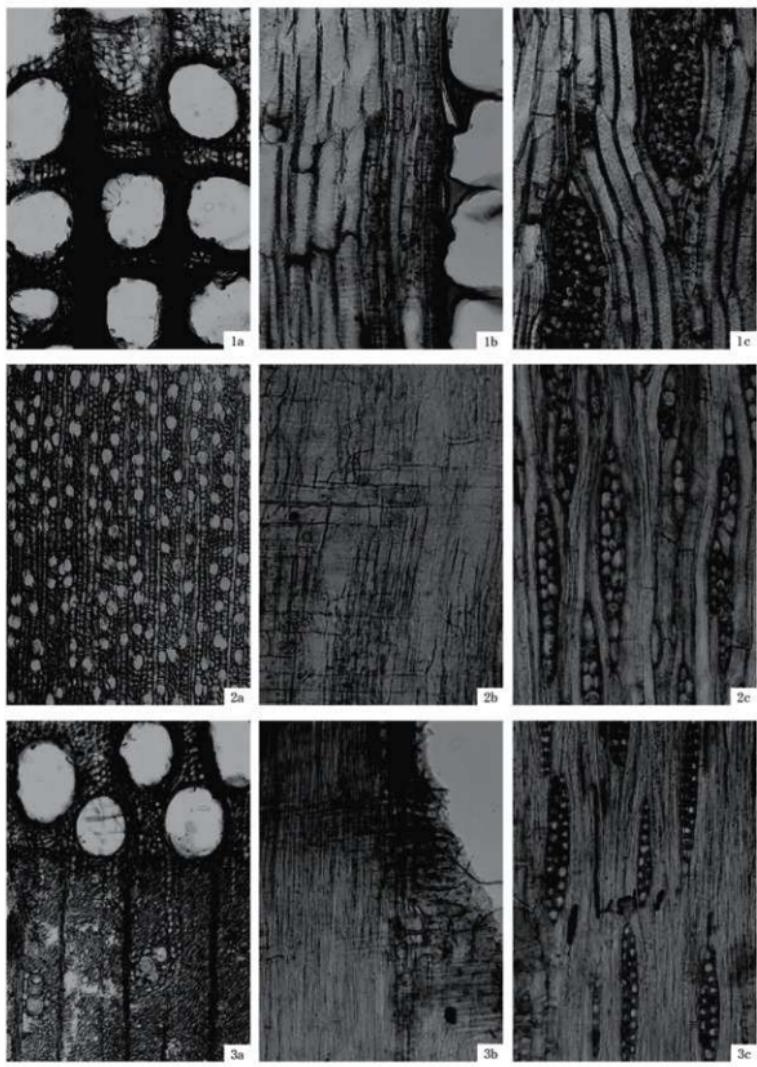
第5表 樹種同定結果

試料名	処理方法	補正年代 (BP)	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	補正年代 (曆年較正用) (BP)	曆年較正結果		測定番号
					1σ曆年年代範囲	2σ曆年年代範囲	
A区SD8 下層 加工木片	AAA	1265±20	-29.22±0.40	1265±20	690AD (45.0%) 728AD 737AD (15.2%) 750AD 761AD (8.0%) 768AD	681AD (95.4%) 772AD	YU-7098
A区SD8 下層 流木	AAA	1240±20	-31.29±0.35	1241±20	693AD (54.8%) 747AD 762AD (13.4%) 776AD	686AD (74.4%) 779AD 790AD (21.0%) 869AD	YU-7099
B区 SKp62 杭	AAA	1225±20	-28.07±0.54	1226±21	721AD (16.2%) 741AD 767AD (10.8%) 779AD 791AD (24.1%) 828AD 839AD (17.0%) 865AD	695AD (1.5%) 702AD 709AD (23.0%) 745AD 764AD (70.9%) 881AD	YU-7100

第6表 放射性炭素年代測定および曆年較正結果



第13図 曆年較正結果



1. ケヤキ (A区SR8下層; 流木)  
 2. カツラ (A区SR8下層; 加工木片)  
 3. トネリコ属 (B区P62; 柿?)  
 a:木口, b:柾目, c:板目

— 100  $\mu\text{m}$ : a  
 — 100  $\mu\text{m}$ : b, c

第14図 木材

## VII まとめ

### 1 調査の成果

#### はじめに

布目・前谷地遺跡では平安時代と考えられる遺構が確認できた。両遺跡とも、水と共に暮らす平安時代の人々の暮らしを垣間見ることができる遺跡であり、周辺における遺跡の存在を想定できる貴重な資料を得ることができた遺跡と考えられる。

#### 1) 布目遺跡

布目遺跡の調査では、平安時代と考えられる遺構・遺物を確認することができた。標高が高い部分では前回のは場整備により削平を受けているが、部分的に包含層である黒色土が残存し、多くの遺構を確認することができた。検出した遺構の総数は75基で、内訳はピット56基、溝17条である。掘立柱建物などを確認することはできなかったが、柱痕や木が検出された柱穴が確認できているため、建物等が存在していた可能性も高く、SKp62は深さ30cmのところで掘方は終わるが、木材はさらに約1m打ち込まれており、先端は加工されていたことから、柵列や杭列が存在していた可能性が高いと考えられる。また、検出した遺構の多くは調査区内の標高の高い部分で確認できる。一方、調査区付近は水源が豊富であり多くの溝を確認できたことから、水の流れをコントロールしていた可能性も考えられる。このため、周辺に水田が存在していた可能性が高いと考えられる。その他には河川跡（SD8）が確認することができ、直径約50cmの流木が河川と直行する形で検出できた。その流木に引っ掛かるような形で平安時代の土師器と須恵器の壊、椀が出土している。出土遺物や自然科学分析の結果から、平安時代以前に存在した河川であることは確かであり、埋没後に包含層である黒色土が堆積していることから、平安時代の間に埋没した可能性が高い。

以上のことから、布目遺跡周辺は湧水があり水が溜まりやすい場所であり、周辺に水田が存在していた可能性もあると考えられる。その一方で、周囲は湿地状態であり水害の危険に見舞われる危険性もあったと推察される。発掘調査では、このような当時の自然環境と出土遺物を知ることができた。そして、平安時代の人々が水と共に生活していた様子をうかがうことができた貴重な調査と言えよう。

#### 2) 前谷地遺跡

前谷地遺跡の調査では、平安時代と考えられる遺構・遺物を確認することができた。また、包含層である黒色土が良好に残存し、多くの遺物が出土した。遺構の総数は76基で、内訳はピット62基、土坑2基、溝12条である。遺構の年代は古代と考えられる。布目遺跡と比較すると標高も高く、包含層から多数の土師器や須恵器の破片が出土したが、布目遺跡と同様に狭小の調査区であり、掘立柱建物等は確認することができなかった。A区で確認できた溝は、東西方向と南北方向が存在し、立地的にも調査区の東側はさらに標高が高く、居住区域が存在していたのではないかと考えられ、調査区付近は水も豊富であり、水田を行っていた可能性が高いのではないだろうかと推測する。また、基盤層ではあるがやや暗く、掘方があるわけでもない部分がA6グリッドのSD8の西側部分、A2グリッドのSD70の南部分で確認できているこ

とから、SD8~10とSD44~46、70~71は水田耕作に伴う溝と考えることも可能であるが、今回の調査では確認することができなかった。また、A4グリッドは標高が高く、そこから低い部分に水が流れ出していくように溝が掘られていると考えることもできる。

これらのことから、前谷地遺跡の東側には平安時代の集落が存在するのではないかと推測することができた。また、数点ではあるが古墳時代前期の遺物も出土していることから、古墳時代から平安時代にかけての拠点的な集落が存在する可能性が考えられ、今後の貴重な資料となった。

## 2 出土土器の様相

### はじめに

布目遺跡、前谷地遺跡では古代の遺物（整理箱18箱）が出土し、約150基の遺構が検出された。隣接する両遺跡は性格的に同じ様相を呈している。そのため、遺物の概要や時期的なことに関しては、まとめて述べることとする。

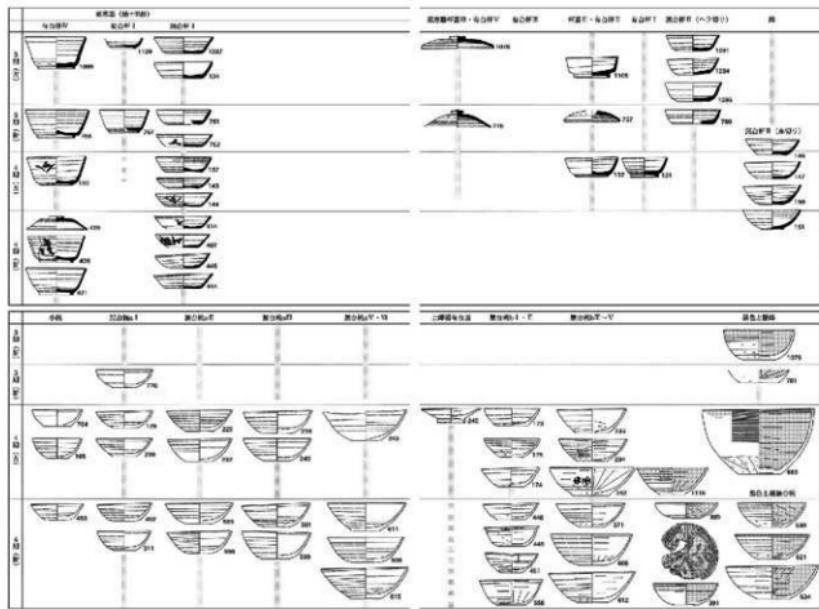
#### 1) 出土土器の概要

布目遺跡、前谷地遺跡から出土した土器の様相は、近接していることもあり類似している。遺構から出土した遺物はほとんどない。土師器を主体に須恵器が一定量を占め、わずかながら黒色土器を伴う。須恵器の無台坏に関しては、小泊窯が大半を占めていると考えられる。土師器は主に食膳具と煮炊具で構成され、食膳具は椀・坏、煮炊具は壺・鍋がある。須恵器は食膳具と貯蔵具があり、食膳具は坏蓋・無台坏、有台坏、貯蔵具は壺、壺が見られる。黒色土器は破片であるが無台碗と考えられる。全体の器形がわかるもの以外に、口縁部や底部を伴ったものはできるだけ図化した。そのため、個体数や種類・器種ごとの割合はある程度、反映されていると考えられ、本遺跡周辺に居住空間が広がっていたと推測される。

#### 2) 年代的な位置付け

新潟県内の編年研究によれば、V期は越後国内へ佐渡産須恵器が流入する時期で、VI期になると在地産須恵器が大幅に減少するので〔春日1999〕、布目遺跡、前谷地遺跡は時期的にはV～VI期〔春日2000〕であり、古代（平安時代9世紀中葉）の遺物が大半を占めると考えられることから、近接する前掛り遺跡とはほぼ同時期の遺跡であることが伺える。

また、近年では同じ柏崎平野にあって三嶋郡の中心に位置付けられている箕輪遺跡での土器編年案が提示されている〔春日2015〕。この編年案の3期は、須恵器技法を用いない土師器食膳具がほとんど確認できなくなり、食膳具の大半を須恵器が占めるようになる。そして須恵器はこれまで主体を占めていた高田平野に所在する須恵器窯跡群に加え、佐渡小泊窯が確認できるようになる。これらのこと、そして器形等の特徴から、布目遺跡、前谷地遺跡から出土した土師器、須恵器は全体的に箕輪遺跡の須恵器の3期（新）～4期（古）に相当すると考えられる。箕輪遺跡3期はV期に併行するが、V期が8世紀末まで上がる可能性は低く、VI期は9世紀第3～4四半期を中心とする時期に位置付けられていることから〔春日2010、2015〕、V期は9世紀前半となる。3期（新）はその後半段階となることから、両遺跡は9世紀中葉段階と捉えておきたい。



第15図 箕輪遺跡編年表 (2015「箕輪遺跡Ⅱ」より引用)

### 3 おわりに

狭小の調査区内で発見された限られた資料から推測を行った。布目遺跡、前谷地遺跡は柏崎平野にあっては西南部に所在するが、9世紀中葉では三鷲郡三鷲郷に属していたと考えられている。その範囲は、中世の鶴川荘域を参考にすれば、鶴川中流域からその右岸の丘陵域、そして鰐石川下流の左岸域までの広がりが想定されている。そして三鷲郷の郷名がそのまま郡の名称となっていることから、郡衙相当施設も三鷲郷内に存在していた可能性が高く、近年の調査により箕輪遺跡が郡衙関連遺跡と考えられている。また、三鷲郷域と想定されている区域における古代遺跡の特徴としては、一部に須恵器窯も発見されているが、鉄生産に関わる遺跡が広範囲に分布していることが近年の調査により指摘されており【品田1993、柏崎市教委1995】、手工業生産がかなり盛んな地域であった。このような地域の一画に位置する布目遺跡、前谷地遺跡が、それらとは無縁の存在とは考えにくい。しかし、同じ古代三鷲郷内にあって、須恵器や鉄の生産地という特別な環境であっても、周辺地域と同じく佐渡小泊窯系の須恵器の出土量があることが判明したといえよう。

狭小の調査区ではあったが今回の布目遺跡・前谷地遺跡と隣接する前掛り遺跡と含め、この地域の古代における集落の一端を解明する光明となったと考えられる。さらに資料が増加し、古代三鷲郷内の須恵器や鉄の生産地という特別な環境の地域の解明が進められることを期待したい。

＜引用・参考文献＞

- 柏崎市教育委員会 1985『吉井遺跡群』柏崎市埋蔵文化財調査報告書第4集
- 柏崎市教育委員会 1987『帝国石油新長岡ライン埋蔵文化財発掘調査報告書（試掘確認調査報告書・吉井水上I遺跡・戸口遺跡）』柏崎市埋蔵文化財調査報告書第8集
- 柏崎市教育委員会 1989『前掛り遺跡－新潟県柏崎市新道・前掛り遺跡試掘調査報告書－』柏崎市埋蔵文化財調査の概要第11集
- 柏崎市教育委員会 1990『千古塚』柏崎市埋蔵文化財調査報告書第11集
- 柏崎市教育委員会 1990『吉井遺跡群II』柏崎市埋蔵文化財調査報告書第13集
- 柏崎市教育委員会 1990『柏崎市の遺跡24』柏崎市埋蔵文化財調査報告書第80集
- 柏崎市教育委員会 1994『横山東遺跡群現地説明会資料』
- 柏崎市教育委員会 1995『藤橋東遺跡群－写真でつづる発掘調査の概要－』柏崎市埋蔵文化財調査図録第1集
- 柏崎市教育委員会 1996『田坂山遺跡群』柏崎市埋蔵文化財調査報告書第21集
- 柏崎市教育委員会 1997『前掛り』柏崎市埋蔵文化財調査報告書第26集
- 柏崎市教育委員会 1997『柏崎市の遺跡IV－柏崎市内遺跡第V期発掘調査報告書－』柏崎市埋蔵文化財調査報告書第27集
- 柏崎市教育委員会 2014『柏崎の遺跡23』柏崎市埋蔵文化財調査報告書第75集
- 柏崎市教育委員会 2015a『善根大坪』柏崎市埋蔵文化財調査報告書第79集
- 柏崎市教育委員会 2015b『柏崎の遺跡24』柏崎市埋蔵文化財調査報告書第80集
- 柏崎市教育委員会 2016a『丘江』柏崎市埋蔵文化財調査報告書第81集
- 柏崎市教育委員会 2016b『柏崎の遺跡26』柏崎市埋蔵文化財調査報告書第84集
- 柏崎市教育委員会 2017『中田下川原』柏崎市埋蔵文化財調査報告書第88集
- 柏崎市教育委員会 2017『磯部II』柏崎市埋蔵文化財調査報告書第87集
- 柏崎市教育委員会 2017『磯部I』柏崎市埋蔵文化財調査報告書第85集
- 柏崎市 1990『柏崎市史 上巻』
- 刈羽村教育委員会 1995『枯木A遺跡』刈羽村埋蔵文化財調査報告書第2集
- 新潟県教育委員会 1984『上新バイパス関係遺跡発掘調査報告 今池遺跡・下新町遺跡・子安遺跡』新潟県埋蔵文化財発掘調査報告書第35集
- 新潟県教育委員会 1988『北陸自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書（西田・鶴巻田遺跡群）』新潟県埋蔵文化財発掘調査報告書第27集
- 新潟県教育委員会・新潟県埋蔵文化財事業団 1999『和泉A遺跡 上信越自動車道関係発掘調査報告書V』新潟県埋蔵文化財発掘調査報告書第93集
- 新潟県教育委員会・新潟県埋蔵文化財事業団 2001『梯子谷窓跡 国道116号出雲崎バイパス関係発掘調査報告書IV』新潟県埋蔵文化財発掘調査報告書第104集
- 新潟県教育委員会・新潟県埋蔵文化財事業団 2010『西部遺跡II 日本海沿岸東北自動車道関係発掘調査報告書XXXIII』新潟県埋蔵文化財発掘調査報告書第206集
- 新潟県教育委員会・新潟県埋蔵文化財事業団 2015『箕輪遺跡II 一般国道8号柏崎バイパス関係発掘調査報告書IX』新潟県埋蔵文化財発掘調査報告書第254集
- 新潟県教育委員会・新潟県埋蔵文化財事業団 2015『田坂遺跡 一般国道8号柏崎バイパス関係発掘調査報告書IX』新潟県埋蔵文化財発掘調査報告書第252集
- 新潟県教育委員会・新潟県埋蔵文化財事業団 2015『田坂遺跡II 一般国道8号柏崎バイパス関係発掘調査報告書IX』新潟県埋蔵文化財発掘調査報告書第264集
- 長岡市教育委員会 2015『五百刈遺跡』県営経営体育成基整備事業（富島地区）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
- 萩野正博 1983『越後国中世莊園の成立』『新潟史学』第16号 新潟史学会
- 品田高志 1993『柏崎平野の古代鉄生産遺構－藤橋東遺跡群の発見とその意義－』『新潟考古学談話会会報』第12号新潟考古談話会
- 品田高志 1995『鶴川中流域における古代・中世の遺跡』『柏崎の遺跡IV』柏崎市埋蔵文化財調査報告書第20集 柏崎市教育委員会
- 品田高志 1994『古代三鶴郡と古代時の様相－柏崎平野における古代史理解に向けて－』『柏崎市立博物館館報』No.8 柏崎市博物館

- 村山教二 1990「中世」『柏崎市史 上巻』 柏崎市
- 田村 純 1995「平安時代の土器食膳具について」『門新遺跡』和島村埋蔵文化財調査報告書第4集  
和島村教育委員会
- 中野豈任 1988「忘れられた靈場－中世心性史の試み－」平凡社選書123
- 中野豈任 1988「安楽寺経塚出土『紙本妙法蓮華經』の奥書き」『越佐研究』第45巻 新潟県人文研究会
- 春日真実 1991「古代佐渡小泊窯における須恵器生産と流通」『新潟考古学談話会会報』第8号 新潟考古学談話会
- 春日真実 1995「古代集落の展開-越後を事例として-」『研究紀要』新潟県埋蔵文化財事業団
- 春日真実 1996「越後・佐渡の様相」『北陸の9世紀代の土器様相』(第77回北陸古代土器研究会資料)  
北陸古代土器研究会
- 春日真実 1997「越後における10・11世紀の土器様相」『北陸古代土器研究』第7号 北陸土器研究会
- 春日真実 1999「第4章2土器編年と地域性」『新潟県の考古学』新潟県考古学会
- 春日真実 2010「貞觀5年の地震痕跡再考-百瀬正恒氏からの批判に対する反論」『三面川流域の考古学』第8号  
奥三面を考える会
- 春日真実 2015「遺跡の位置と概要」「まとめ 1 土器 陶磁器」「箕輪遺跡II 一般国道8号柏崎バイパス関係発掘調査  
報告書Ⅸ』新潟県埋蔵文化財発掘調査報告書第254集

附表1 布目遺跡 遺構觀察表(◎多量、○少量、△微量、×無)



附表2 前谷地遺跡 遺構觀察表 (○多量、○少量、△微量、×無)



附表3 布目遺跡遺物觀察表



附表4 前谷地遺跡土器觀察表

番号	測定名	グリッド	所位	種別	標種	残存部位	注量(cm)	口径	電極	断面	測量・丈録		地質	地層	地物	備考
											外側	内側				
17	-	A3	R	柱状	柱状	底面	-	3.0	L1 L2 L3 L4 L5 L6 L7 L8 L9 L10 L11 L12 L13 L14 L15 L16 L17 L18 L19 L20 L21 L22 L23 L24 L25 L26 L27 L28 L29 L30 L31 L32 L33 L34 L35 L36 L37 L38 L39 L40 L41 L42 L43 L44 L45 L46 L47 L48 L49 L50 L51 L52 L53 L54 L55 L56 L57 L58 L59 L60 L61 L62 L63 L64 L65 L66 L67 L68 L69 L70 L71 L72 L73 L74 L75 L76 L77 L78 L79 L80 L81 L82 L83 L84 L85 L86 L87 L88 L89 L90 L91 L92 L93 L94 L95 L96 L97 L98 L99 L100 L101 L102 L103 L104 L105 L106 L107 L108 L109 L110 L111 L112 L113 L114 L115 L116 L117 L118 L119 L120 L121 L122 L123 L124 L125 L126 L127 L128 L129 L130 L131 L132 L133 L134 L135 L136 L137 L138 L139 L140 L141 L142 L143 L144 L145 L146 L147 L148 L149 L150 L151 L152 L153 L154 L155 L156 L157 L158 L159 L160 L161 L162 L163 L164 L165 L166 L167 L168 L169 L170 L171 L172 L173 L174 L175 L176 L177 L178 L179 L180 L181 L182 L183 L184 L185 L186 L187 L188 L189 L190 L191 L192 L193 L194 L195 L196 L197 L198 L199 L200 L201 L202 L203 L204 L205 L206 L207 L208 L209 L210 L211 L212 L213 L214 L215 L216 L217 L218 L219 L220 L221 L222 L223 L224 L225 L226 L227 L228 L229 L230 L231 L232 L233 L234 L235 L236 L237 L238 L239 L240 L241 L242 L243 L244 L245 L246 L247 L248 L249 L250 L251 L252 L253 L254 L255 L256 L257 L258 L259 L259 L260 L261 L262 L263 L264 L265 L266 L267 L268 L269 L270 L271 L272 L273 L274 L275 L276 L277 L278 L279 L280 L281 L282 L283 L284 L285 L286 L287 L288 L289 L290 L291 L292 L293 L294 L295 L296 L297 L298 L299 L300 L301 L302 L303 L304 L305 L306 L307 L308 L309 L309 L310 L311 L312 L313 L314 L315 L316 L317 L318 L319 L320 L321 L322 L323 L324 L325 L326 L327 L328 L329 L329 L330 L331 L332 L333 L334 L335 L336 L337 L338 L339 L339 L340 L341 L342 L343 L344 L345 L346 L347 L348 L349 L349 L350 L351 L352 L353 L354 L355 L356 L357 L358 L359 L359 L360 L361 L362 L363 L364 L365 L366 L367 L368 L369 L369 L370 L371 L372 L373 L374 L375 L376 L377 L378 L379 L379 L380 L381 L382 L383 L384 L385 L386 L387 L388 L389 L389 L390 L391 L392 L393 L394 L395 L396 L397 L398 L399 L399 L400 L401 L402 L403 L404 L405 L406 L407 L408 L409 L409 L410 L411 L412 L413 L414 L415 L416 L417 L418 L419 L419 L420 L421 L422 L423 L424 L425 L426 L427 L428 L429 L429 L430 L431 L432 L433 L434 L435 L436 L437 L438 L439 L439 L440 L441 L442 L443 L444 L445 L446 L447 L448 L449 L449 L450 L451 L452 L453 L454 L455 L456 L457 L458 L459 L459 L460 L461 L462 L463 L464 L465 L466 L467 L468 L469 L469 L470 L471 L472 L473 L474 L475 L476 L477 L478 L479 L479 L480 L481 L482 L483 L484 L485 L486 L487 L488 L489 L489 L490 L491 L492 L493 L494 L495 L496 L497 L498 L499 L499 L500 L501 L502 L503 L504 L505 L506 L507 L508 L509 L509 L510 L511 L512 L513 L514 L515 L516 L517 L518 L519 L519 L520 L521 L522 L523 L524 L525 L526 L527 L528 L529 L529 L530 L531 L532 L533 L534 L535 L536 L537 L538 L539 L539 L540 L541 L542 L543 L544 L545 L546 L547 L548 L549 L549 L550 L551 L552 L553 L554 L555 L556 L557 L558 L559 L559 L560 L561 L562 L563 L564 L565 L566 L567 L568 L569 L569 L570 L571 L572 L573 L574 L575 L576 L577 L578 L579 L579 L580 L581 L582 L583 L584 L585 L586 L587 L588 L589 L589 L590 L591 L592 L593 L594 L595 L596 L597 L598 L599 L599 L600 L601 L602 L603 L604 L605 L606 L607 L608 L609 L609 L610 L611 L612 L613 L614 L615 L616 L617 L618 L619 L619 L620 L621 L622 L623 L624 L625 L626 L627 L628 L629 L629 L630 L631 L632 L633 L634 L635 L636 L637 L638 L639 L639 L640 L641 L642 L643 L644 L645 L646 L647 L648 L649 L649 L650 L651 L652 L653 L654 L655 L656 L657 L658 L659 L659 L660 L661 L662 L663 L664 L665 L666 L667 L668 L669 L669 L670 L671 L672 L673 L674 L675 L676 L677 L678 L679 L679 L680 L681 L682 L683 L684 L685 L686 L687 L688 L689 L689 L690 L691 L692 L693 L694 L695 L696 L697 L698 L699 L699 L700 L701 L702 L703 L704 L705 L706 L707 L708 L709 L709 L710 L711 L712 L713 L714 L715 L716 L717 L718 L719 L719 L720 L721 L722 L723 L724 L725 L726 L727 L728 L729 L729 L730 L731 L732 L733 L734 L735 L736 L737 L738 L739 L739 L740 L741 L742 L743 L744 L745 L746 L747 L748 L749 L749 L750 L751 L752 L753 L754 L755 L756 L757 L758 L759 L759 L760 L761 L762 L763 L764 L765 L766 L767 L768 L769 L769 L770 L771 L772 L773 L774 L775 L776 L777 L778 L779 L779 L780 L781 L782 L783 L784 L785 L786 L787 L788 L789 L789 L790 L791 L792 L793 L794 L795 L796 L797 L798 L799 L799 L800 L801 L802 L803 L804 L805 L806 L807 L808 L809 L809 L810 L811 L812 L813 L814 L815 L816 L817 L818 L819 L819 L820 L821 L822 L823 L824 L825 L826 L827 L828 L829 L829 L830 L831 L832 L833 L834 L835 L836 L837 L838 L839 L839 L840 L841 L842 L843 L844 L845 L846 L847 L848 L849 L849 L850 L851 L852 L853 L854 L855 L856 L857 L858 L859 L859 L860 L861 L862 L863 L864 L865 L866 L867 L868 L869 L869 L870 L871 L872 L873 L874 L875 L876 L877 L878 L879 L879 L880 L881 L882 L883 L884 L885 L886 L887 L888 L889 L889 L890 L891 L892 L893 L894 L895 L896 L897 L898 L899 L899 L900 L901 L902 L903 L904 L905 L906 L907 L908 L909 L909 L910 L911 L912 L913 L914 L915 L916 L917 L918 L919 L919 L920 L921 L922 L923 L924 L925 L926 L927 L928 L929 L929 L930 L931 L932 L933 L934 L935 L936 L937 L938 L939 L939 L940 L941 L942 L943 L944 L945 L946 L947 L948 L949 L949 L950 L951 L952 L953 L954 L955 L956 L957 L958 L959 L959 L960 L961 L962 L963 L964 L965 L966 L967 L968 L969 L969 L970 L971 L972 L973 L974 L975 L976 L977 L978 L979 L979 L980 L981 L982 L983 L984 L985 L986 L987 L988 L989 L989 L990 L991 L992 L993 L994 L995 L996 L997 L998 L999 L999 L1000 L1001 L1002 L1003 L1004 L1005 L1006 L1007 L1008 L1009 L1009 L1010 L1011 L1012 L1013 L1014 L1015 L1016 L1017 L1018 L1019 L1019 L1020 L1021 L1022 L1023 L1024 L1025 L1026 L1027 L1028 L1029 L1029 L1030 L1031 L1032 L1033 L1034 L1035 L1036 L1037 L1038 L1039 L1039 L1040 L1041 L1042 L1043 L1044 L1045 L1046 L1047 L1048 L1049 L1049 L1050 L1051 L1052 L1053 L1054 L1055 L1056 L1057 L1058 L1059 L1059 L1060 L1061 L1062 L1063 L1064 L1065 L1066 L1067 L1068 L1069 L1069 L1070 L1071 L1072 L1073 L1074 L1075 L1076 L1077 L1078 L1079 L1079 L1080 L1081 L1082 L1083 L1084 L1085 L1086 L1087 L1088 L1089 L1089 L1090 L1091 L1092 L1093 L1094 L1095 L1096 L1097 L1098 L1099 L1099 L1100 L1101 L1102 L1103 L1104 L1105 L1106 L1107 L1108 L1109 L1109 L1110 L1111 L1112 L1113 L1114 L1115 L1116 L1117 L1118 L1119 L1119 L1120 L1121 L1122 L1123 L1124 L1125 L1126 L1127 L1128 L1129 L1129 L1130 L1131 L1132 L1133 L1134 L1135 L1136 L1137 L1138 L1139 L1139 L1140 L1141 L1142 L1143 L1144 L1145 L1146 L1147 L1148 L1149 L1149 L1150 L1151 L1152 L1153 L1154 L1155 L1156 L1157 L1158 L1159 L1159 L1160 L1161 L1162 L1163 L1164 L1165 L1166 L1167 L1168 L1169 L1169 L1170 L1171 L1172 L1173 L1174 L1175 L1176 L1177 L1178 L1179 L1179 L1180 L1181 L1182 L1183 L1184 L1185 L1186 L1187 L1188 L1189 L1189 L1190 L1191 L1192 L1193 L1194 L1195 L1196 L1197 L1198 L1199 L1199 L1200 L1201 L1202 L1203 L1204 L1205 L1206 L1207 L1208 L1209 L1209 L1210 L1211 L1212 L1213 L1214 L1215 L1216 L1217 L1218 L1219 L1219 L1220 L1221 L1222 L1223 L1224 L1225 L1226 L1227 L1228 L1229 L1229 L1230 L1231 L1232 L1233 L1234 L1235 L1236 L1237 L1238 L1239 L1239 L1240 L1241 L1242 L1243 L1244 L1245 L1246 L1247 L1248 L1249 L1249 L1250 L1251 L1252 L1253 L1254 L1255 L1256 L1257 L1258 L1259 L1259 L1260 L1261 L1262 L1263 L1264 L1265 L1266 L1267 L1268 L1269 L1269 L1270 L1271 L1272 L1273 L1274 L1275 L1276 L1277 L1278 L1279 L1279 L1280 L1281 L1282 L1283 L1284 L1285 L1286 L1287 L1288 L1289 L1289 L1290 L1291 L1292 L1293 L1294 L1295 L1296 L1297 L1298 L1299 L1299 L1300 L1301 L1302 L1303 L1304 L1305 L1306 L1307 L1308 L1309 L1309 L1310 L1311 L1312 L1313 L1314 L1315 L1316 L1317 L1318 L1319 L1319 L1320 L1321 L1322 L1323 L1324 L1325 L1326 L1327 L1328 L1329 L1329 L1330 L1331 L1332 L1333 L1334 L1335 L1336 L1337 L1338 L1339 L1339 L1340 L1341 L1342 L1343 L1344 L1345 L1346 L1347 L1348 L1349 L1349 L1350 L1351 L1352 L1353 L1354 L1355 L1356 L1357 L1358 L1359 L1359 L1360 L1361 L1362 L1363 L1364 L1365 L1366 L1367 L1368 L1369 L1369 L1370 L1371 L1372 L1373 L1374 L1375 L1376 L1377 L1378 L1379 L1379 L1380 L1381 L1382 L1383 L1384 L1385 L1386 L1387 L1388 L1389 L1389 L1390 L1391 L1392 L1393 L1394 L1395 L1396 L1397 L1398 L1399 L1399 L1400 L1401 L1402 L1403 L1404 L1405 L1406 L1407 L1408 L1409 L1409 L1410 L1411 L1412 L1413 L1414 L1415 L1416 L1417 L1418 L1419 L1419 L1420 L1421 L1422 L1423 L1424 L1425 L1426 L1427 L1428 L1429 L1429 L1430 L1431 L1432 L1433 L1434 L1435 L1436 L1437 L1438 L1439 L1439 L1440 L1441 L1442 L1443 L1444 L1445 L1446 L1447 L1448 L1449 L1449 L1450 L1451 L1452 L1453 L1454 L1455 L1456 L1457 L1458 L1459 L1459 L1460 L1461 L1462 L1463 L1464 L1465 L1466 L1467 L1468 L1469 L1469 L1470 L1471 L1472 L1473 L1474 L1475 L1476 L1477 L1478 L1479 L1479 L1480 L1481 L1482 L1483 L1484 L1485 L1486 L1487 L1488 L1489 L1489 L1490 L1491 L1492 L1493 L1494 L1495 L1496 L1497 L1498 L1499 L1499 L1500 L1501 L1502 L1503 L1504 L1505 L1506 L1507 L1508 L1509 L1509 L1510 L1511 L1512 L1513 L1514 L1515 L1516 L1517 L1518 L1519 L1519 L1520 L1521 L1522 L1523 L1524 L1525 L1526 L1527 L1528 L1529 L1529 L1530 L1531 L1532 L1533 L1534 L1535 L1536 L1537 L1538 L1539 L1539 L1540 L1541 L1542 L1543 L1544 L1545 L1546 L1547 L1548 L1549 L1549 L1550 L1551 L1552 L1553 L1554 L1555 L1556 L1557 L1558 L1559 L1559 L1560 L1561 L1562 L1563 L1564 L1565 L1566 L1567 L1568 L1569 L1569 L1570 L1571 L1572 L1573 L1574 L1575 L1576 L1577 L1578 L1579 L1579 L1580 L1581 L1582 L1583 L1584 L1585 L1586 L1587 L1588 L1589 L1589 L1590 L1591 L1592 L1593 L1594 L1595 L1596 L1597 L1598 L1599 L1599 L1600 L1601 L1602 L1603 L1604 L1605 L1606 L1607 L1608 L1609 L1609 L1610 L1611 L1612 L1613 L1614 L1615 L1616 L1617 L1618 L1619 L1619 L1620 L1621 L1622 L1623 L1624 L1625 L1626 L1627 L1628 L1629 L1629 L1630 L1631 L1632 L1633 L1634 L1635 L1636 L1637 L1638 L1639 L1639 L1640 L1641 L1642 L1643 L1644 L1645 L1646 L1647 L1648 L1649 L1649 L1650 L1651 L1652 L1653 L1654 L1655 L1656 L1657 L1658 L1659 L1659 L1660 L1661 L1662 L1663 L1664 L1665 L1666 L1667 L1668 L1669 L1669 L1670 L1671<br							

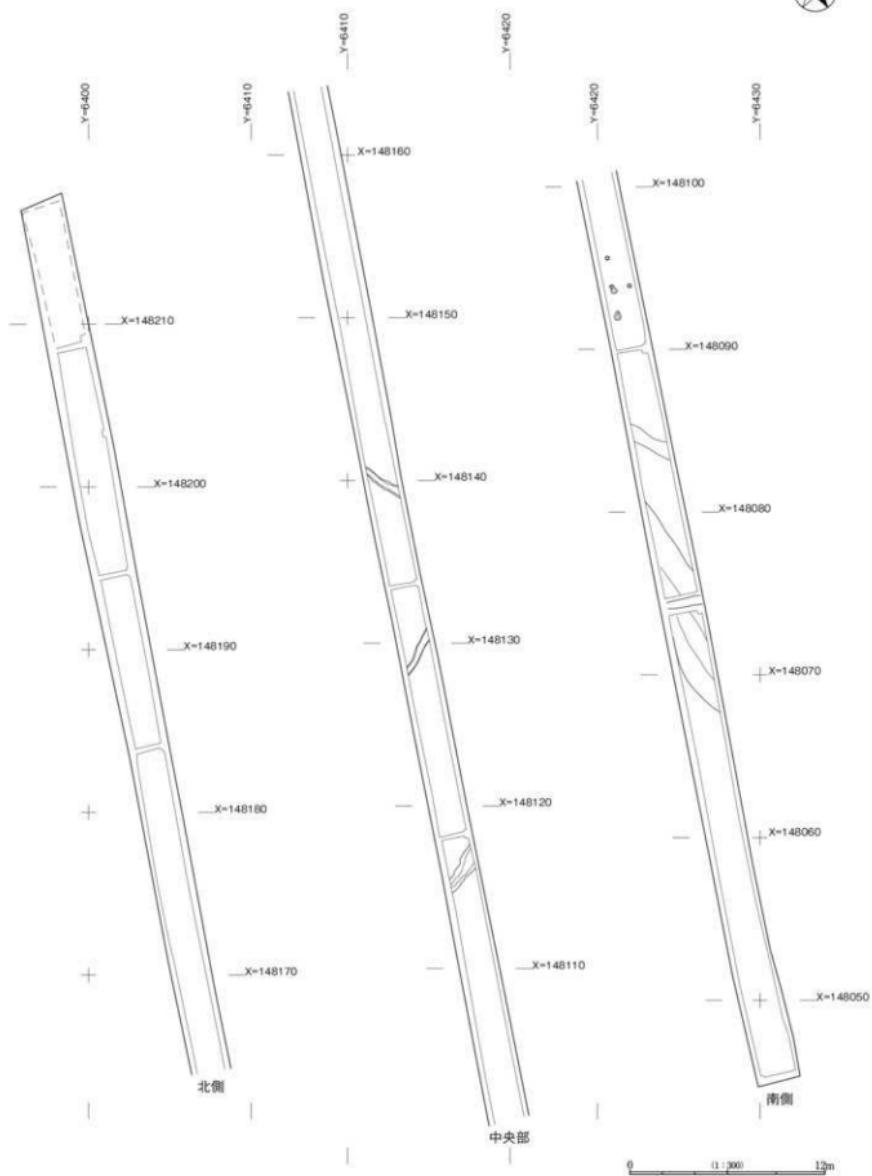






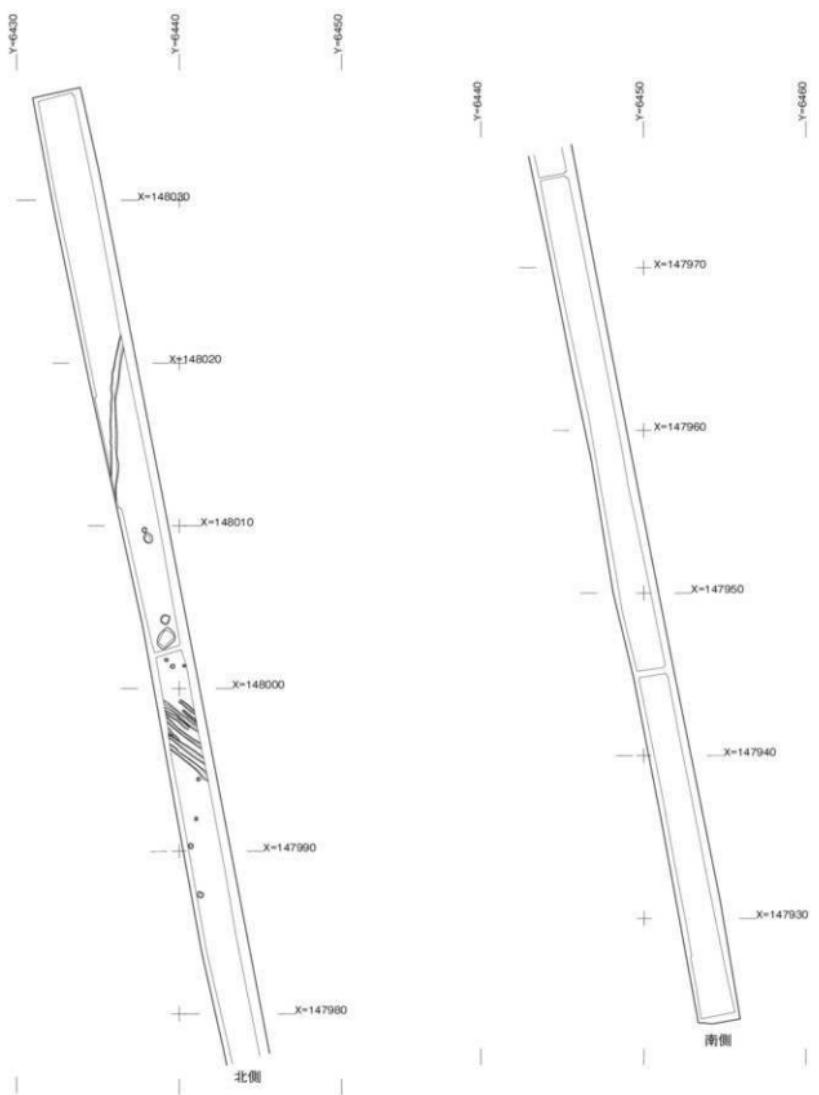


## 布目遺跡 A区 全体図

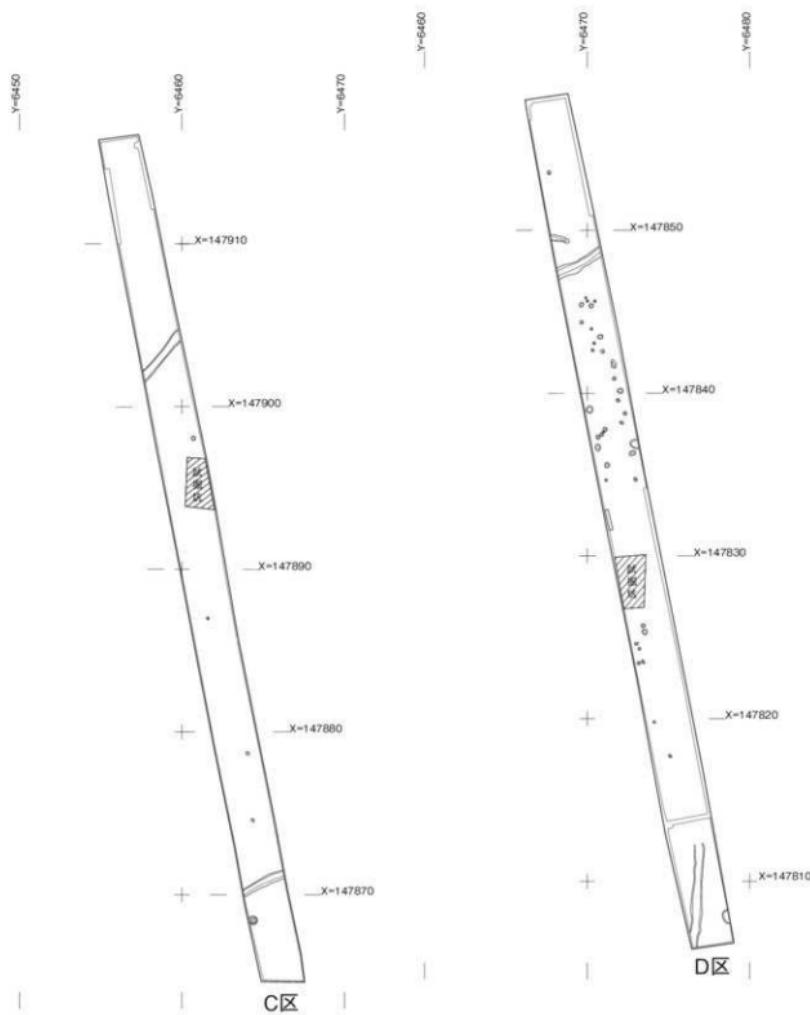


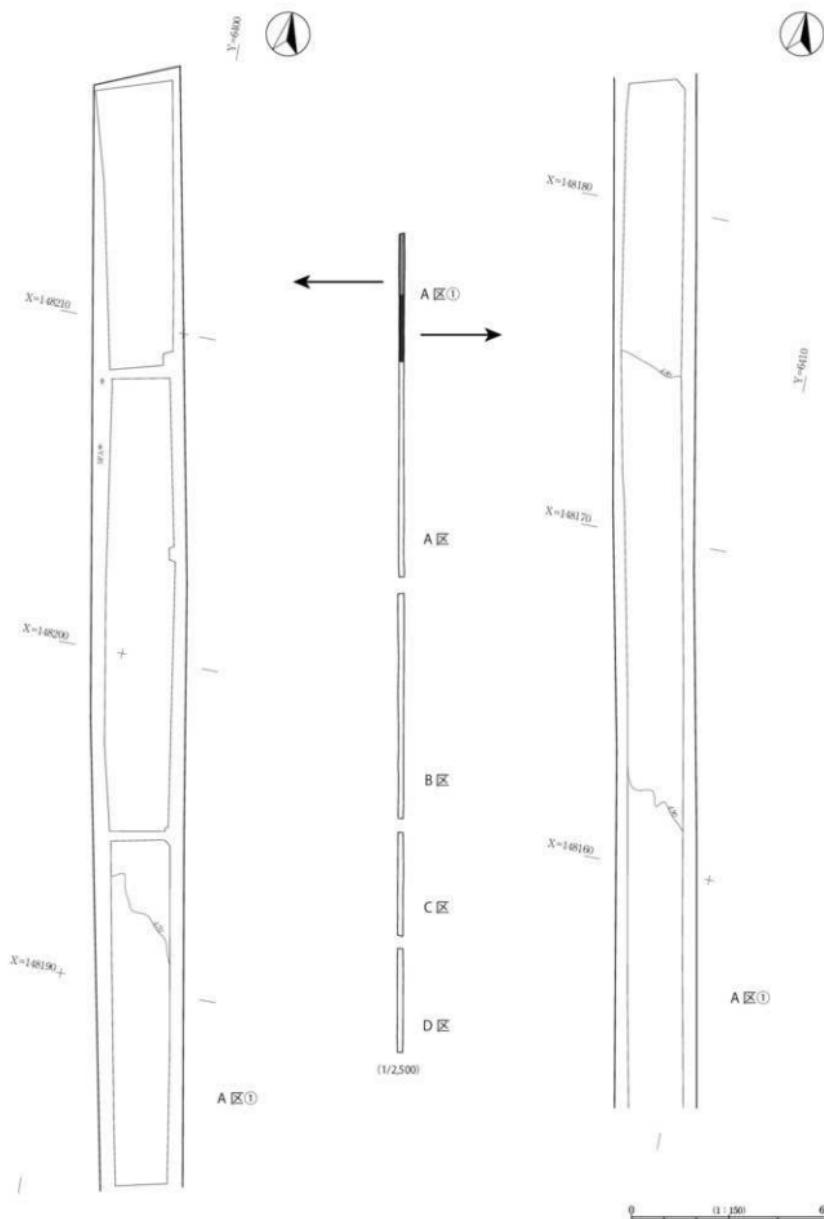
図版2

## 布目遺跡 B区 全体図

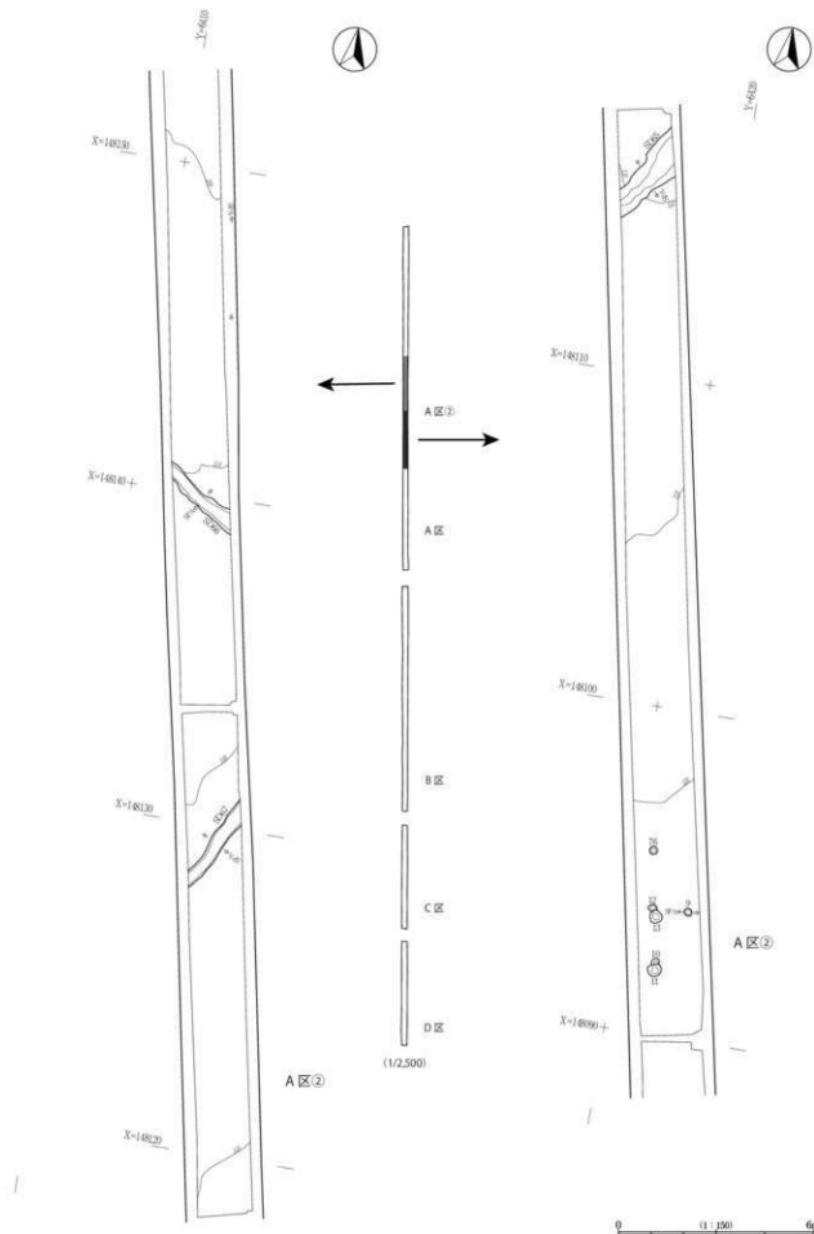


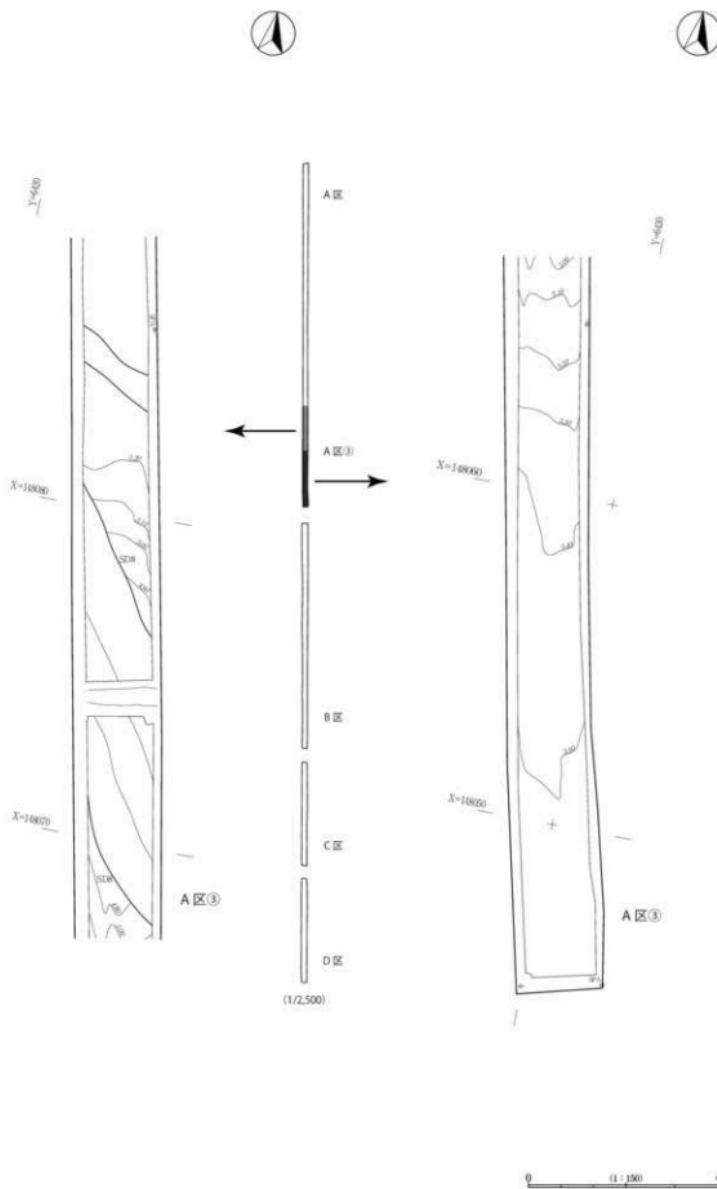
## 布目遺跡 C・D区 全体図



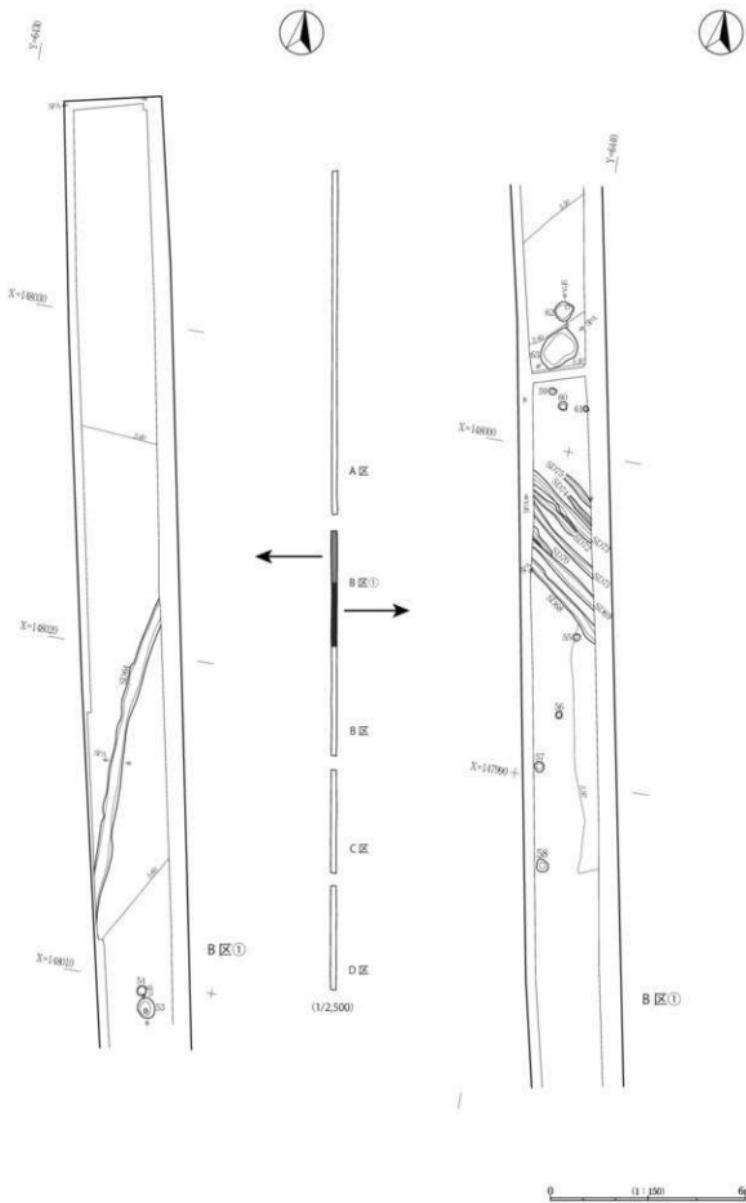


## 布目遺跡 遺構平面図 (2/7)

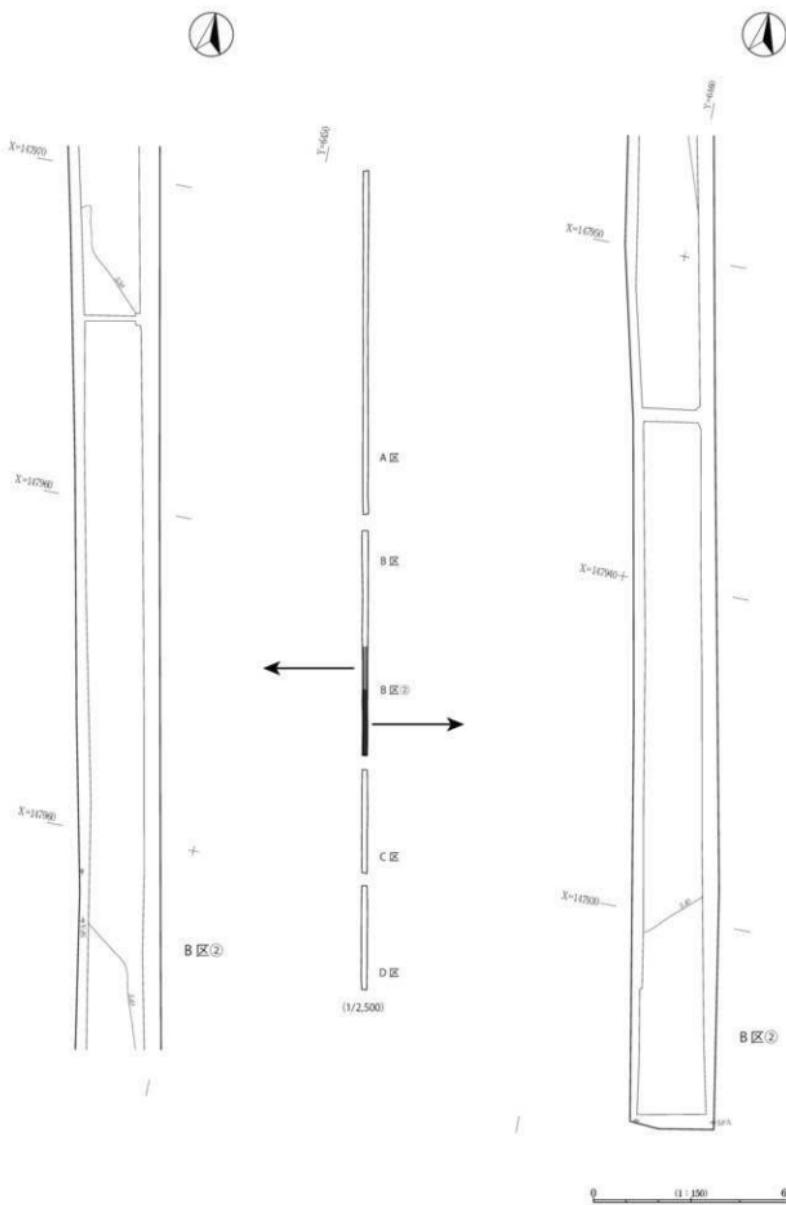




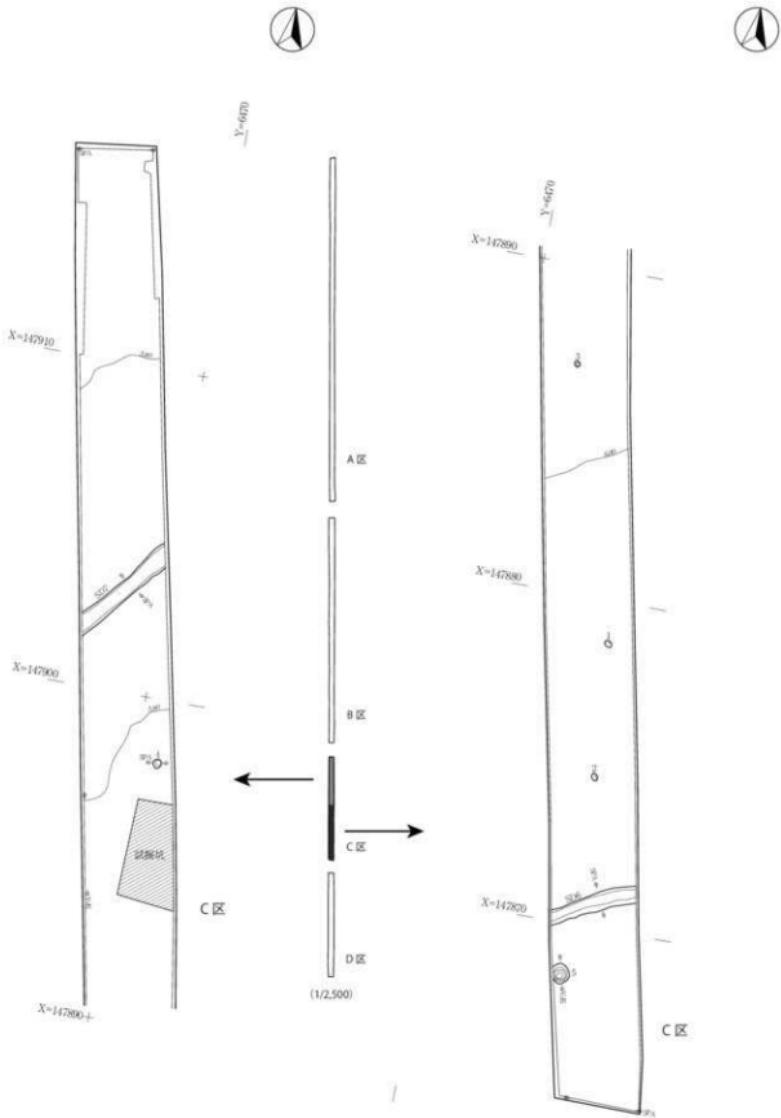
## 布目遺跡 遺構平面図 (4/7)



## 布目遺跡 遺構平面図 (5/7)

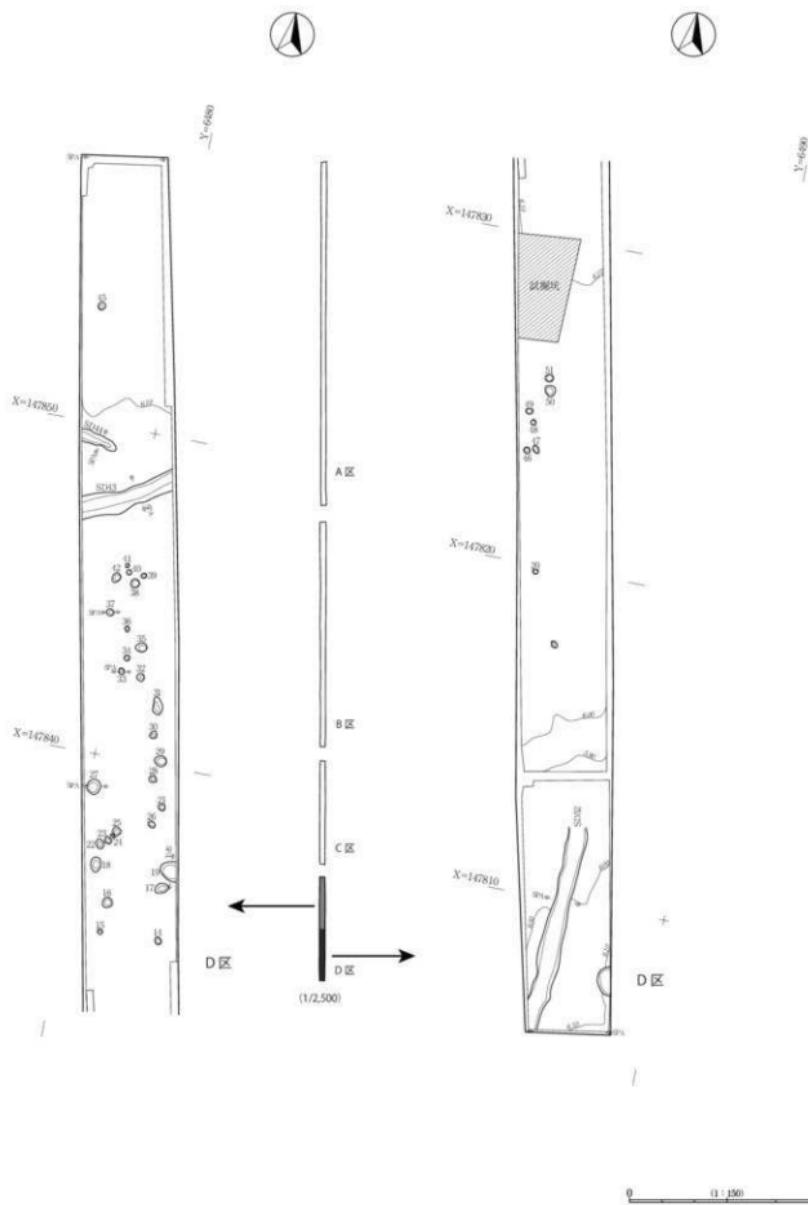


## 布目遺跡 遺構平面図 (6/7)



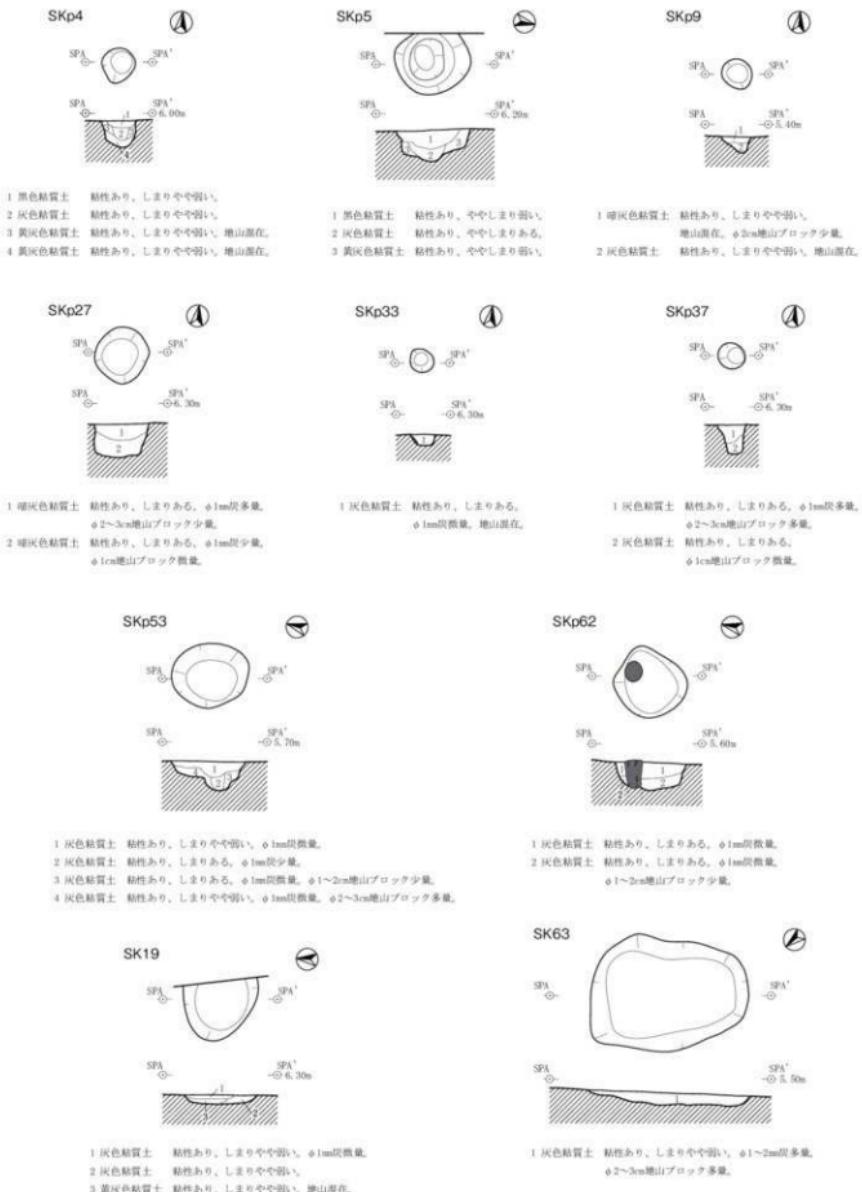
0 (1 : 150) 6m

## 布目遺跡 遺構平面図 (7/7)



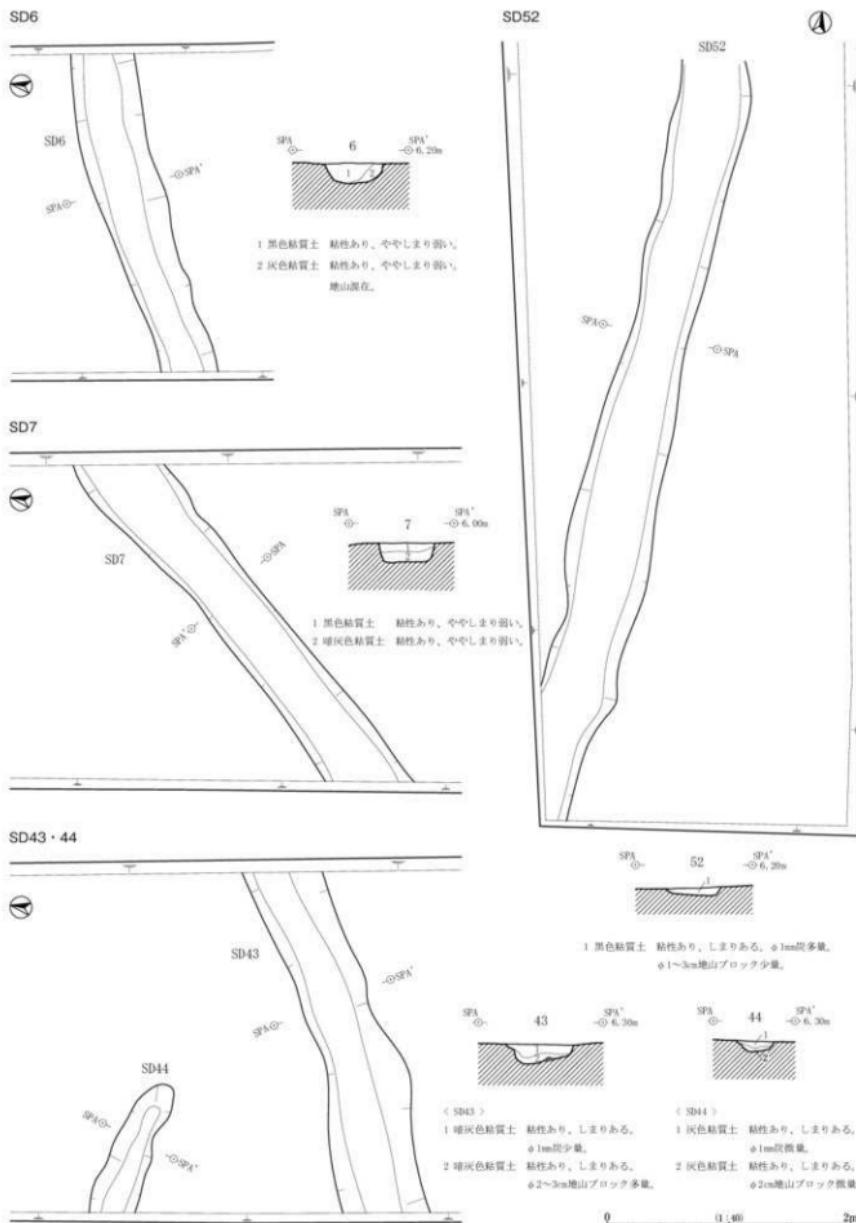
図版 11

## 布目遺跡 遺構個別図 1

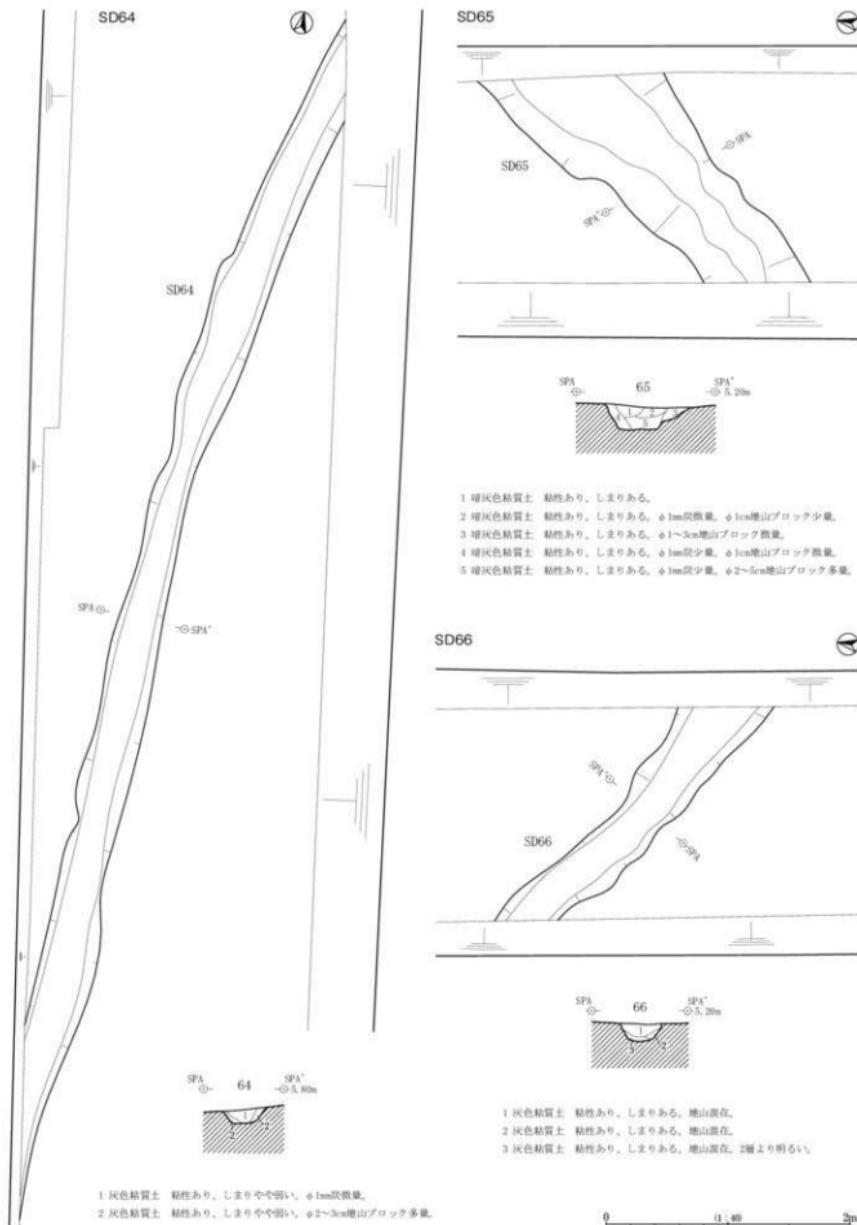


図版 12

## 布目遺跡 遺構個別図2

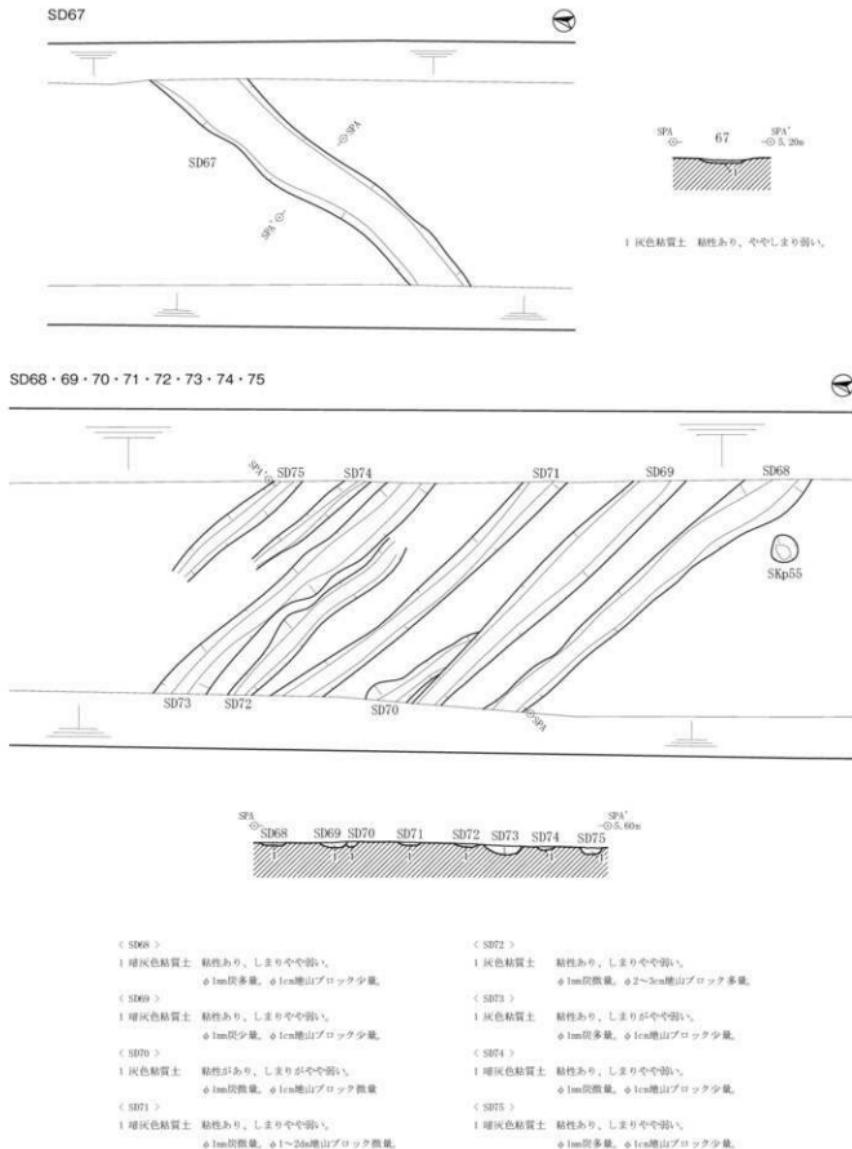


## 布目遺跡 遺構個別図 3



図版 14

布目遺跡 遺構個別図 4

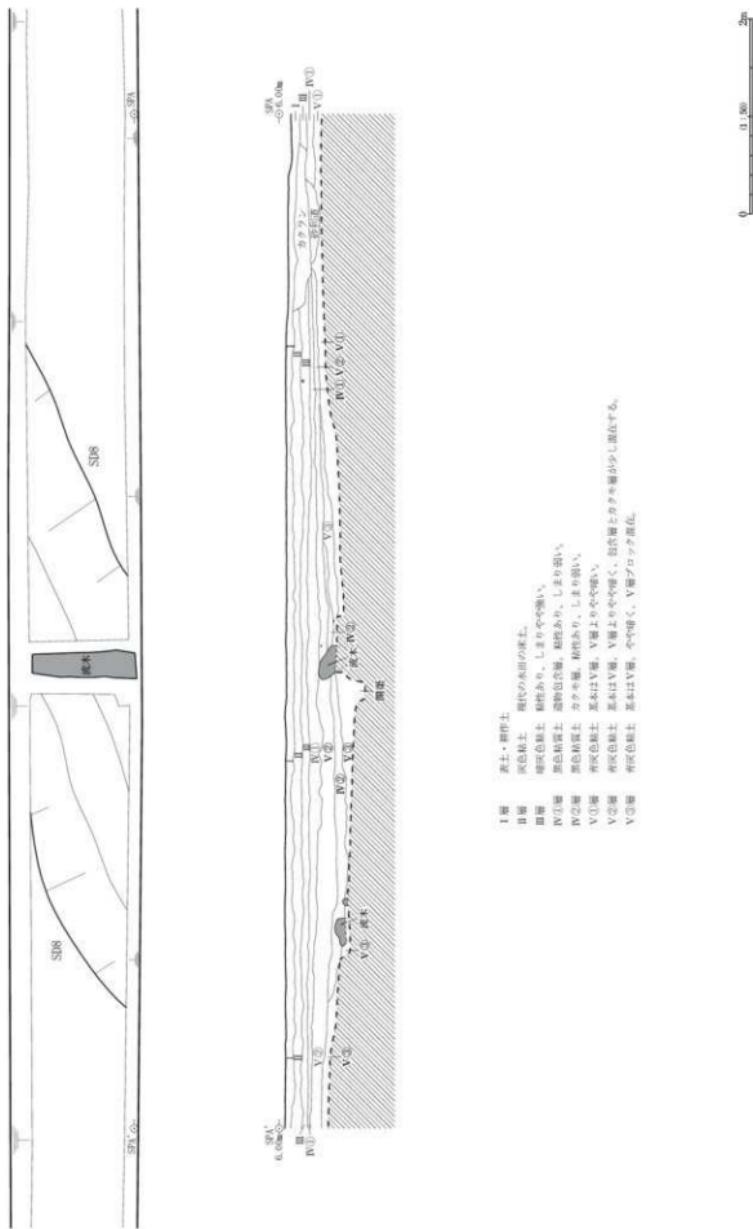


布目遺跡 遺構個別図 5

図版 15

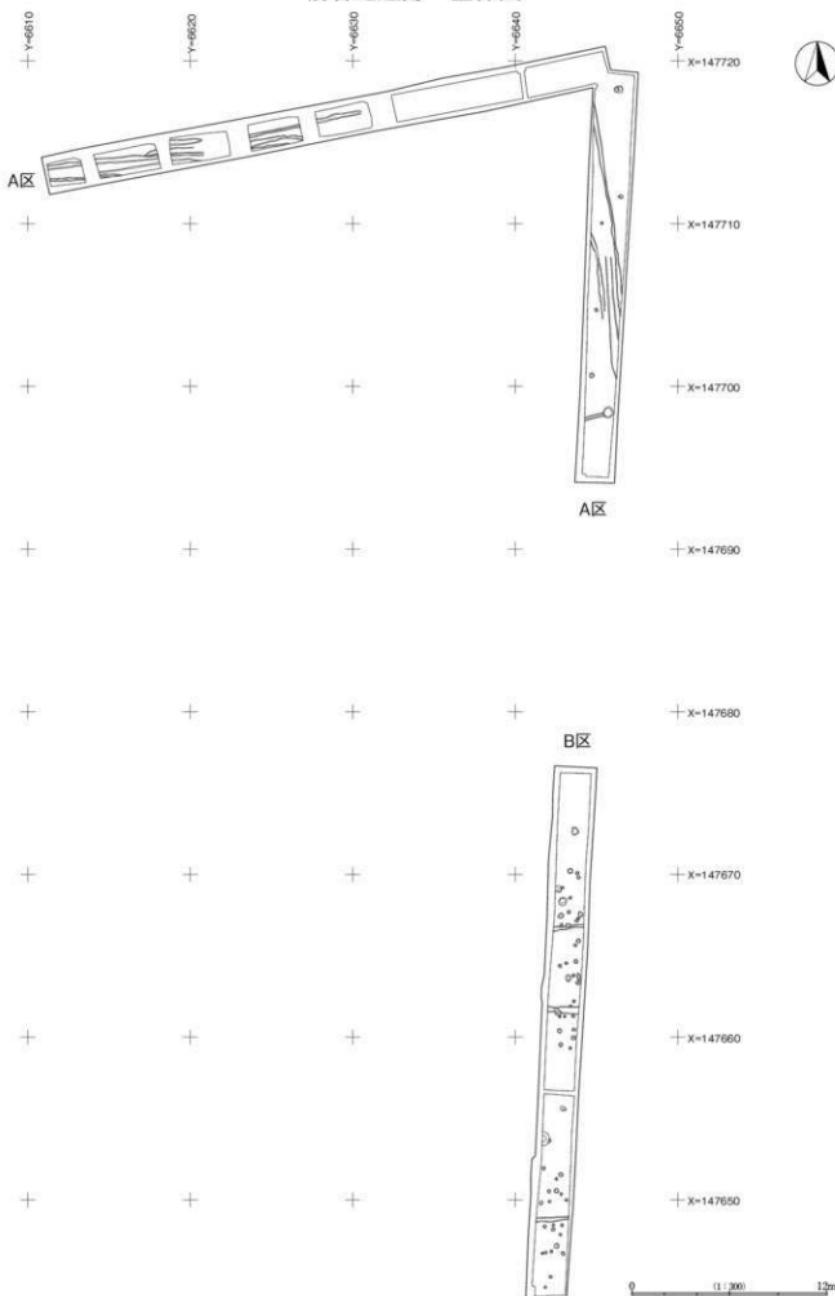


SDG



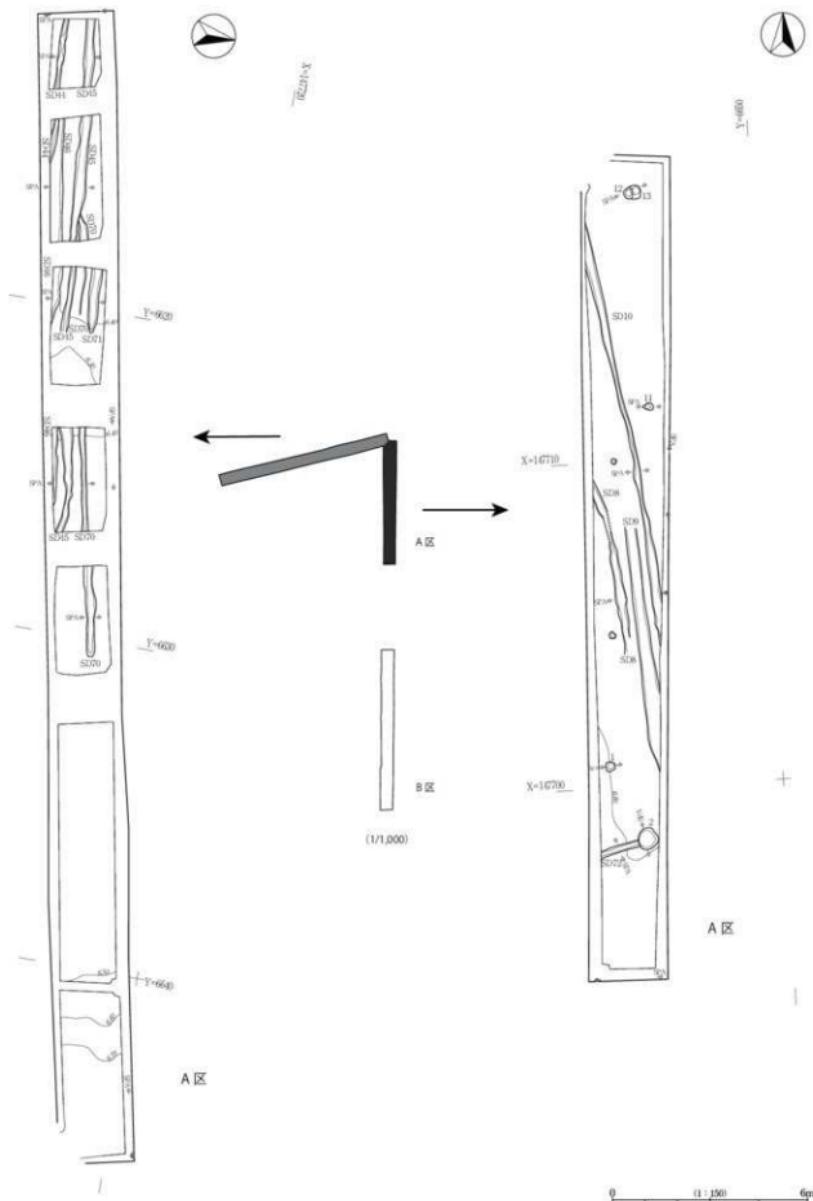
図版 16

## 前谷地遺跡 全体図



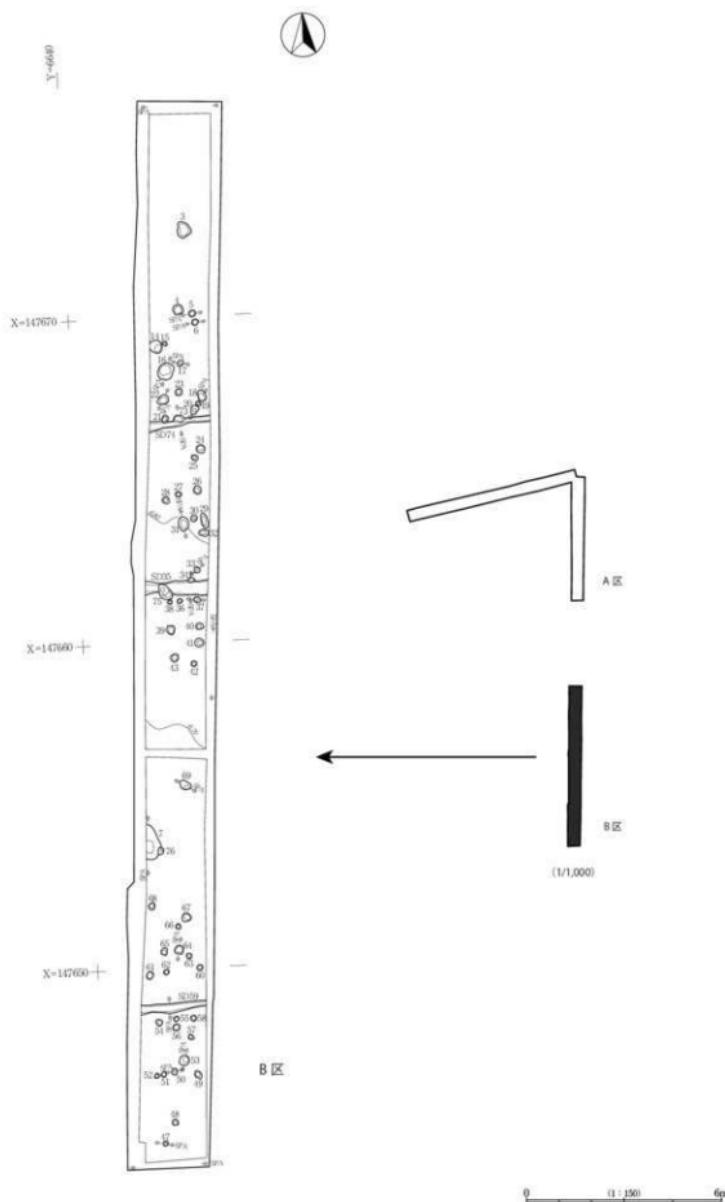
### 前谷地遺跡 遺構平面図 (1/2)

図版 17

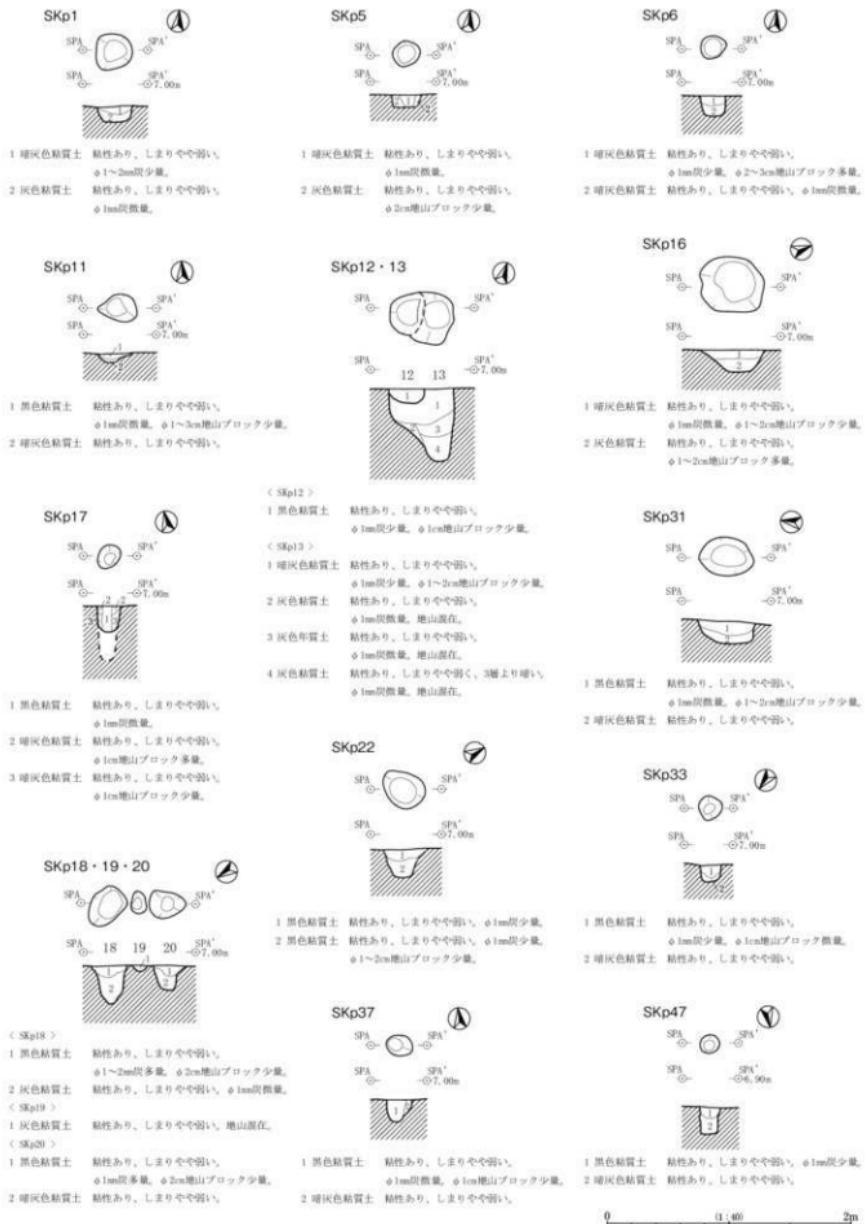


図版 18

前谷地遺跡 遺構平面図 (2/2)

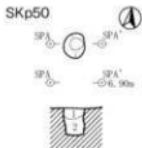


## 前谷地遺跡 遺構個別図 1



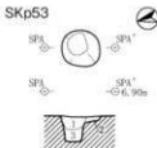
0 (1/40) 2m

## 前谷地遺跡 遺構個別図 2



1 黒色粘質土 粘性あり。しまりやや弱い。φ1mm程度。  
φ1~2cm塊山ブロック少量。

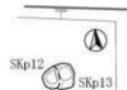
2 増灰色粘質土 粘性あり。しまり弱い。



1 黒色粘質土 粘性あり。しまりやや弱い。φ1mm程度。  
粘性あり。しまり弱い。

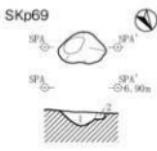
2 黒色粘質土 粘性あり。しまり弱い。

3 増灰色粘質土 粘性あり。しまりやや弱い。塊山層在。



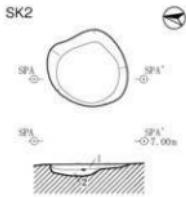
1 黒色粘質土 粘性あり。しまりやや弱い。φ1mm程度。  
φ2cm塊山ブロック少量。

2 増灰色粘質土 粘性あり。しまりやや弱い。塊山層在。



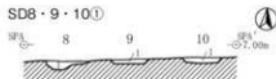
1 黒色粘質土 粘性あり。しまりやや弱い。φ1mm程度少量。

2 増灰色粘質土 粘性あり。しまりやや弱い。



1 増灰色粘質土 粘性あり。しまりやや弱い。φ1~2mm程度少量。

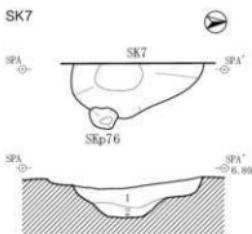
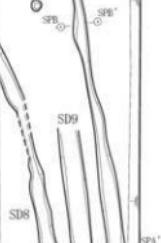
2 黑色粘質土 粘性あり。しまりやや弱い。φ1~2mm程度少量。



< SD8 >  
1 黒色粘質土 粘性あり。しまりやや弱い。  
φ1mm程度。φ2~3cm塊山ブロック少量。

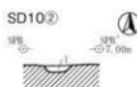
< SD9 >  
1 黒色粘質土 粘性あり。しまりやや弱い。  
φ1mm程度少量。φ1~2cm塊山ブロック微量。

< SD10① >  
1 黒色粘質土 粘性あり。しまりやや弱い。φ1mm程度微量。



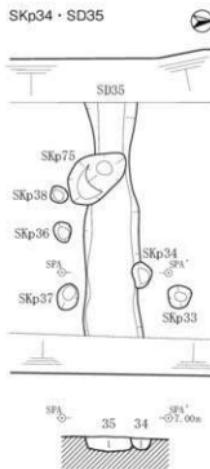
1 黒色粘質土 粘性あり。しまりやや弱い。φ1mm程度少量。

2 増灰色粘質土 粘性あり。しまりやや弱い。φ1cm塊山ブロック少量。

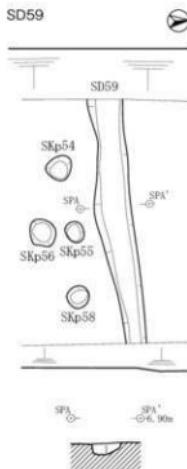


1 黒色粘質土 粘性あり。しまりやや弱い。  
φ1mm程度微量。

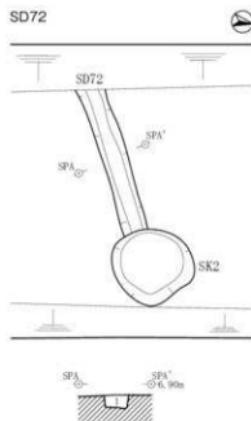
## 前谷地遺跡 遺構個別図 3



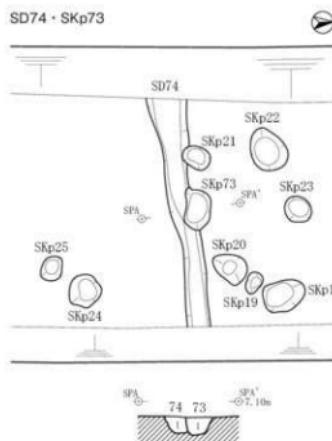
< SKp34 >  
1 黒色粘質土 粘性あり。しまりやや弱い。φ 1mm灰微量。  
< SD35 >  
1 黒色粘質土 粘性あり。しまりやや弱い。φ 1mm灰微量。



I 黒色粘質土 粘性あり。しまりやや弱い。φ 1mm灰少量。  
φ 1~2cm塊山ブロック少量。



1 増灰色粘質土 粘性あり。しまりややある。φ 1mm灰微量。

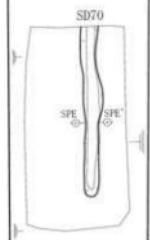
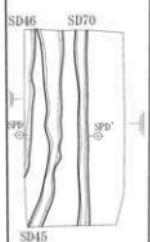
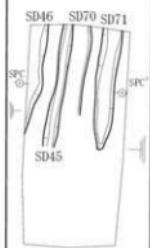
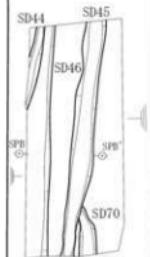
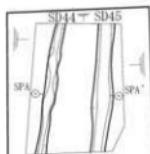


< SKp73 >  
1 黒色粘質土 粘性あり。しまりやや弱い。φ 1mm灰微量。  
φ 1cm塊山ブロック微量。

< SD74 >  
1 黒色粘質土 粘性あり。しまりやや弱い。φ 1mm灰微量。  
φ 1~2cm塊山ブロック微量。

図版 22

## 前谷地遺跡 遺構個別図 4



SD44・45①



&lt; SD44 &gt;

1 黒色粘質土 粘性あり。しまりやや弱い。φ 1mm炭微量。

&lt; SD45① &gt;

1 墓灰色粘質土 粘性あり。しまりやや弱い。φ 1mm炭微量。φ 2cm地山ブロック微量。

SD45②・46①



&lt; SD45② &gt;

1 墓灰色粘質土 粘性あり。しまりやや弱い。φ 1mm炭少。φ 2cm地山ブロック微量。

&lt; SD46① &gt;

1 墓灰色粘質土 粘性あり。しまりやや弱い。φ 1mm炭微量。

SD45③・46③・70①・71



&lt; SD45③ &gt;

1 墓灰色粘質土 粘性あり。しまりやや弱い。φ 1mm炭少。φ 2cm地山ブロック微量。

&lt; SD46③ &gt;

1 墓灰色粘質土 粘性あり。しまりやや弱い。φ 1mm炭微量。

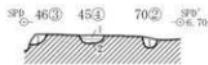
&lt; SD70① &gt;

1 灰色粘質土 粘性あり。しまりやや弱い。地山所在。

&lt; SD71 &gt;

1 灰色粘質土 粘性あり。しまりやや弱い。地山所在。

SD45④・46③・70②



&lt; SD45④ &gt;

1 黒色粘質土 粘性あり。しまりやや弱い。φ 1mm炭微量。

2 墓灰色粘質土 粘性あり。しまりやや弱い。φ 1mm炭少。φ 2cm地山ブロック微量。

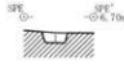
&lt; SD46③ &gt;

1 墓灰色粘質土 粘性あり。しまりやや弱い。φ 1mm炭微量。

&lt; SD70② &gt;

1 灰色粘質土 粘性あり。しまりやや弱い。地山所在。

SD70③

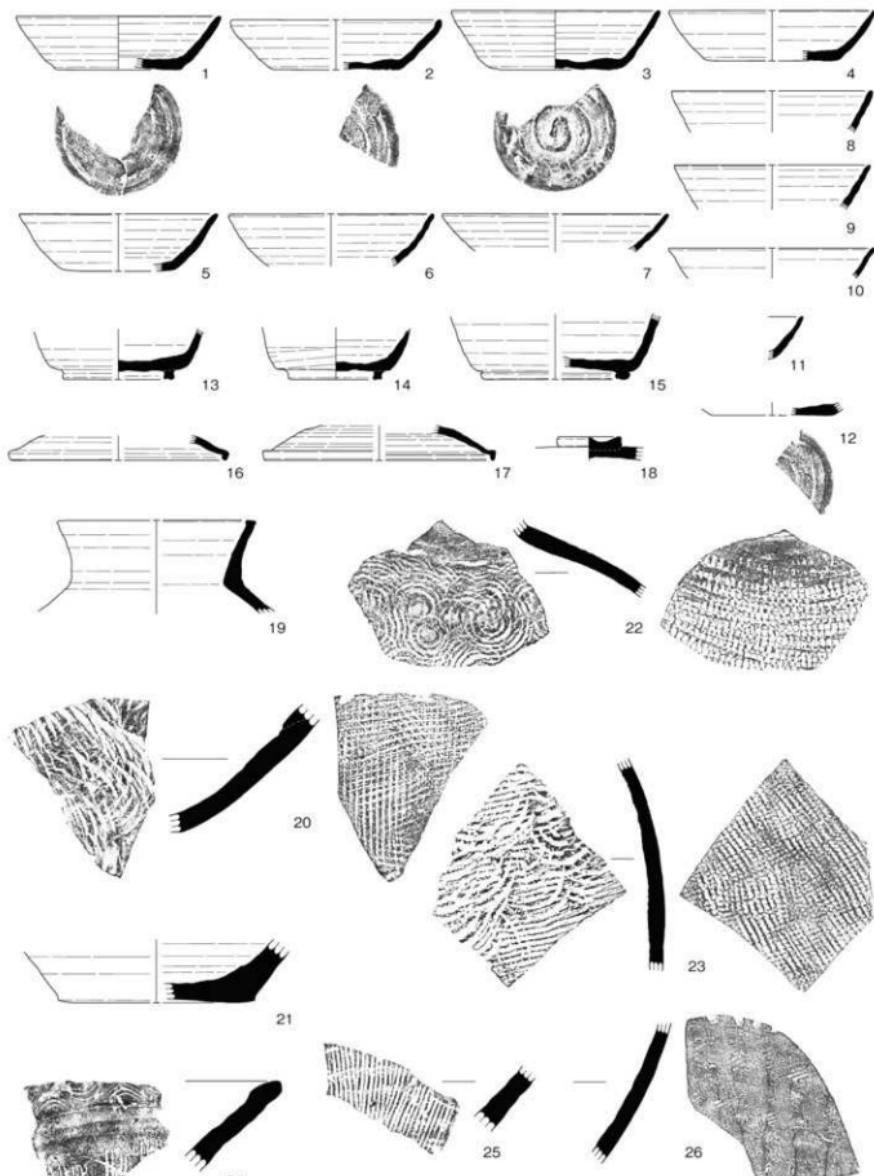


1 国色粘質土 粘性あり。しまりやや弱い。地山所在。

0 平面図 (1:80) 4m

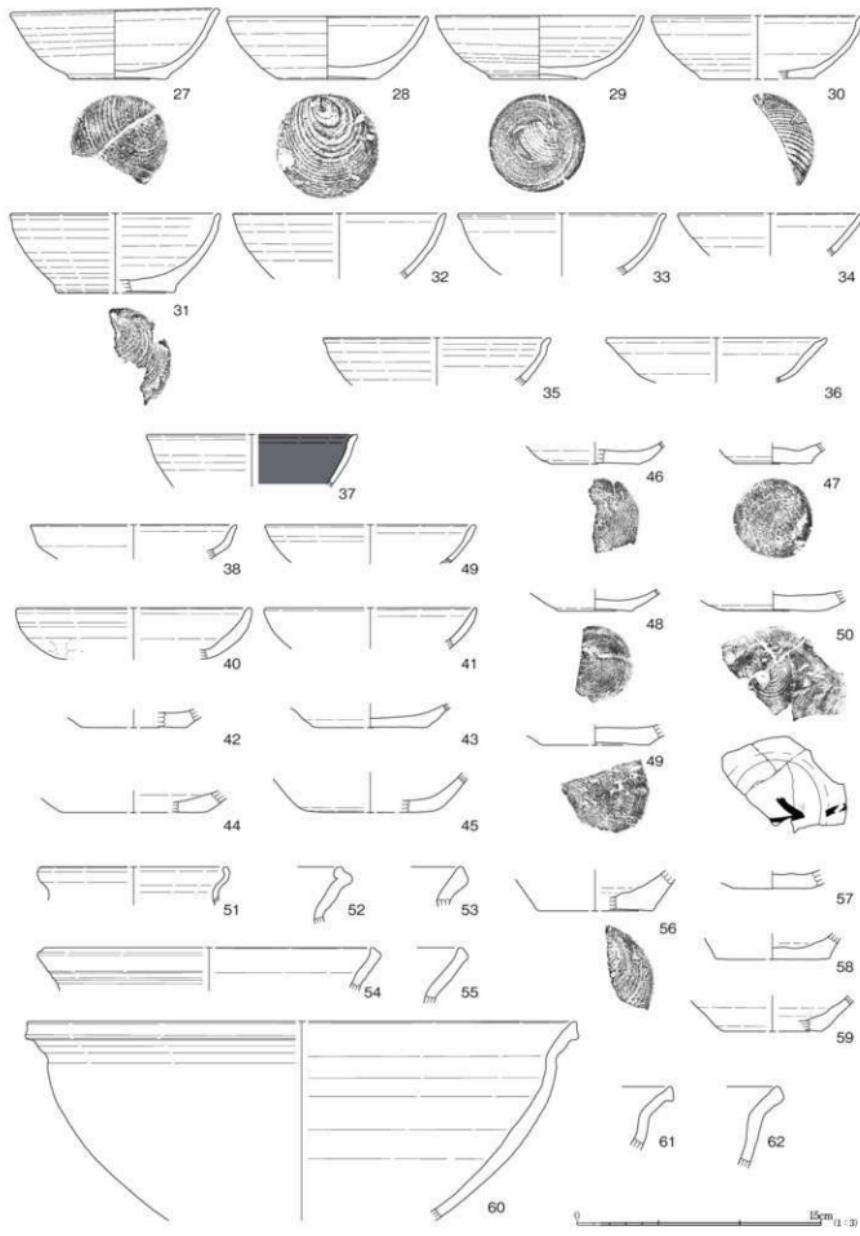
0 断面図 (1:40) 2m

## 布目遺跡 遺物 1

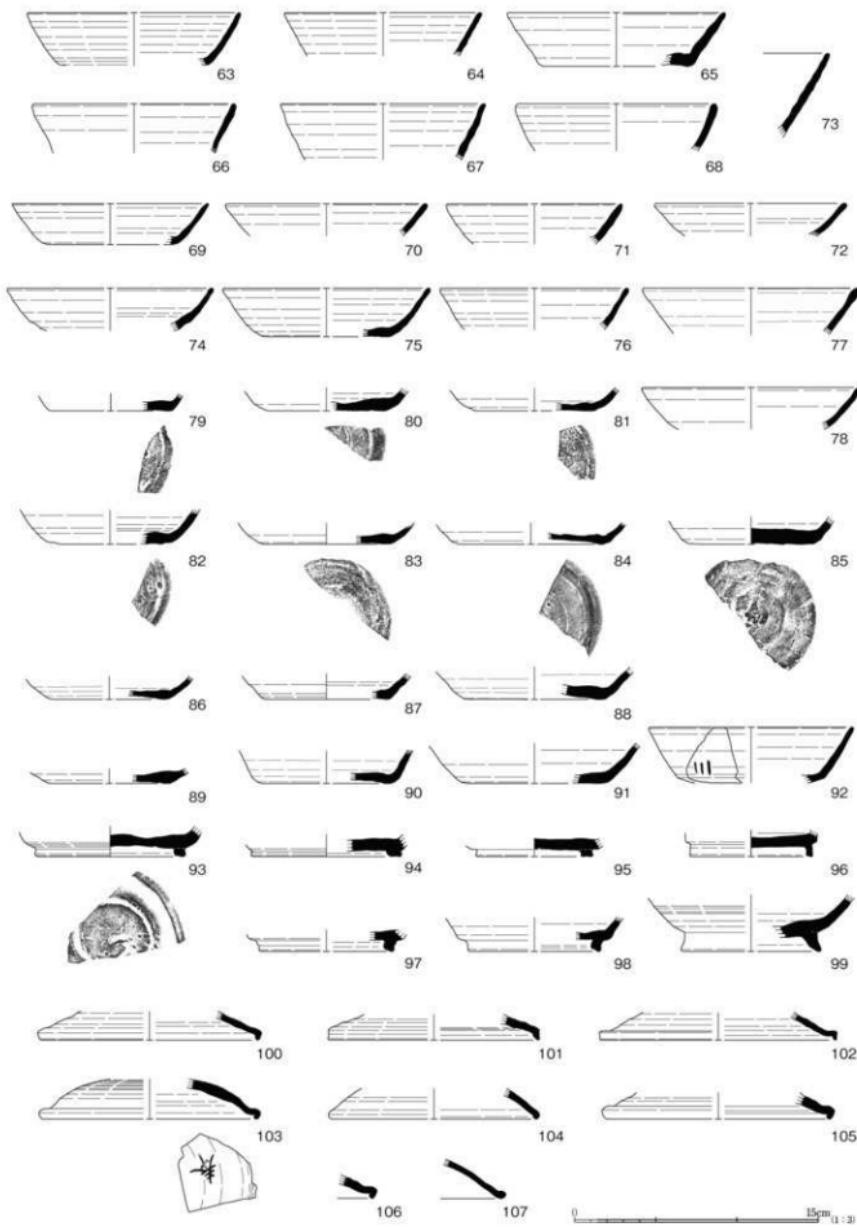


0 15cm (1:3)

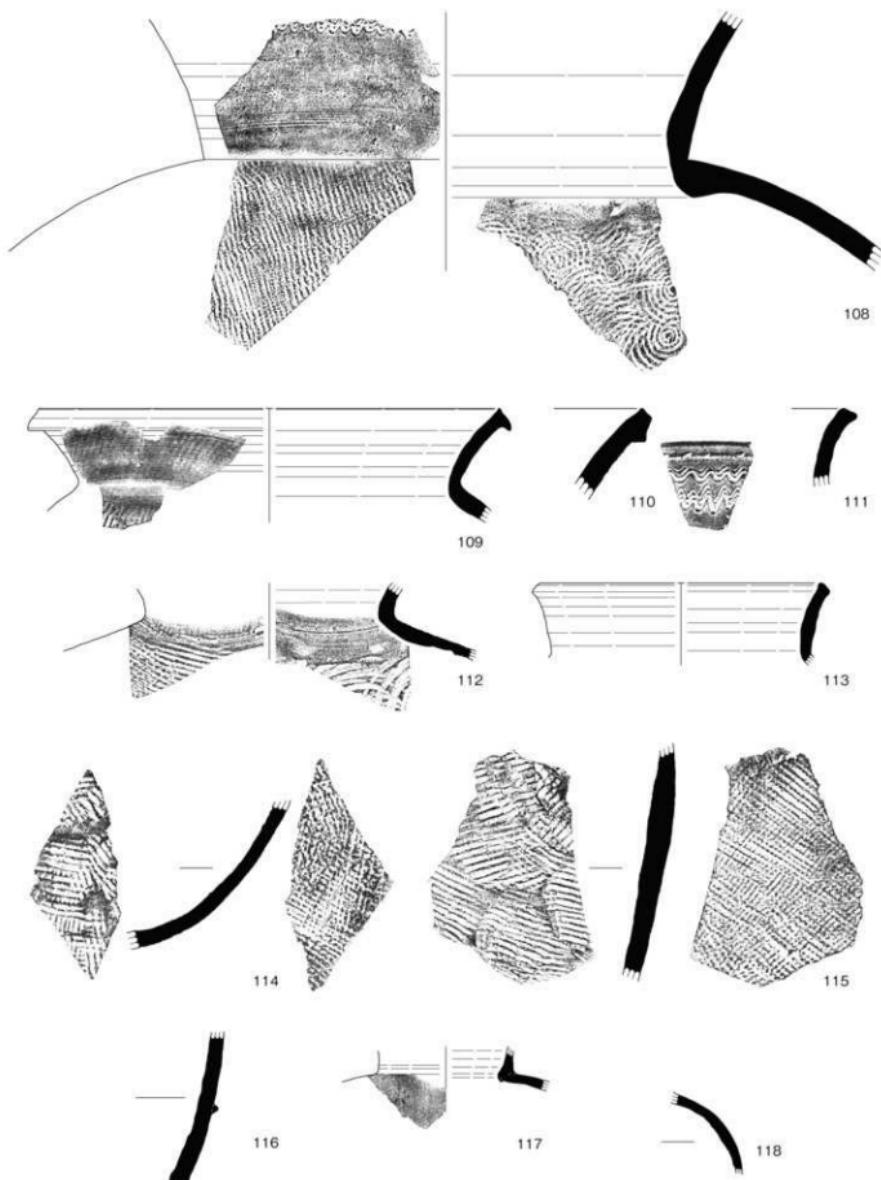
## 布目遺跡 遺物 2



## 前谷地遺跡 遺物 1

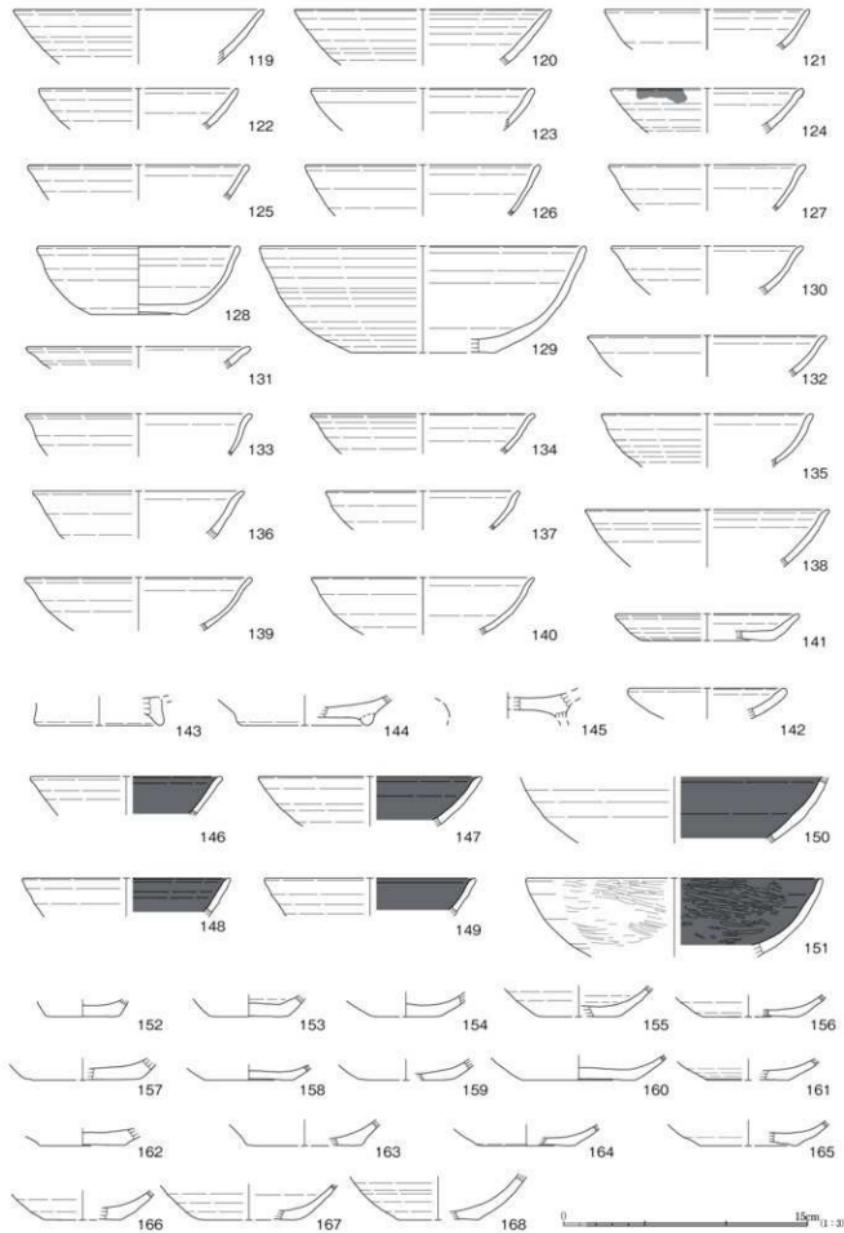


## 前谷地遺跡 遺物 2

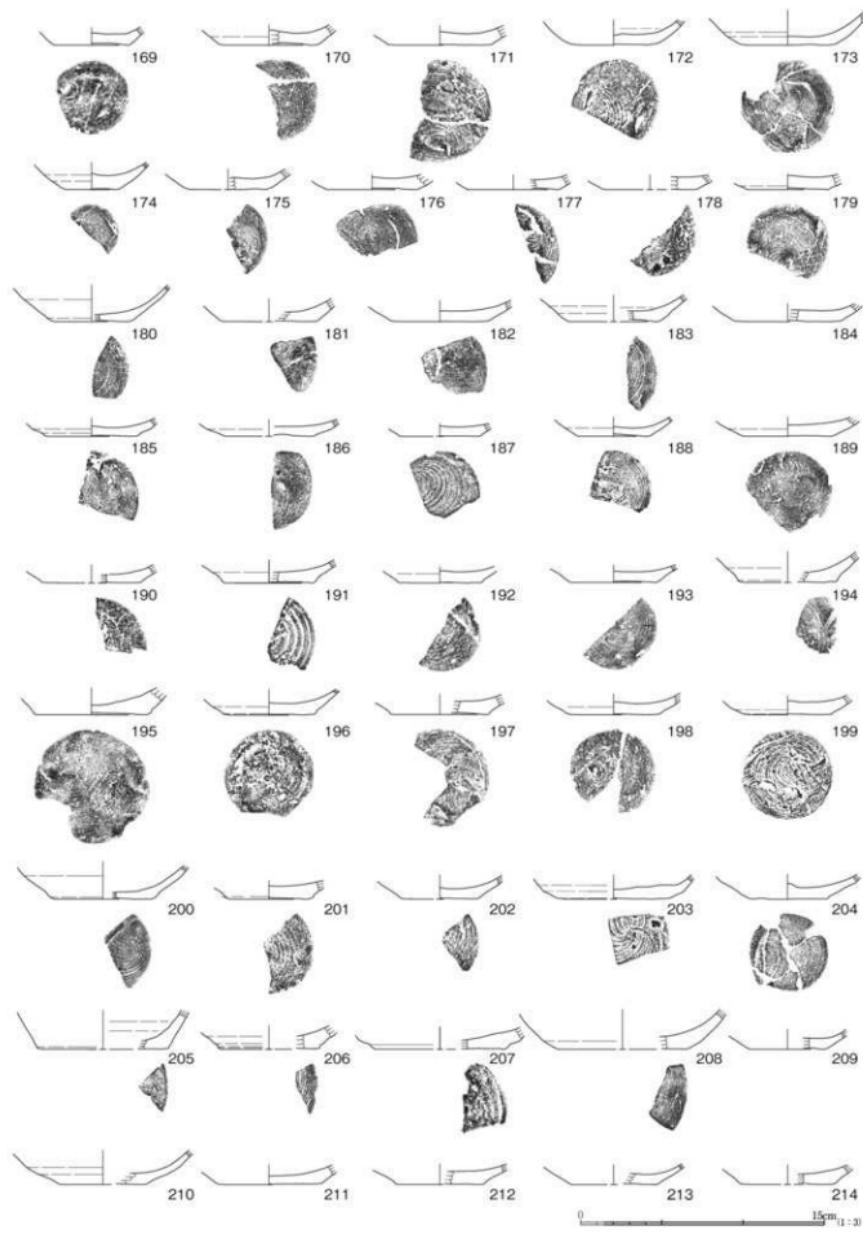


0 15cm (1:3)

## 前谷地遺跡 遺物 3

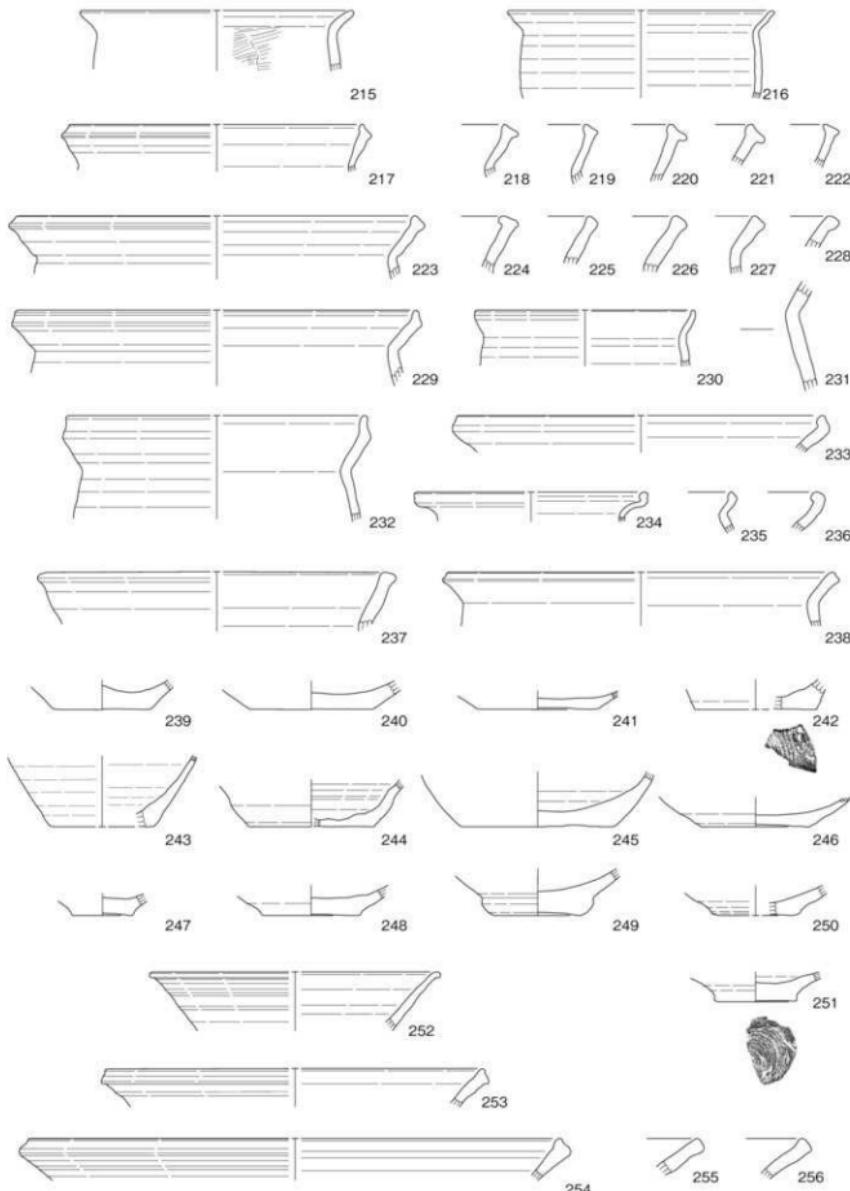


## 前谷地遺跡 遺物 4



0 15cm (1:3)

## 前谷地遺跡 遺物 5



0 15cm (1:3)

## 布目・前谷地遺跡 遺物 6



257



258



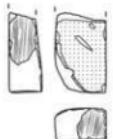
259



260



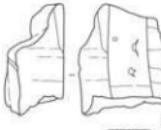
261



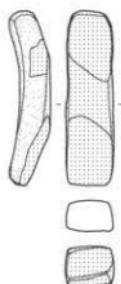
262



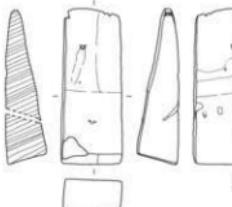
264



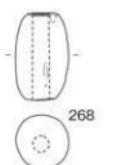
265



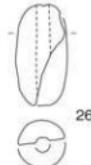
266



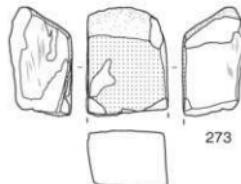
267



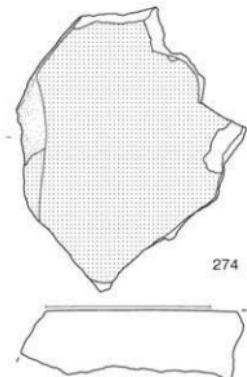
268



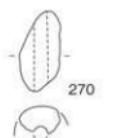
269



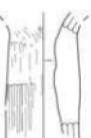
273



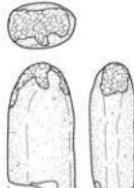
274



270



271



275



272

0 15cm (1:3)

0 5cm (272 1:3)

布目・前谷地遺跡



a. 調査区遠景

(南から)



b. 調査区遠景

(北東から)

布目遺跡 調査区 1



a. 調査区近景

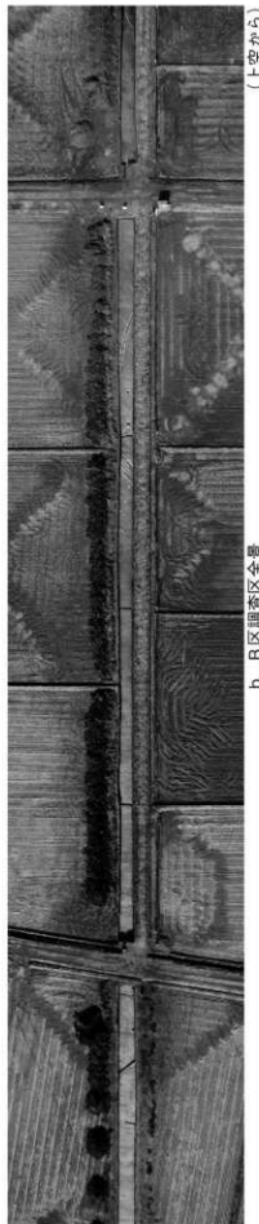
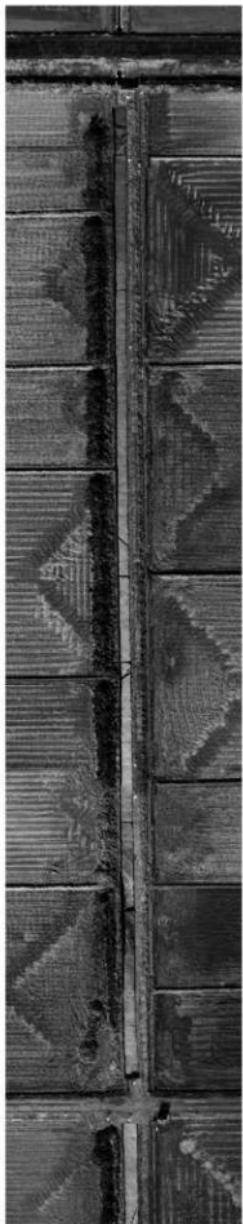
(南から)



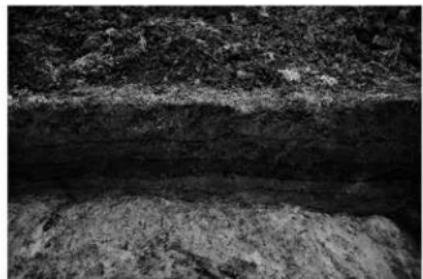
b. 調査区近景

(北から)

布目遺跡 調査区 2



布目遺跡 基本層序



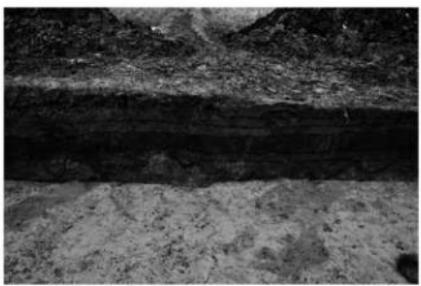
a. A区西壁基本層序  
(東から)



b. A区東壁基本層序  
(西から)



c. A区南壁基本層序  
(南から)



d. B区西壁 1 基本層序  
(東から)



e. B区西壁②基本層序  
(東から)



f. B区南壁基本層序  
(北から)

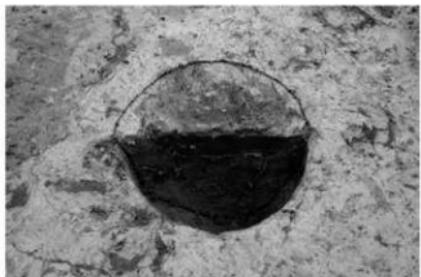
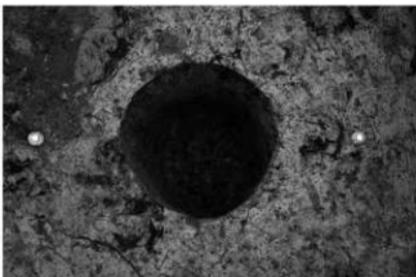
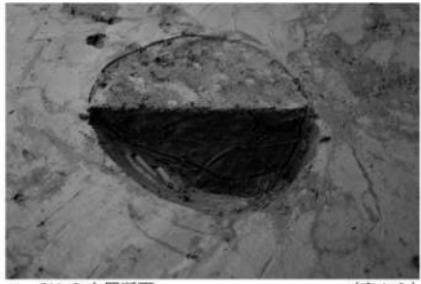
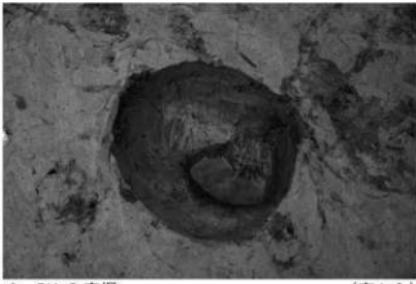


g. C区北壁基本層序  
(南から)

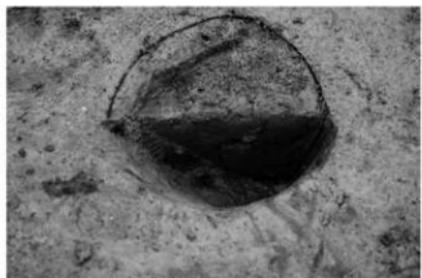


h. D区北壁基本層序  
(南から)

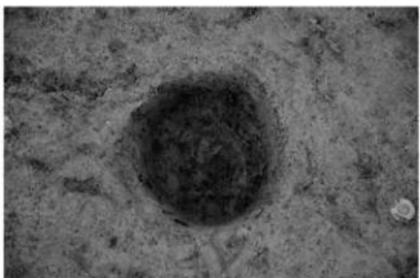
## 布目遺跡 ピット 1

a. SKp4 土層断面  
(南から)b. SKp4 完掘  
(南から)c. SKp5 土層断面  
(東から)d. SKp5 完掘  
(東から)e. SKp9 土層断面  
(南から)f. SKp9 完掘  
(南から)g. SKp27 土層断面  
(南から)h. SKp27 完掘  
(南から)

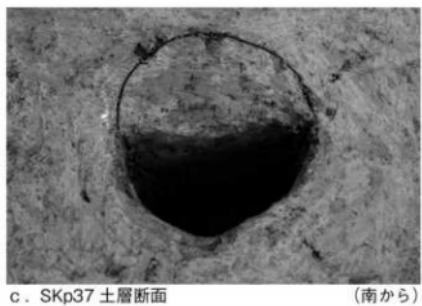
布目遺跡 ピット 2



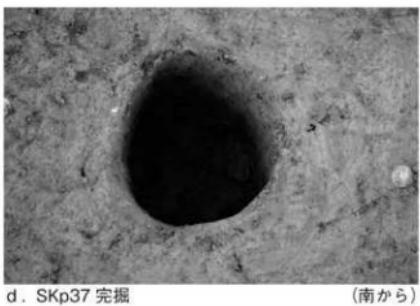
a . SKp33 土層断面 (西から)



b . SKp33 完掘 (南から)



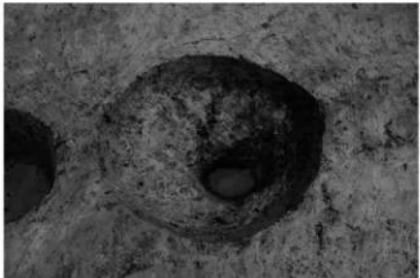
c . SKp37 土層断面 (南から)



d . SKp37 完掘 (南から)



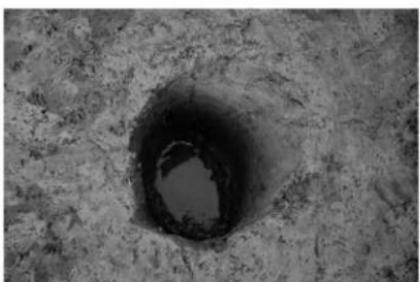
e . SKp53 土層断面 (西から)



f . SKp53 完掘 (西から)

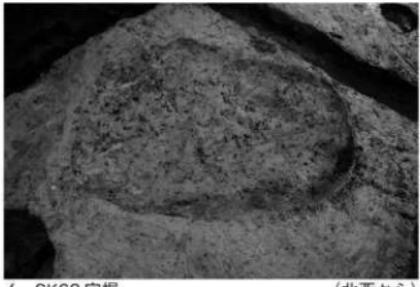


g . SKp55 土層断面 (西から)



h . SKp55 完掘 (南から)

## 布目遺跡 ピット3・土坑

a. SKp62 土層断面  
(西から)b. SKp62 完掘  
(西から)c. SK19 土層断面  
(西から)d. SK19 完掘  
(南から)e. SK63 土層断面  
(北西から)f. SK63 完掘  
(北西から)g. D区遺構集中箇所  
(南西から)h. 作業風景  
(北東から)

布目遺跡 溝 1



a . SD6 土層断面  
(東から)



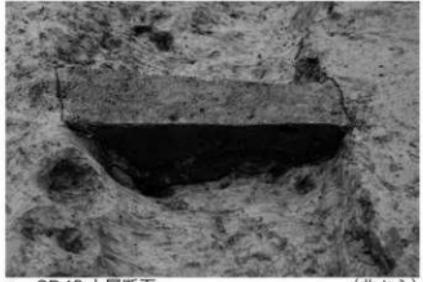
b . SD6 完掘  
(西から)



c . SD7 土層断面  
(東から)



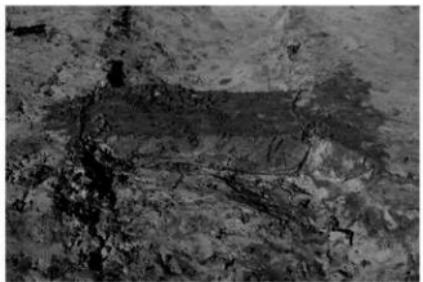
d . SD7 完掘  
(南から)



e . SD43 土層断面  
(北から)



f . SD43 完掘  
(西から)

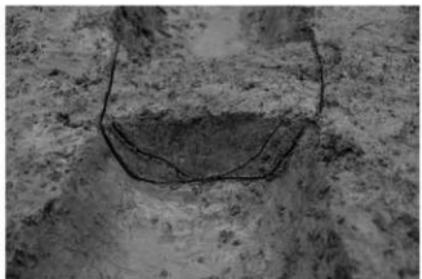


g . SD52 土層断面  
(南から)



h . SD52 完掘  
(南から)

## 布目遺跡 溝2



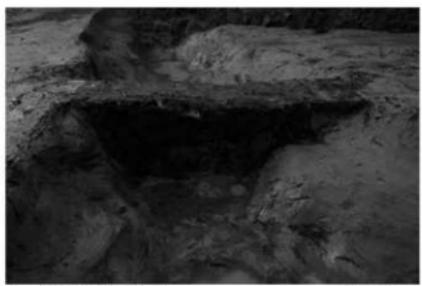
a . SD64 土層断面

(南西から)



b . SD64 完掘

(南西から)



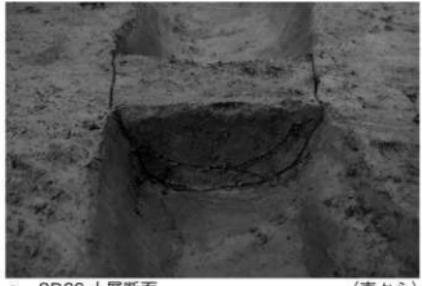
c . SD65 土層断面

(北東から)



d . SD65 完掘

(南西から)



e . SD66 土層断面

(東から)



f . SD66 完掘

(西から)



g . SD67 土層断面

(東から)

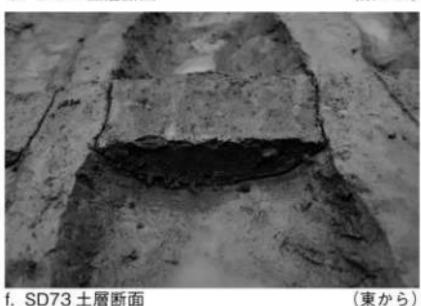
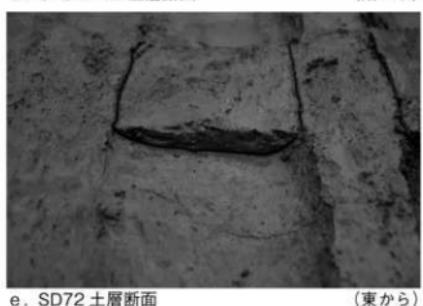
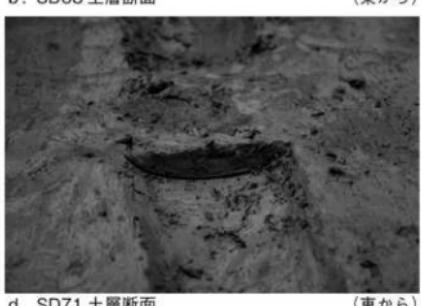
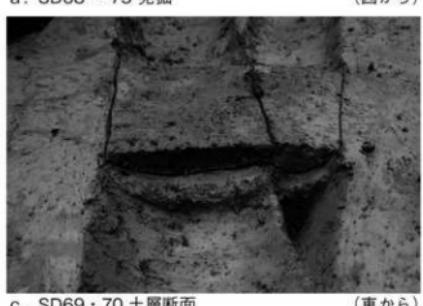


h . SD67 完掘

(西から)

図版 40

布目遺跡 溝 3



## 布目遺跡 河川跡



a. SD8 完掘状況

(南西から)



b. SD8 完掘状況

(南西から)



c. SD8 流木検出状況

(南西から)



d. SD8 流木検出状況

(西から)



e. SD8 流木検出状況

(東から)

前谷地遺跡 調査区 1



a. 調査区近景

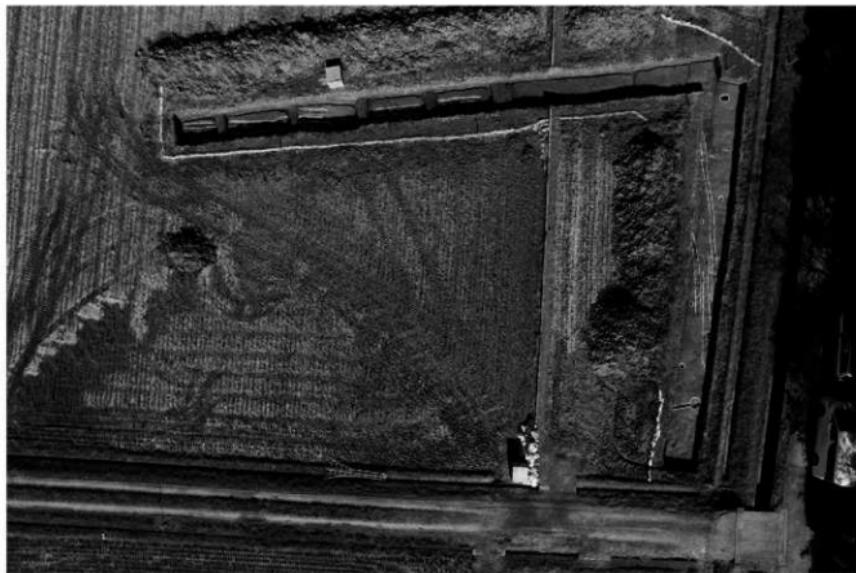
(南西から)



b. 調査区全景

(上空から)

前谷地遺跡 調査区 2



a. A区調査区全景

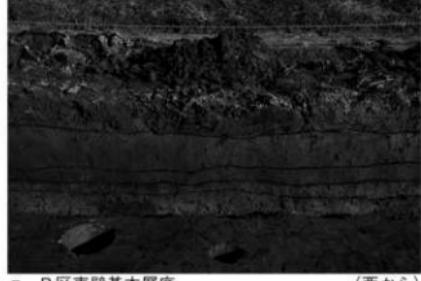
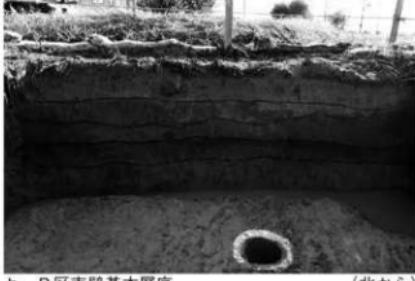
(上空から)



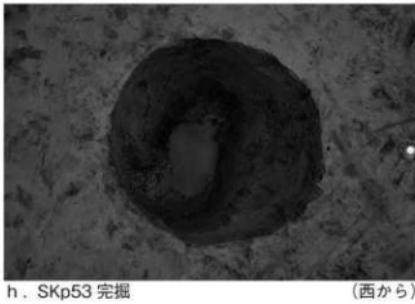
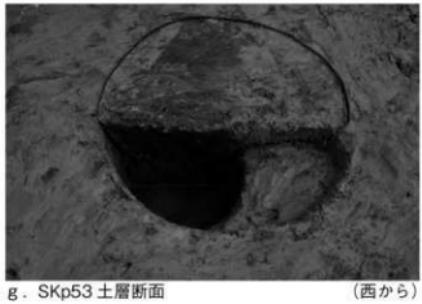
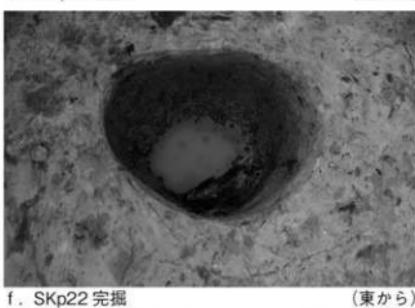
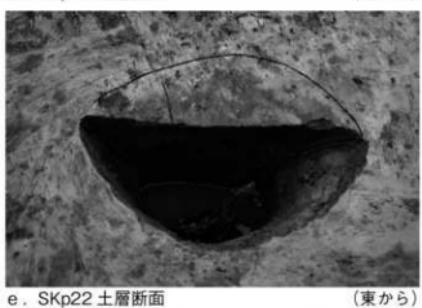
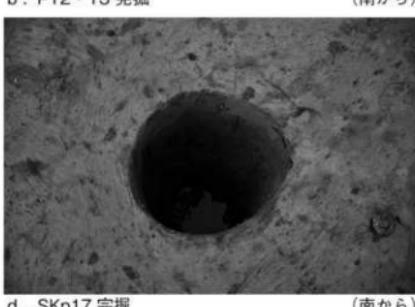
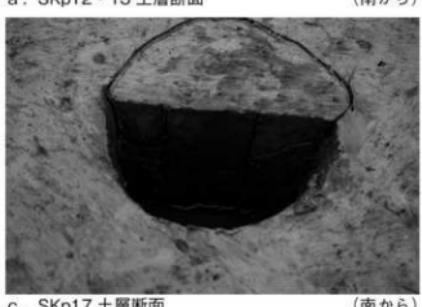
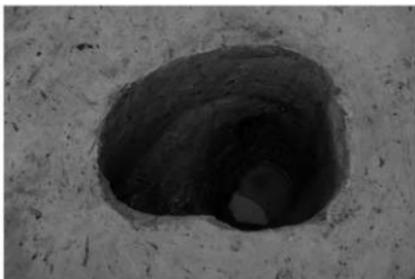
b. B区調査区全景

(上空から)

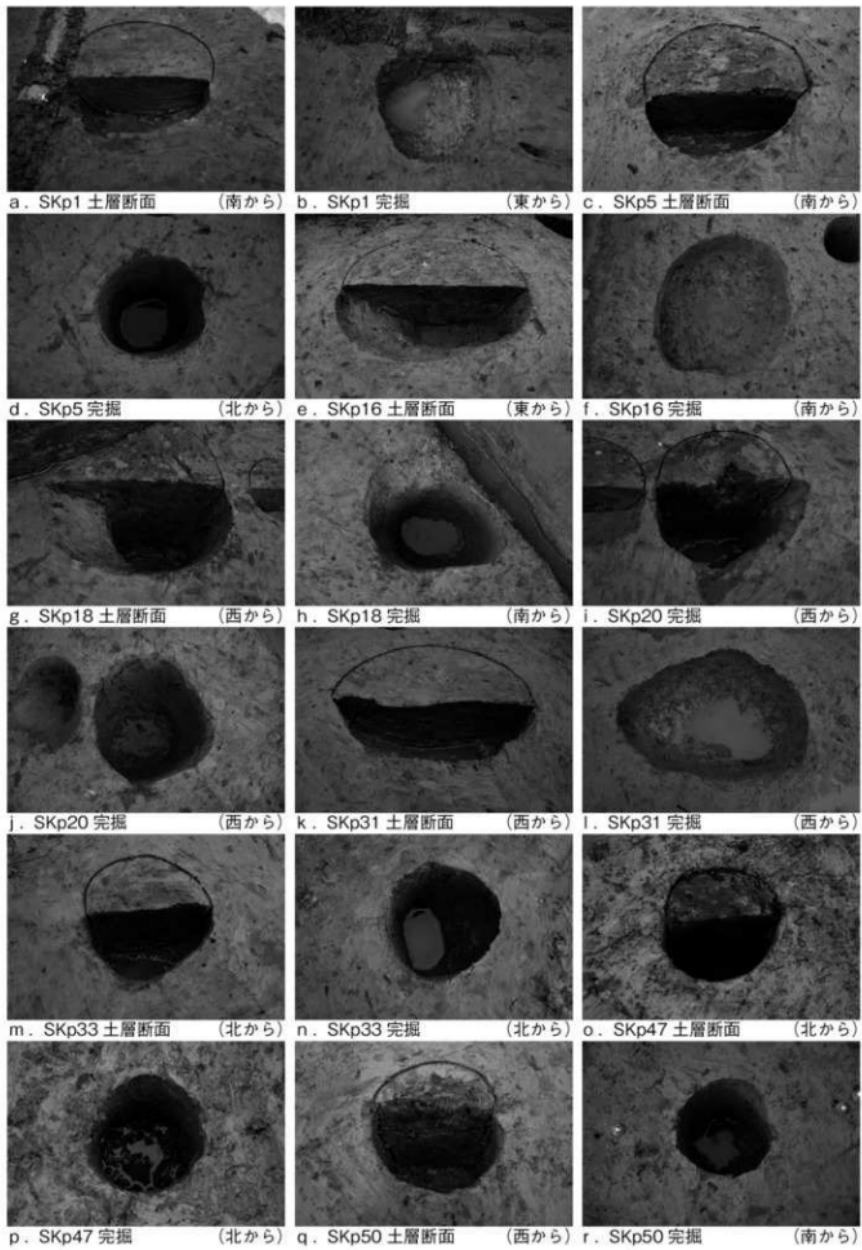
## 前谷地遺跡 基本層序

a. A区西壁基本層序  
(東から)b. A区北壁②基本層序  
(南から)c. A区北壁①基本層序  
(南から)d. A区東壁基本層序  
(西から)e. A区南壁基本層序  
(北から)f. B区北壁基本層序  
(南から)g. B区東壁基本層序  
(西から)h. B区南壁基本層序  
(北から)

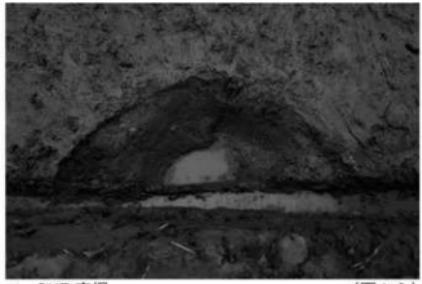
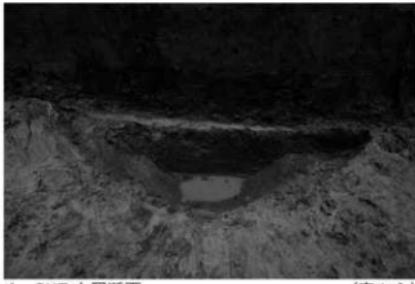
## 前谷地遺跡 ピット 1



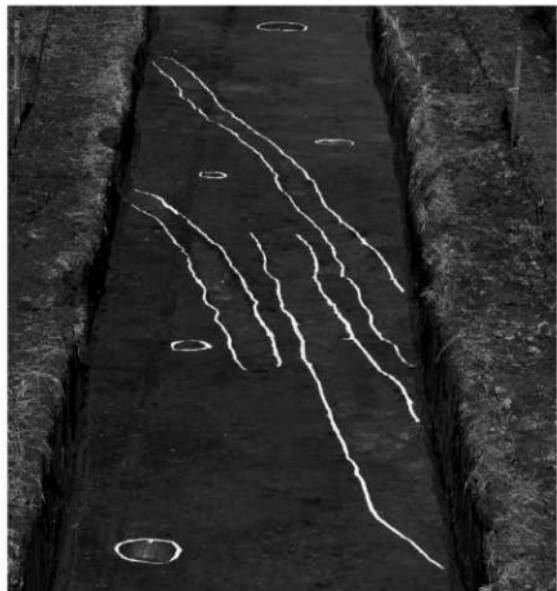
## 前谷地遺跡 ピット2



## 前谷地遺跡 土坑

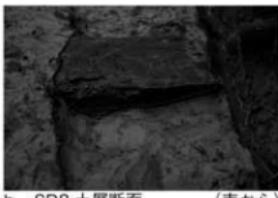
a. SK2 完掘  
(西から)b. SK2 土層断面  
(東から)c. SK2 遺物出土状況  
(西から)d. SK2 遺物出土状況  
(西から)e. SK7 完掘  
(西から)f. SK7 土層断面  
(東から)g. 作業風景  
(東から)h. 作業風景  
(南から)

前谷地遺跡 溝 1



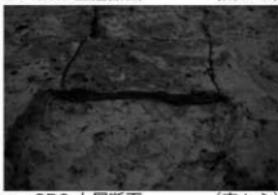
a. SD8～10 完掘

(南から)



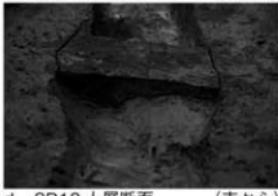
b. SD8 土層断面

(南から)



c. SD9 土層断面

(南から)



d. SD10 土層断面

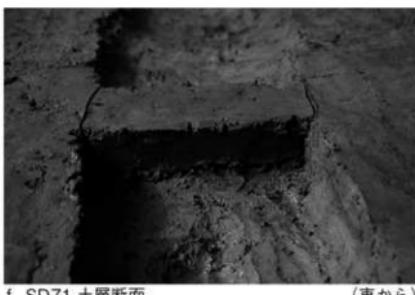
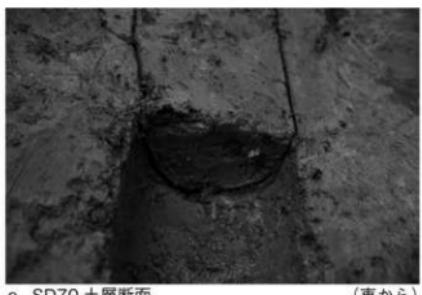
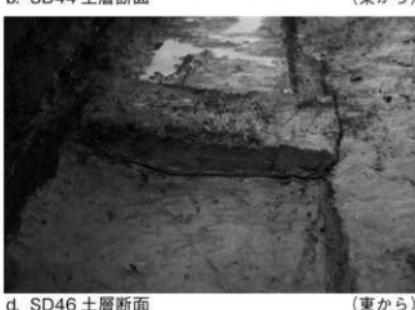
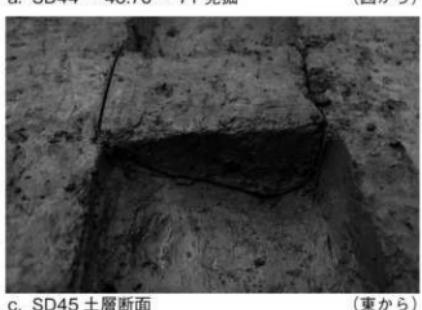
(南から)



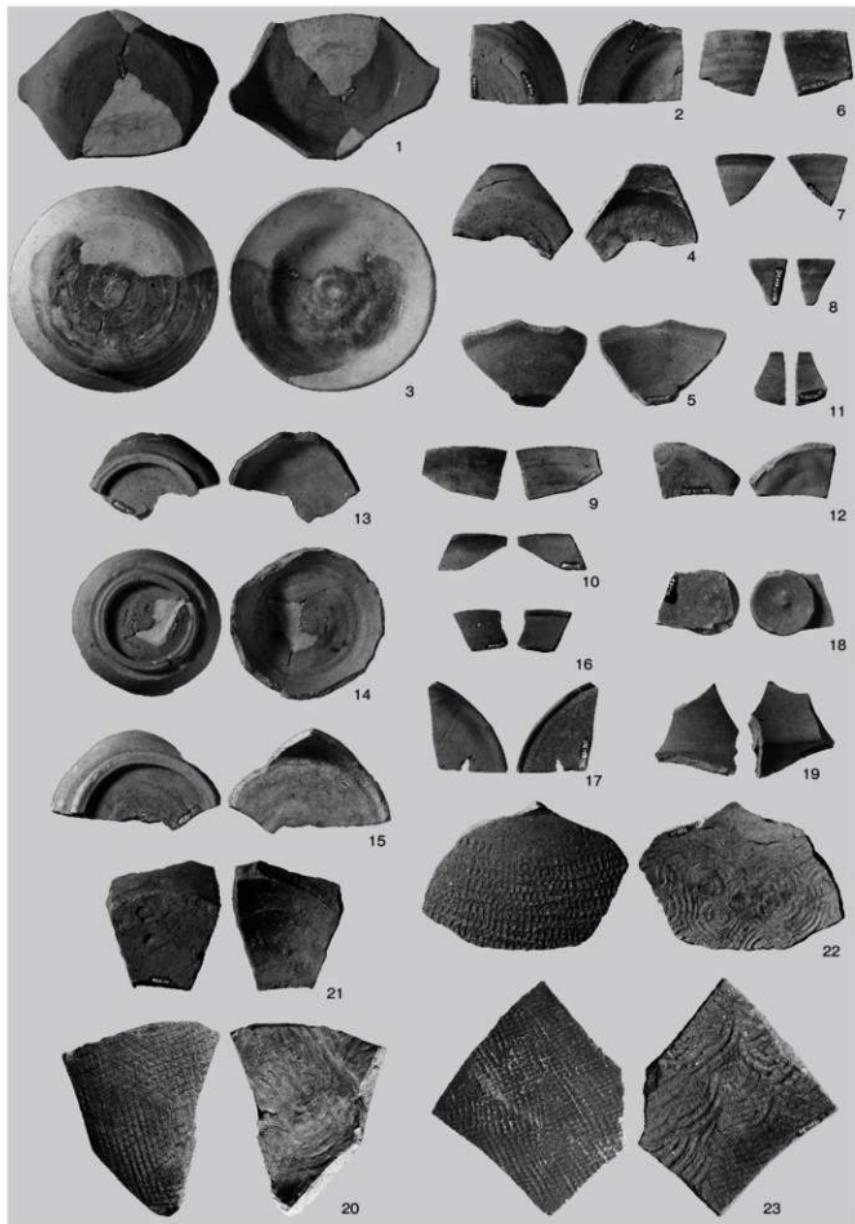
e. A区完掘

(南から)

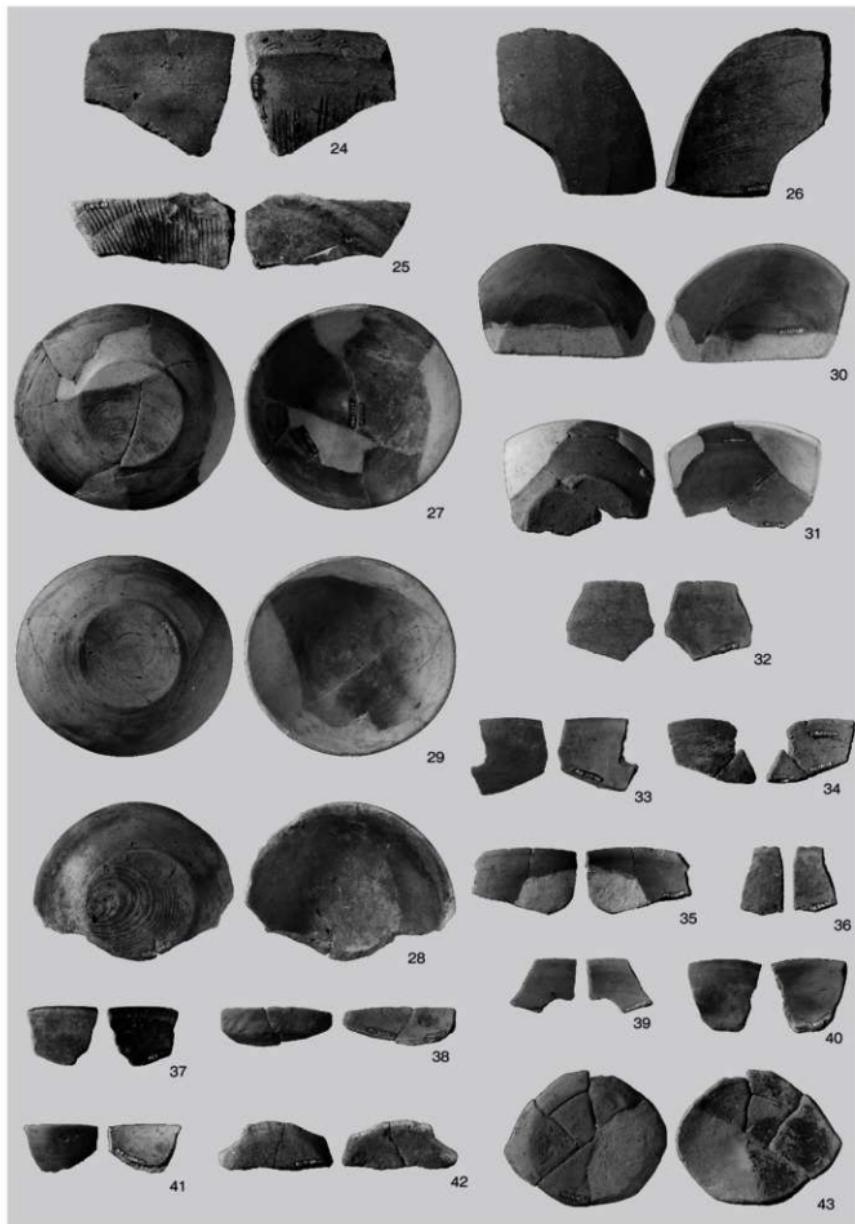
## 前谷地遺跡 溝 2



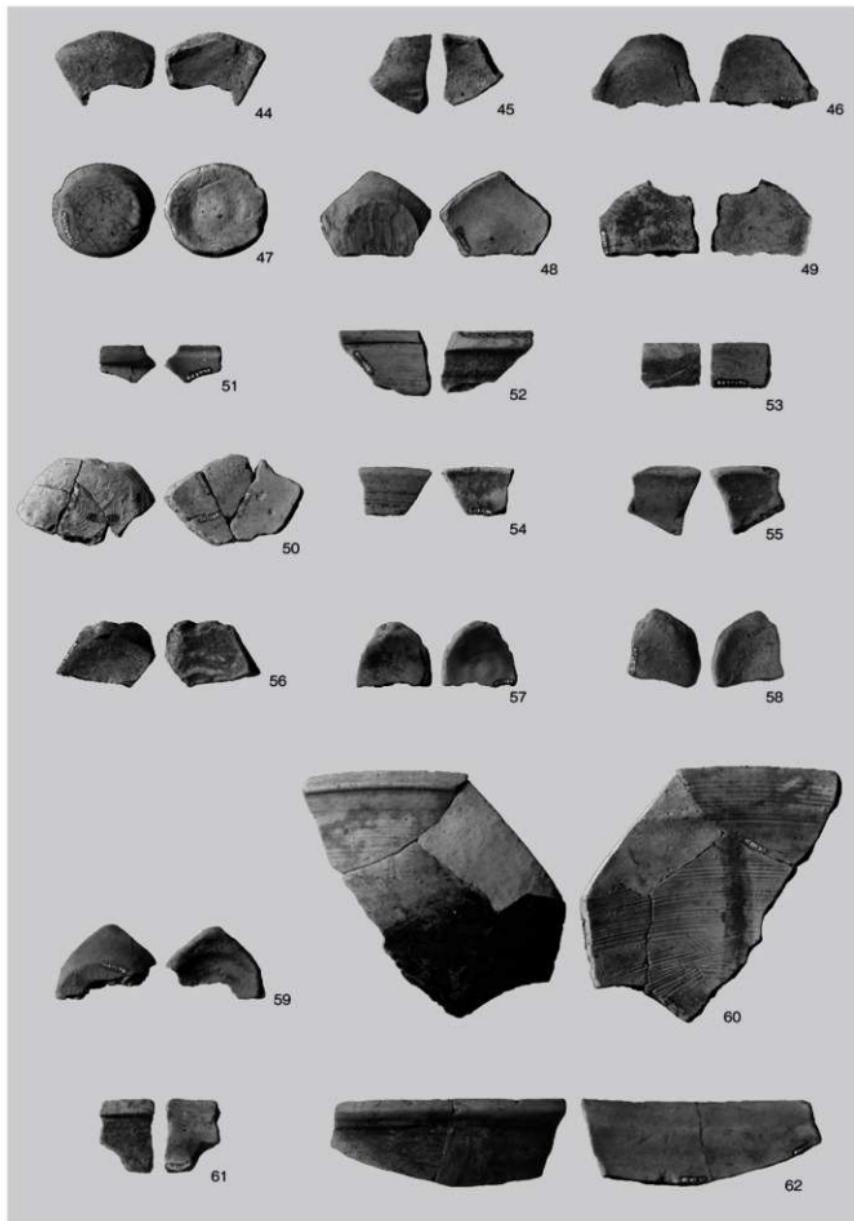
## 布目遺跡 遺物 1



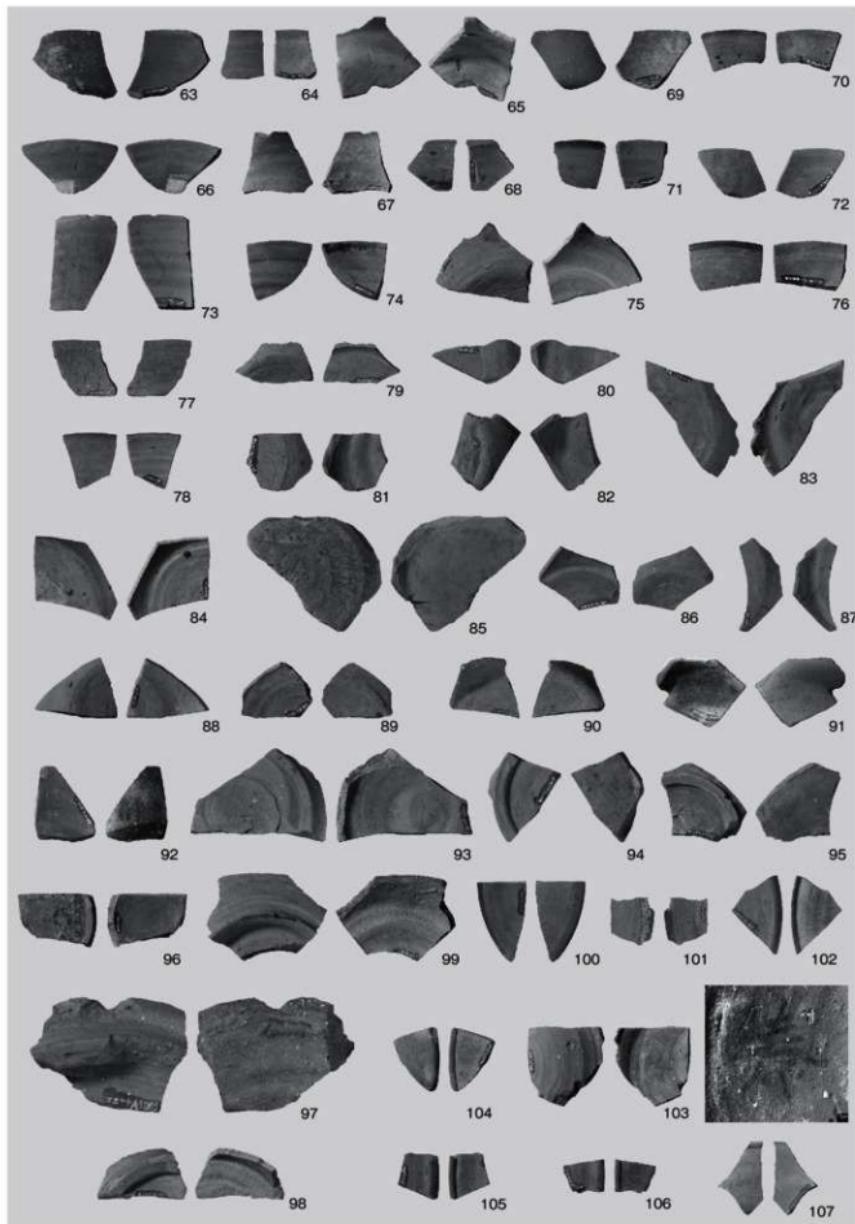
## 布目遺跡 遺物 2



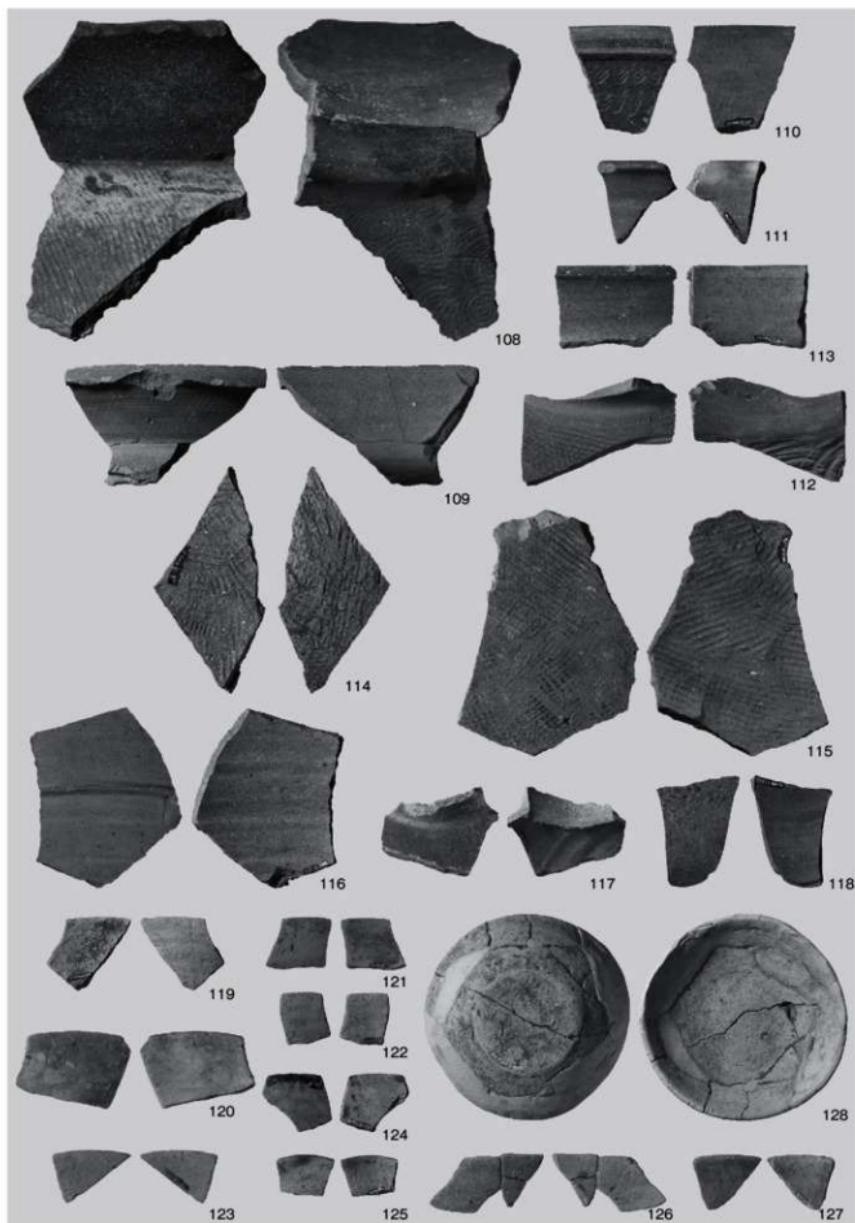
## 布目遺跡 遺物 3



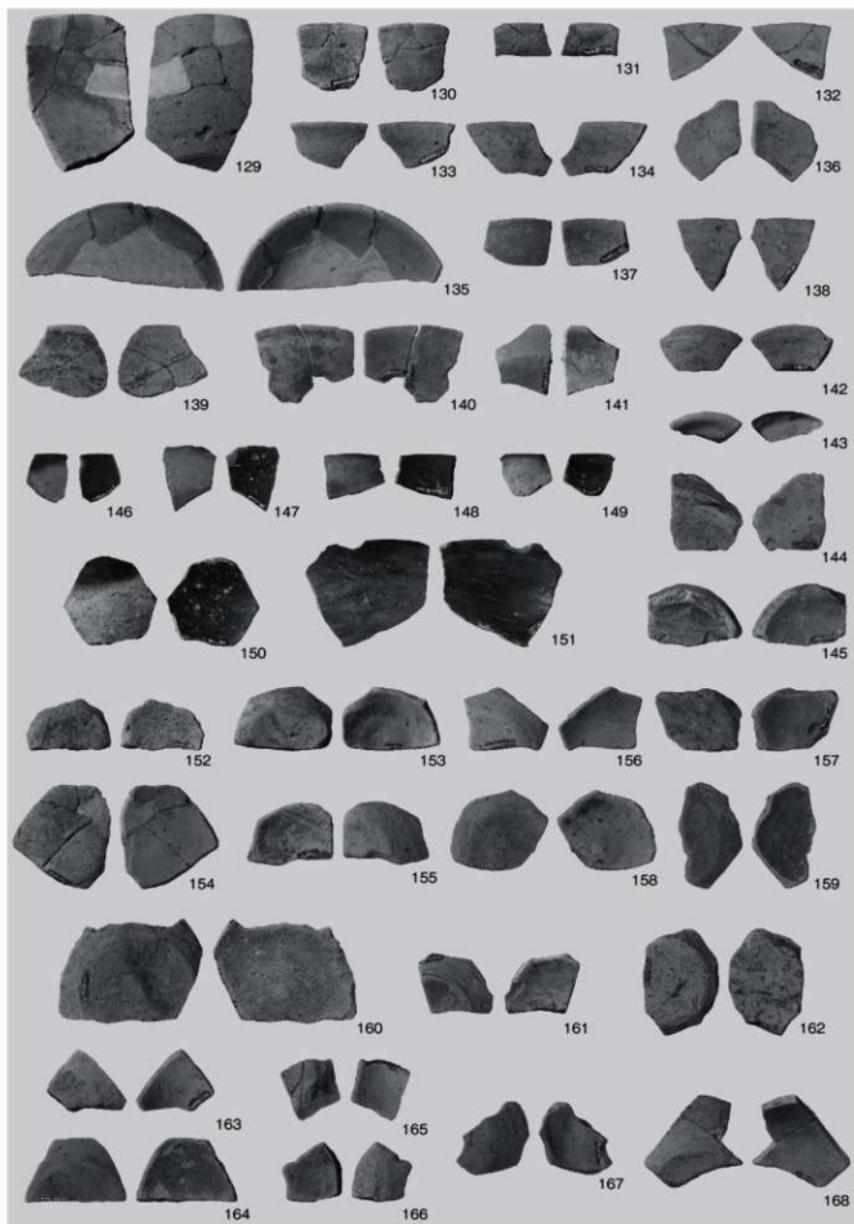
## 前谷地遺跡 遺物 1



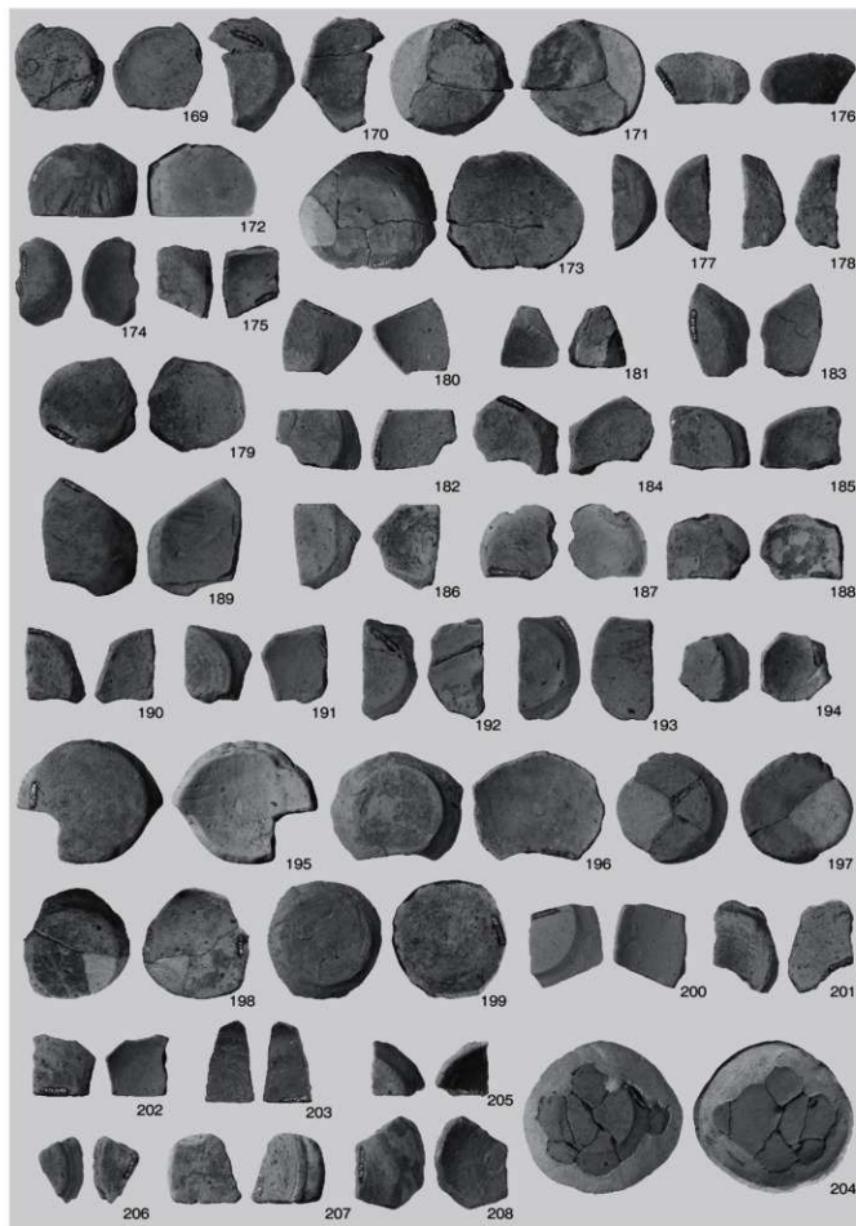
## 前谷地遺跡 遺物 2



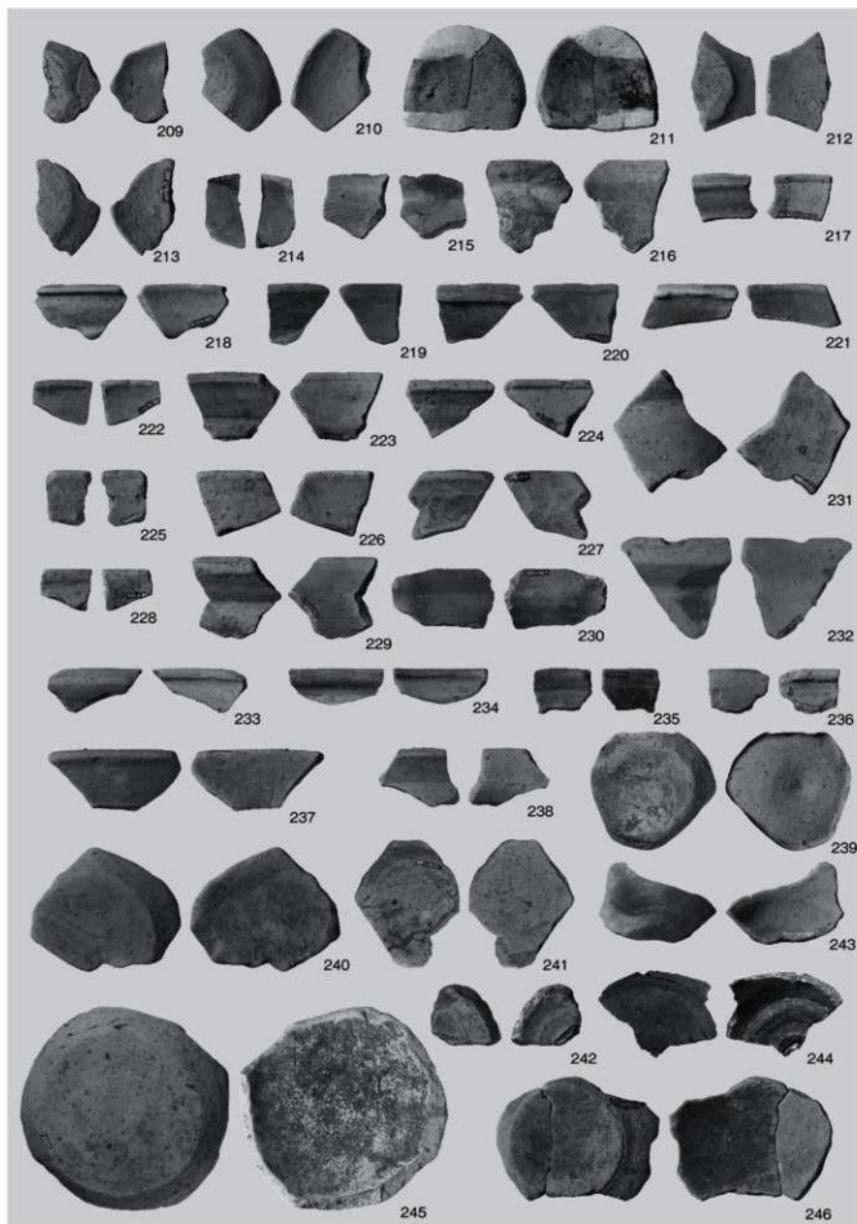
## 前谷地遺跡 遺物 3



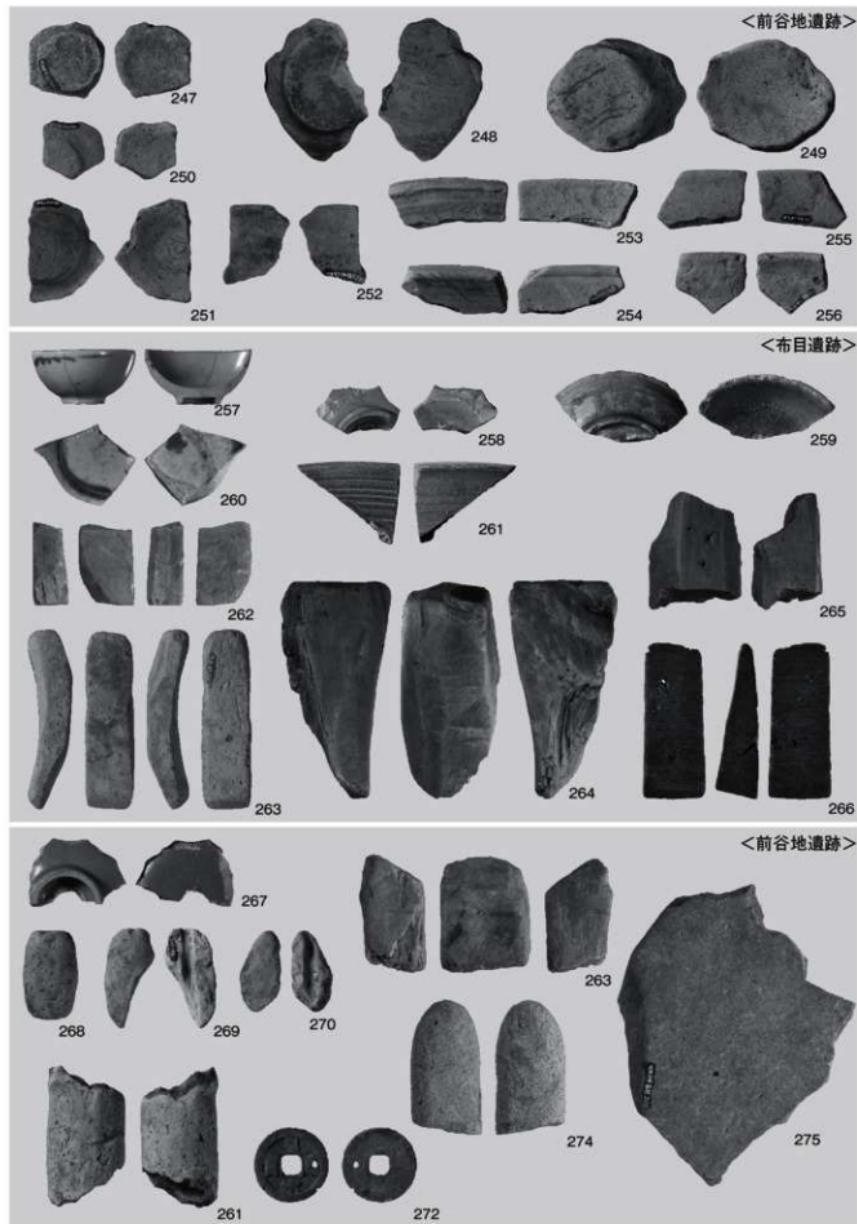
## 前谷地遺跡 遺物 4



## 前谷地遺跡 遺物 5



## 布目・前谷地遺跡 遺物 6



報告書抄録

ふりがな	ぬのめ・まえやち							
書名	布目・前谷地							
副書名	新潟県柏崎市 布目・前谷地遺跡発掘調査報告書							
卷次								
シリーズ名	柏崎市埋蔵文化財調査報告書 第94集							
編著者名	平吹 靖(編) / 丹 俊詞・春日 雅美・梅村 将盛(藤村ヒューム管株式会社) パリノ・サーヴェイ株式会社							
編集機関	柏崎市教育委員会(担当:博物館)							
発行者	柏崎市教育委員会							
所在地	945-8511 新潟県柏崎市中央町5番50号 TEL 0257-23-5111							
発行年月日	西暦 2019(平成31)年3月8日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯 °.′.″	東経 °.′.″	調査期間 西暦年月日	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ぬのめいせき 布目遺跡	にいがたけん ぬのめいせきし 新潟県 柏崎市 おおあざきし むない 大字堀 地内	15205	1020	37度 23分 03秒	138度 34分 22秒	20171108 ~ 20171202	1,075	県営ほ場 整備事業 高田中部地区
まえやちいせき 前谷地遺跡	にいがたけん まえやちいせきし 新潟県 柏崎市 おおあざきし らない 大字堀 地内	15205	1022	37度 19分 50秒	138度 34分 29秒	20171010 ~ 20171107	232	県営ほ場 整備事業 高田中部地区
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構			主な遺物	特記事項	
布目遺跡	集落	古代 (平安時代)	溝・土坑・ビット			土師器・須恵器		
前谷地遺跡	集落	古代 (平安時代)	溝・土坑・ビット			土師器・須恵器		
要約	布目遺跡は遺物包含層である黒色土層から平安時代(9世紀中葉頃)の土師器や須恵器などの遺物が出土し、確認面でビット、柱穴、土坑、溝状遺構、河川跡などの遺構を検出することができた。また、植物の腐植土層や流木等の埋もれ木が確認できたことから、湿地が遺跡周辺でも長い期間広がっていたと考えられる。 前谷地遺跡は遺物包含層が良好に残存しており、多数の平安時代(9世紀中葉頃)の土師器や須恵器などの遺物が出土した。「奉」と考えられる文字が書かれた墨書き土器も出土した。また、確認面でビット、柱穴、土坑、溝状遺構などの遺構を検出することができた。これらのことから、東側の標高の高く比較的高い地盤の良い場所を中心として、古代の集落などが展開していた可能性が高いと考えられる。 2つの遺跡は異なる立地にほぼ同時期に営まれていた集落跡といえる。							

※ 緯度・経度は世界測地系に基づく。

柏崎市埋蔵文化財調査報告書 第94集

## 布目・前谷地遺跡

—新潟県柏崎市 布目・前谷地遺跡発掘調査報告書—

平成31(2019)年3月2日 印刷

平成31(2019)年3月8日 発行

発行 柏崎市教育委員会

〒945-8511 新潟県柏崎市中央町5番50号

印刷 (株)小田

〒945-1352 新潟県柏崎市大字安田4153-1